
**第6次桂川町総合計画策定のための
まちづくり住民アンケート**

**令和2年（2020年）9月
桂川町**

～ 目 次 ～

I 調査の概要.....	1
II 回答者の属性.....	2
1 性別.....	2
2 年齢（令和2年7月1日現在）.....	2
3 居住地区.....	3
4 居住年数.....	4
5 以前の居住地.....	4
6 同居する家族構成.....	5
7 現在お住まいの住宅.....	5
8 職業.....	6
9 勤務先・就学先.....	6
10 通勤・通学の交通手段.....	7
III 調査結果.....	8
【1】住みやすさ等について.....	8
1 桂川町での住みやすさ.....	8
2 住みやすい理由.....	11
3 住みにくい理由.....	14
4 桂川町への愛着度.....	17
5 定住意向.....	18
6 住み替える理由.....	20
【2】桂川町の人口について.....	21
1 人口減少について.....	21
2 人口減少に関する不安.....	23
3 人口減少に対して力を入れるべき施策.....	24
【3】結婚について.....	26
1 結婚支援事業として取り組むべき施策.....	26
【4】まちづくりの満足度と重要度について.....	27
1 各施策の満足度と重要度.....	27
【5】町政情報について.....	42
1 町政情報を知る方法.....	42
【6】地域コミュニティ活動・住民との協働について.....	43
1 地域コミュニティ活動への参加状況.....	43
2 参加したことがない理由.....	44
3 参加したいと思う活動・今後必要と思う活動.....	45
4 近所づきあい.....	46
5 支え合う地域づくりのために必要なこと.....	48
【7】高齢者福祉・子育て支援について.....	50
1 高齢社会に対応するために必要な取り組み.....	50
2 子育て支援として必要な取り組み.....	52

【8】生涯学習（活動）について	54
1 生涯学習（活動）への関わり	54
2 参加している・参加したい生涯学習（活動）の内容	56
【9】生活環境について	59
1 生活環境改善のために必要な施設の整備	59
2 自然環境保全・生活環境美化のために必要な取り組み	61
3 消防・防災対策に必要な取り組み	63
【10】都市基盤について	65
1 必要な道路・交通手段	65
【11】産業振興について	66
1 農業振興のために必要な取り組み	66
2 商工業振興のために必要な取り組み	68
3 観光の開発・振興のために必要な取り組み	69
【12】王塚古墳について	71
1 王塚古墳の知名度	71
2 王塚古墳を活かしたまちづくりで必要な取り組み	73
【13】広域事業の推進について	74
1 まちづくりにおける広域事業	74
【14】これからのまちづくりについて	76
1 今後取り組むべきまちづくり	76
資料 調査票	78

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第6次桂川町総合計画」の見直しに当たって、桂川町のまちづくりに関する町民の意識や意見等を把握し、今後の計画づくりのための基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

本町に住民登録（令和2年7月1日現在）されている全世帯

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査時期】

令和2（2020）年7月10日～8月31日

【回収結果】

配布数 ----- 6,202 件

有効回収数 ----- 2,168 件

有効回収率 ----- 35.0%

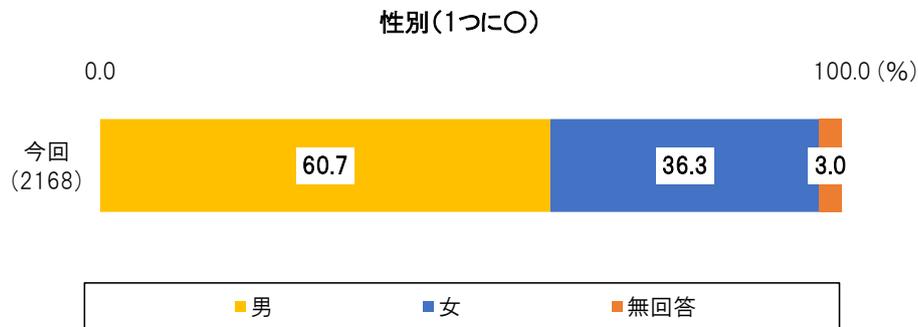
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) グラフの「前回」「今回」は、平成22年度（第5次桂川町総合計画）、令和2年度（本第6次桂川町総合計画）の各アンケート調査の結果を示している（人口ビジョン・総合戦略の設問除く）。設問や選択肢の内容は、一部完全一致しない場合がある。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの件数の合計と全体の件数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 本文中では、百分率（%）で表記された数値同士の差の単位は「ポイント」を用いている。
- (7) 表・グラフの見出し、選択肢は表記の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

Ⅱ 回答者の属性

1 性別

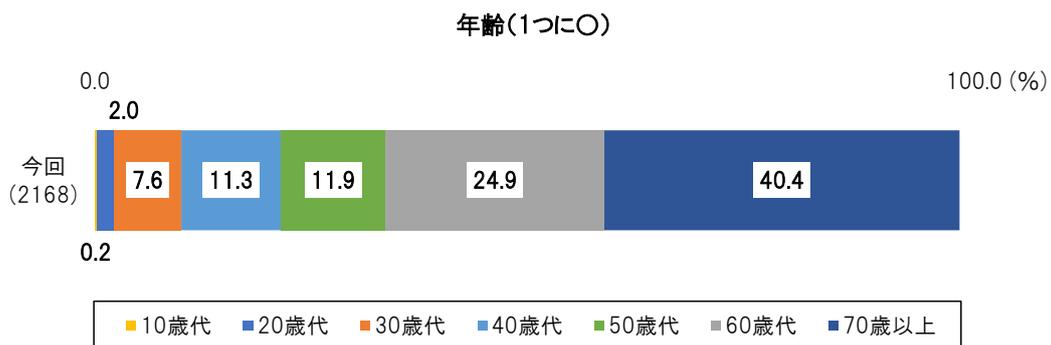
回答者の性別については、「男性」が 60.7%、「女性」が 36.3%と、男性の割合が高い。



1. 男性	1,316
2. 女性	786
無回答	66
合 計	2,168

2 年齢（令和2年7月1日現在）

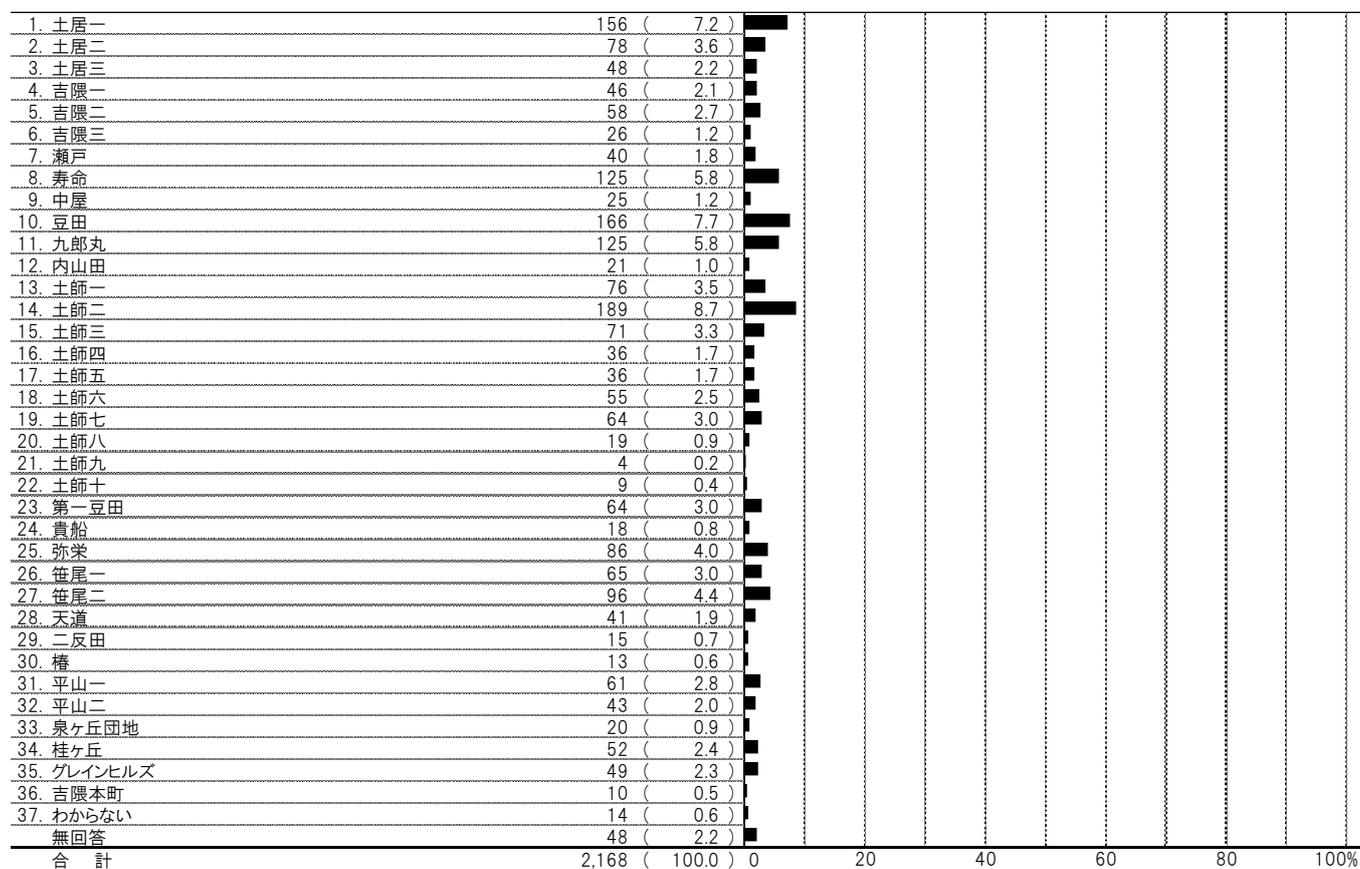
回答者の年齢については、「70歳以上」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「60歳代」(24.9%)、「50歳代」(11.9%)の順となっており、『60歳以上（合計）』で全体の6割以上(65.3%)を占めている。



1. 10歳代	4
2. 20歳代	44
3. 30歳代	165
4. 40歳代	245
5. 50歳代	259
6. 60歳代	539
7. 70歳以上	876
無回答	36
合 計	2,168

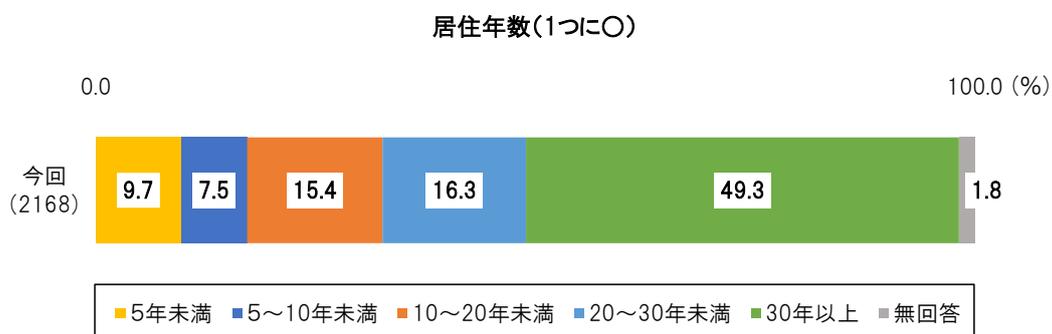
3 居住地区

回答者の居住地区については、「土師二」の割合が 8.7%と最も高く、次いで「豆田」(7.7%)、「土居一」(7.2%)の順となっている。



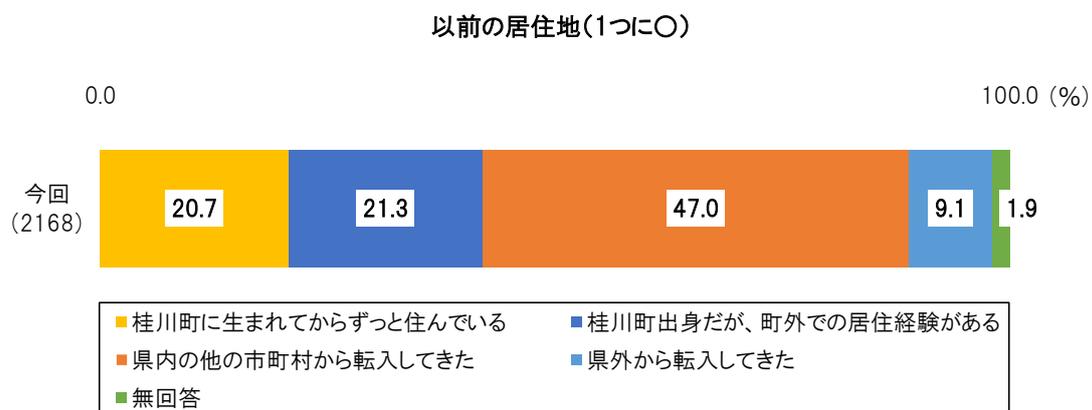
4 居住年数

回答者の居住年数については、「30年以上」の割合が49.3%と最も高く、次いで「20年～30年未満」(16.3%)、「10年～20年未満」(15.4%)の順となっている。



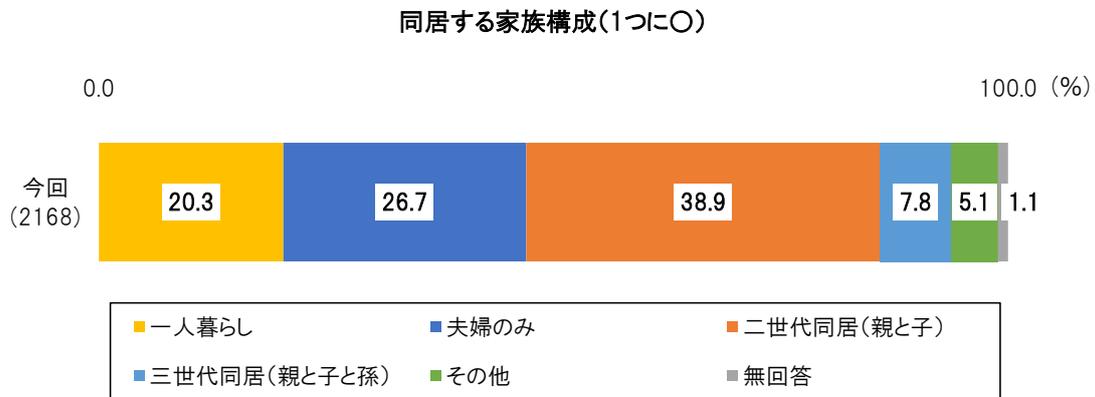
5 以前の居住地

回答者の以前の居住地については、「県内の他の市町村から転入してきた」の割合が47.0%と最も高く、次いで「桂川町出身だが、町外での居住経験がある」(21.3%)、「桂川町に生まれてからずっと住んでいる」(20.7%)の順となっている。



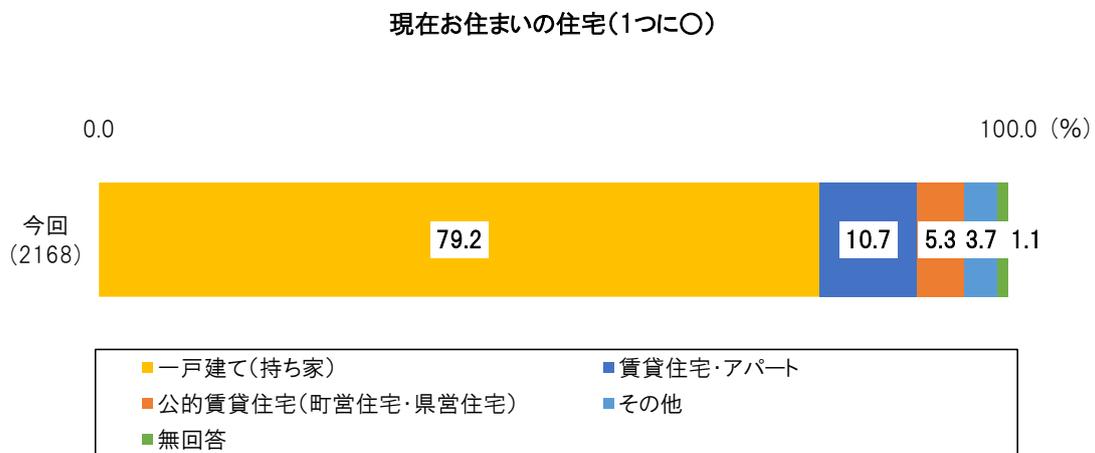
6 同居する家族構成

回答者の同居する家族構成については、「二世世代同居（親と子）」の割合が38.9%と最も高く、次いで「夫婦のみ」（26.7%）、「一人暮らし」（20.3%）の順となっている。



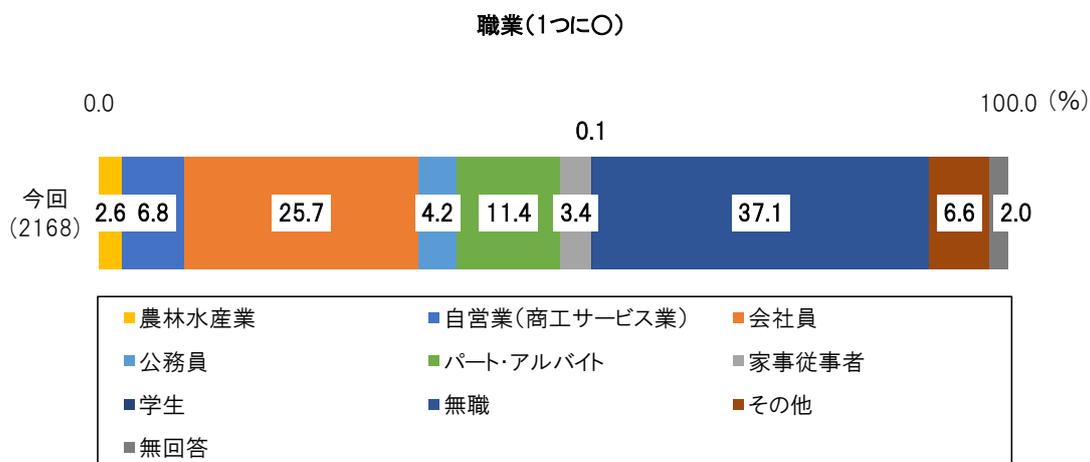
7 現在お住まいの住宅

回答者の現在お住まいの住宅については、「一戸建て（持ち家）」の割合が79.2%と最も高く、次いで「賃貸住宅・アパート」（10.7%）、「公的賃貸住宅（町営住宅・県営住宅）」（5.3%）の順となっている。



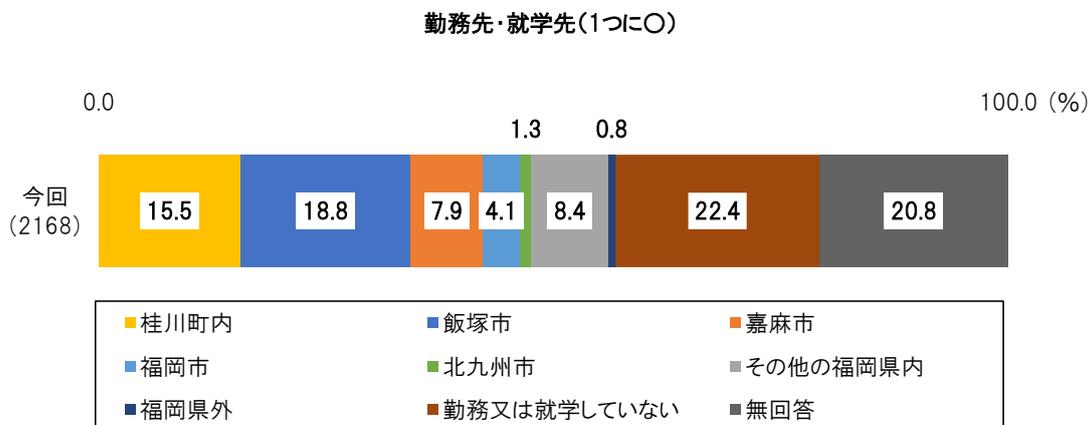
8 職業

回答者の職業については、「無職」の割合が37.1%と最も高く、次いで「会社員」(25.7%)、「パート・アルバイト」(11.4%)の順となっている。



9 勤務先・就学先

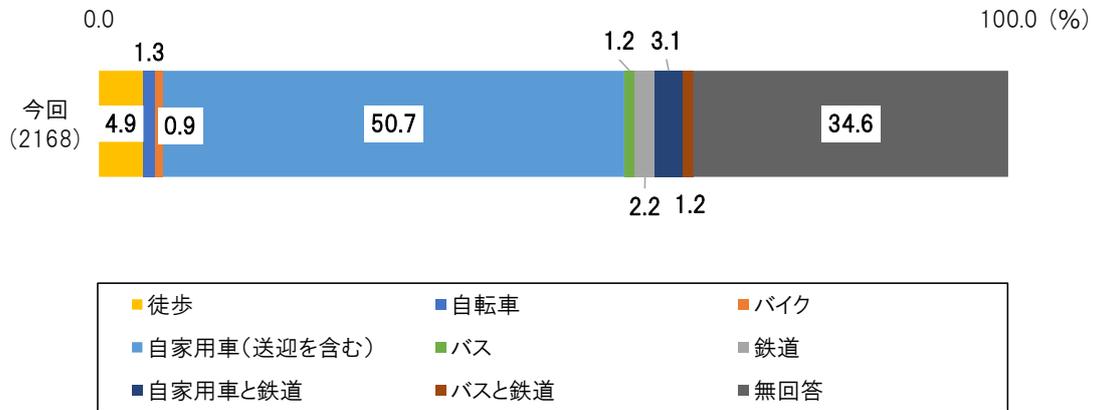
回答者の通勤先・通学先については、「飯塚市」の割合が18.8%と最も高く、次いで「桂川町内」(15.5%)、「その他の福岡県内」(8.4%)の順となっており、「勤務又は就学していない」は22.4%みられた。



10 通勤・通学の交通手段

回答者の通勤・通学の交通手段については、「自家用車（送迎を含む）」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「徒歩」（4.9%）、「自家用車と鉄道」（3.1%）の順となっている。

通勤・通学の交通手段(主なもの1つに〇)



Ⅲ 調査結果

【1】住みやすさ等について

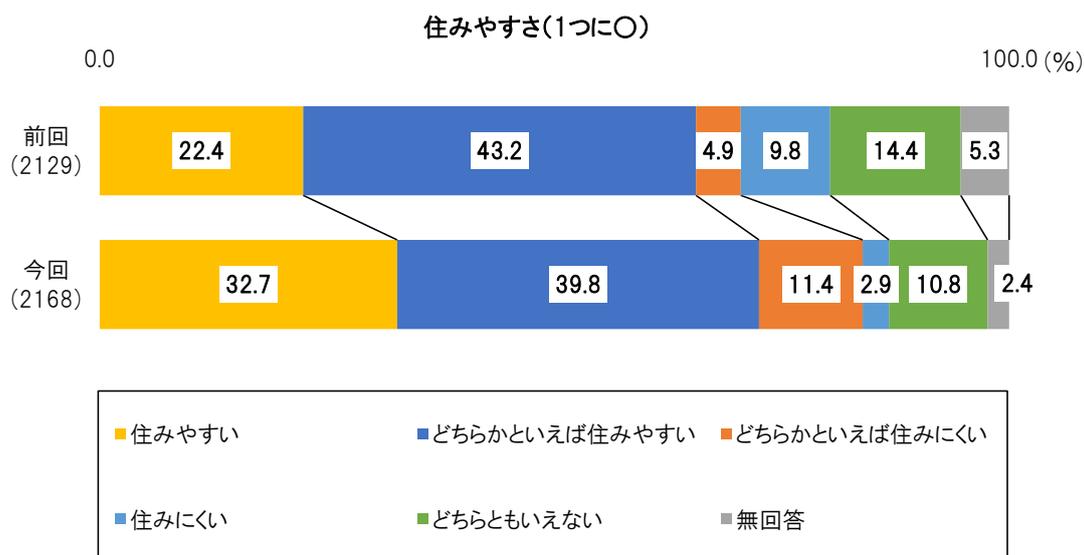
1 桂川町での住みやすさ

問2 あなたは、桂川町にお住まいになって、どのように感じていますか。

【1つに○】

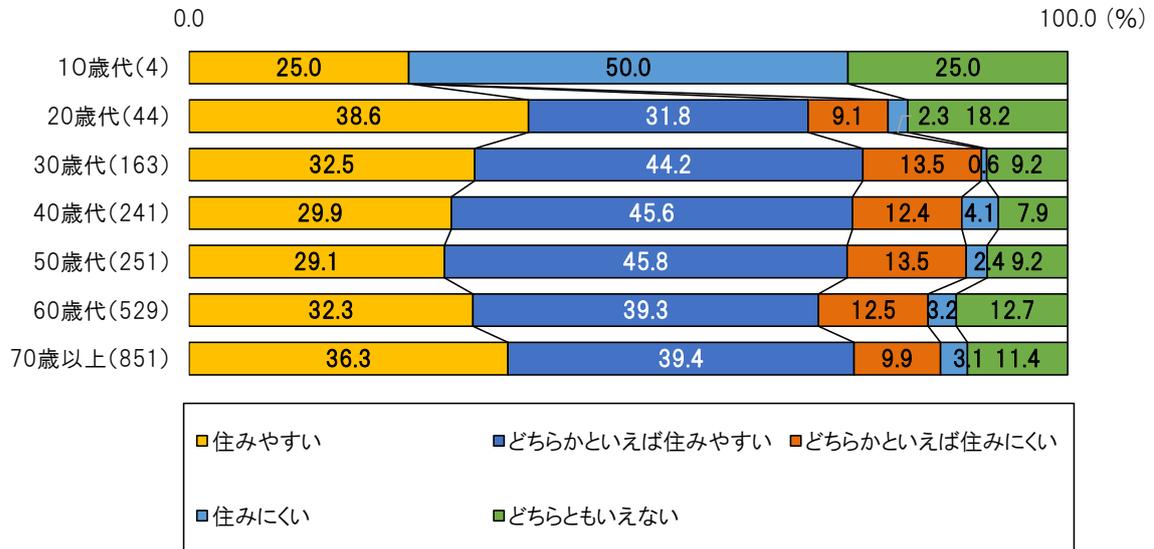
桂川町での住みやすさについては、「住みやすい」の割合が32.7%、「どちらかといえば住みやすい」が39.8%で、合計約7割(72.5%)が『住みやすい』と回答している。一方、「どちらかといえば住みにくい」(11.4%)と「住みにくい」(2.9%)の合計は約1割(14.3%)となっている。

前回と比較して、「住みやすい」(+10.3ポイント)が増加し、「住みにくい」(-6.9ポイント)が減少している。



【問2×年齢別】

年齢別では、20歳代で「住みやすい」の割合が38.6%と最も高く、次いで70歳以上(36.3%)、30歳代(32.5%)、60歳代(32.3%)の順となっている。10歳代で「住みにくい」の割合が50.0%と他の年代と比べて高くなっている。



【問2×居住地区別】

居住地区別では、土師八、吉隈三、土師十、瀬戸、貴船で「住みやすい」割合が高くなっている。

(%)

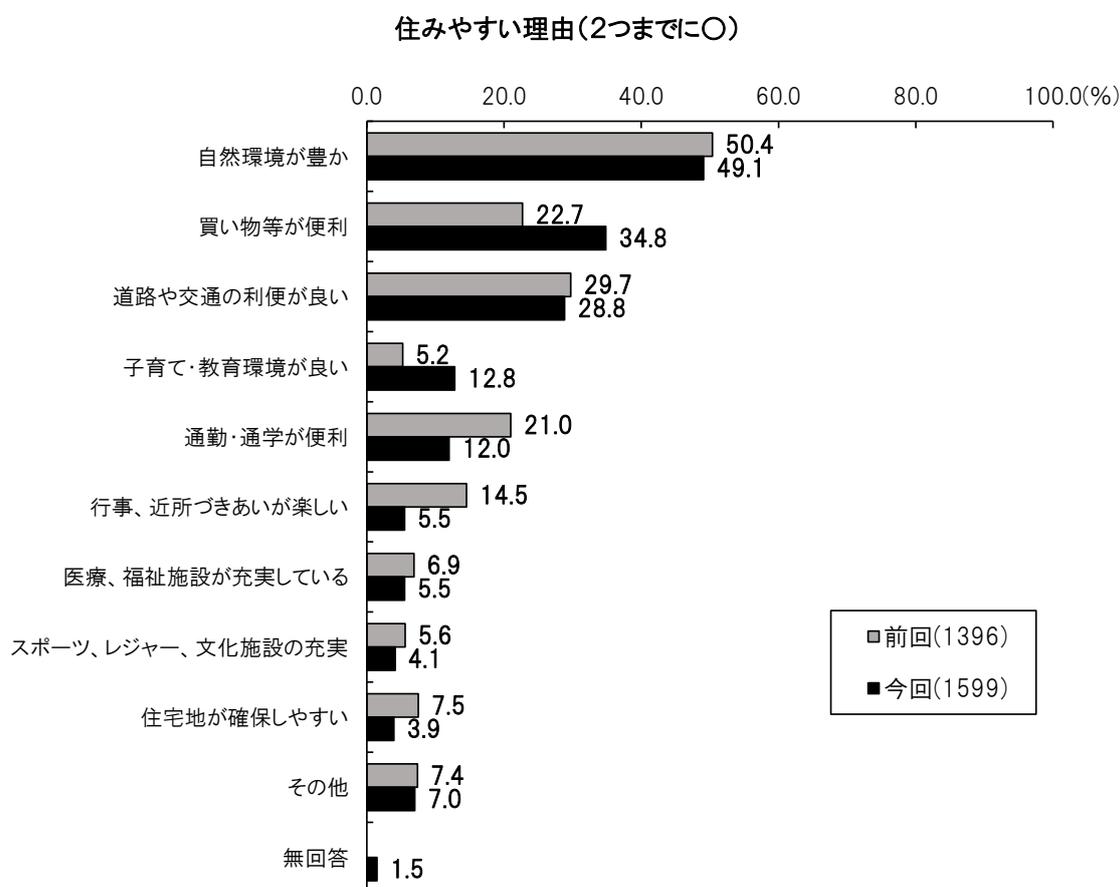
	住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらかといえば住みにくい	住みにくい	どちらともいえない	合計
土居一(155)	43.2	40.0	6.5	1.3	9.0	100
土居二(76)	34.2	56.6	1.3	2.6	5.3	100
土居三(45)	35.6	42.2	4.4	4.4	13.3	100
吉隈一(46)	34.8	32.6	21.7	4.3	6.5	100
吉隈二(57)	22.8	36.8	14.0	5.3	21.1	100
吉隈三(22)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100
瀬戸(37)	48.6	32.4	10.8	2.7	5.4	100
寿命(123)	37.4	40.7	7.3	3.3	11.4	100
中屋(24)	25.0	54.2	20.8	0.0	0.0	100
豆田(163)	35.6	41.1	10.4	3.1	9.8	100
九郎丸(119)	31.1	36.1	6.7	2.5	23.5	100
内山田(21)	42.9	38.1	9.5	4.8	4.8	100
土師一(74)	32.4	36.5	18.9	1.4	10.8	100
土師二(185)	40.5	40.0	9.7	1.1	8.6	100
土師三(71)	29.6	38.0	12.7	5.6	14.1	100
土師四(32)	34.4	40.6	12.5	0.0	12.5	100
土師五(34)	38.2	26.5	11.8	5.9	17.6	100
土師六(54)	29.6	38.9	16.7	1.9	13.0	100
土師七(63)	34.9	39.7	17.5	1.6	6.3	100
土師八(18)	55.6	27.8	0.0	0.0	16.7	100
土師九(4)	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	100
土師十(8)	50.0	37.5	0.0	12.5	0.0	100
第一豆田(63)	28.6	49.2	7.9	1.6	12.7	100
貴船(18)	44.4	38.9	0.0	5.6	11.1	100
弥栄(85)	24.7	45.9	16.5	3.5	9.4	100
笹尾一(63)	33.3	34.9	12.7	3.2	15.9	100
笹尾二(93)	26.9	34.4	21.5	8.6	8.6	100
天道(41)	34.1	46.3	7.3	4.9	7.3	100
二反田(14)	28.6	50.0	14.3	7.1	0.0	100
榊(13)	30.8	46.2	7.7	0.0	15.4	100
平山一(60)	21.7	50.0	13.3	5.0	10.0	100
平山二(43)	23.3	41.9	18.6	2.3	14.0	100
泉ヶ丘団地(19)	36.8	36.8	10.5	0.0	15.8	100
桂ヶ丘(52)	25.0	46.2	19.2	1.9	7.7	100
グレインヒルズ(48)	31.3	52.1	10.4	0.0	6.3	100
吉隈本町(10)	10.0	50.0	10.0	20.0	10.0	100
わからない	14.3	50.0	21.4	0.0	14.3	100

2 住みやすい理由

問3 ※【問2】で「1. 住みやすい」「2. どちらかといえば住みやすい」と答え
た方におたずねします。
住みやすい理由は何ですか。【2つまでに○】

住みやすい理由については、「自然環境が豊か」の割合が49.1%と最も高く、次いで「買い物等が便利」(34.8%)、「道路や交通の利便が良い」(28.8%)、「子育て・教育環境が良い」(12.8%)、「通勤・通学が便利」(12.0%)の順となっている。

前回と比較して、「買い物等が便利」(+12.1ポイント)、「子育て・教育環境が良い」(+7.6ポイント)などが増加している。一方、「通勤・通学が便利」、「行事、近所づきあいが楽しい」(各-9ポイント)などが減少している。



【問3×年齢別】

年齢別では、10歳代、50歳代～70歳以上で「自然環境が豊か」、20歳代～40歳代で「道路や交通の利便が良い」の割合が高くなっている。

(%)

	自然環境が豊か	買い物等が便利	道路や交通の利便が良い	行事、近所づきあいが楽しい	子育て・教育環境が良い	通勤・通学が便利	医療、福祉施設が充実している	スポーツ、レジャー、文化施設が充実している	住宅地が確保しやすい	その他	合計
10歳代(2)	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
20歳代(49)	20.4	20.4	30.6	0.0	12.2	8.2	0.0	2.0	6.1	0.0	100
30歳代(205)	21.5	17.6	27.3	5.4	9.3	9.8	0.0	1.0	2.9	5.4	100
40歳代(305)	21.0	18.0	24.9	4.3	9.2	11.5	0.3	1.3	3.9	5.6	100
50歳代(314)	25.5	14.6	24.5	4.8	4.8	14.3	1.3	2.2	2.2	5.7	100
60歳代(638)	29.0	20.5	20.7	6.6	2.0	9.4	2.7	2.2	2.0	4.9	100
70歳以上(1134)	34.4	15.6	19.9	9.4	1.0	3.5	5.6	5.6	2.1	2.9	100

【問3×居住地区別】

居住地区別では、「自然環境が豊か」の割合が高くなっている地区が最も多くなっている。また、豆田、土居三、寿命、土居二、瀬戸では「道路や交通の利便が良い」の割合が高く、土師八、吉隈本町では「買い物等が便利」の割合が高くなっている。

(%)

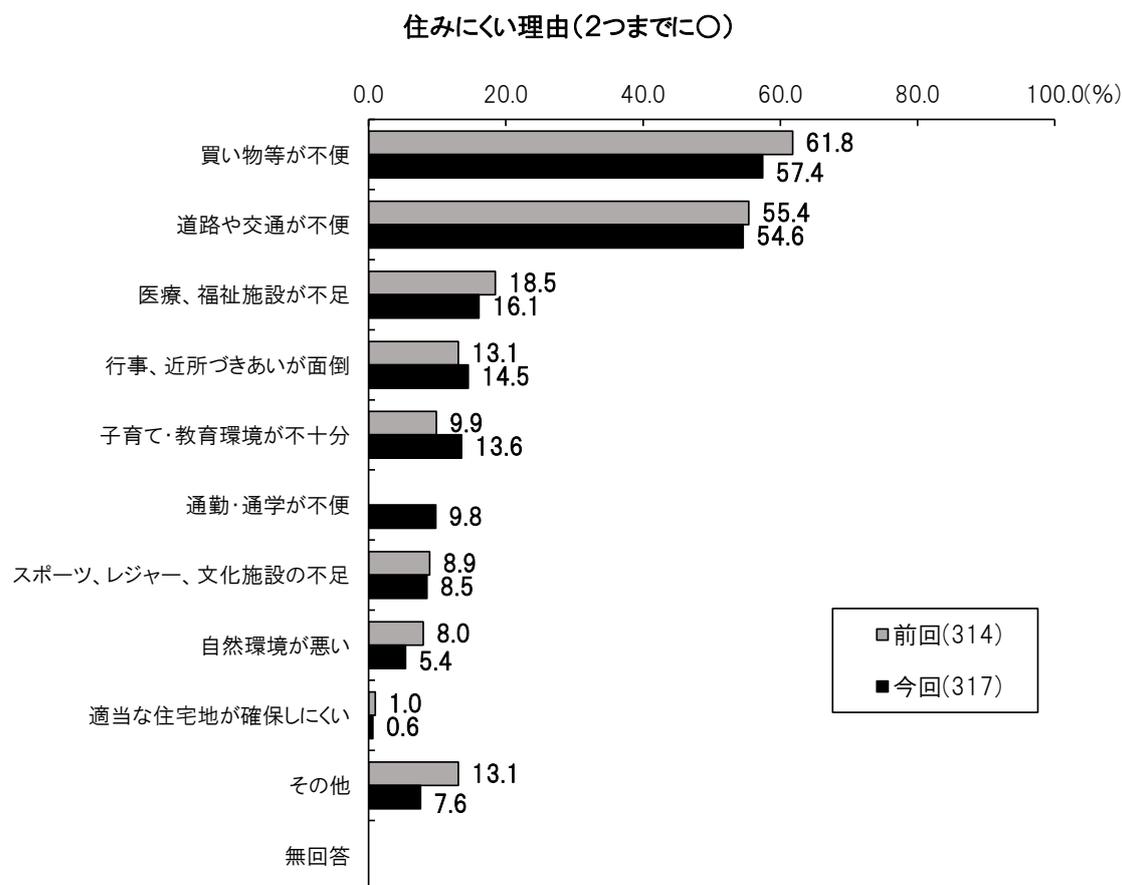
	自然環境が豊か	買い物等が便利	道路や交通の利便が良い	行事、近所づきあいが楽しい	子育て・教育環境が良い	通勤・通学が便利	医療、福祉施設が充実している	スポーツ、レジャー、文化施設が充実している	住宅地が確保しやすい	その他	合計
土居一(221)	28.1	19.5	24.9	6.3	3.2	10.4	1.8	0.5	1.8	3.6	100
土居二(114)	17.5	21.9	30.7	8.8	3.5	6.1	0.9	2.6	0.9	7.0	100
土居三(58)	19.0	27.6	32.8	6.9	1.7	0.0	3.4	1.7	1.7	5.2	100
吉隈一(47)	40.4	8.5	8.5	8.5	2.1	10.6	8.5	0.0	4.3	8.5	100
吉隈二(52)	30.8	28.8	17.3	5.8	0.0	3.8	3.8	3.8	3.8	1.9	100
吉隈三(30)	36.7	10.0	13.3	23.3	3.3	3.3	6.7	0.0	0.0	3.3	100
瀬戸(53)	22.6	26.4	30.2	5.7	1.9	1.9	5.7	1.9	0.0	3.8	100
寿命(168)	28.0	20.8	31.0	3.6	3.6	8.9	1.2	1.8	0.6	0.6	100
中屋(32)	43.8	15.6	9.4	21.9	0.0	0.0	3.1	6.3	0.0	0.0	100
豆田(210)	23.8	16.7	39.0	1.4	2.4	12.4	1.0	1.4	1.4	4.5	100
九郎丸(142)	30.3	19.0	25.4	5.6	0.7	9.9	2.1	0.7	1.4	0.9	100
内山田(28)	57.1	10.7	0.0	14.3	0.0	3.6	3.6	0.0	3.6	7.1	100
土師一(84)	41.7	11.9	13.1	10.7	4.8	7.1	4.8	1.2	0.0	4.8	100
土師二(250)	32.4	17.2	18.4	7.6	3.6	8.0	4.8	2.4	1.2	4.4	100
土師三(81)	24.7	16.0	18.5	11.1	6.2	6.2	3.7	4.9	4.9	3.7	100
土師四(33)	45.5	9.1	12.1	12.1	3.0	0.0	9.1	3.0	3.0	3.0	100
土師五(38)	34.2	23.7	21.1	5.3	2.6	2.6	0.0	7.9	2.6	0.0	100
土師六(59)	37.3	18.6	6.8	10.2	3.4	6.8	3.4	6.8	3.4	3.4	100
土師七(79)	36.7	15.2	24.1	0.0	6.3	7.6	2.5	2.5	1.3	3.8	100
土師八(30)	33.3	36.7	10.0	13.3	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	100
土師九(4)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	100
土師十(11)	36.4	27.3	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	100
第一豆田(91)	20.9	18.7	23.1	8.8	1.1	13.2	5.5	2.2	1.1	5.5	100
貴船(22)	31.8	13.6	22.7	9.1	0.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	100
弥栄(92)	32.6	7.6	8.7	12.0	7.6	6.5	3.3	2.2	8.7	10.9	100
笹尾一(67)	25.4	19.4	9.0	11.9	7.5	4.5	7.5	3.0	1.5	10.4	100
笹尾二(94)	26.6	20.2	10.6	10.6	5.3	12.8	5.3	2.1	4.3	2.1	100
天遣(53)	32.1	15.1	20.8	9.4	5.7	5.7	1.9	0.0	3.8	5.7	100
二反田(17)	41.2	23.5	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0	11.8	100
櫛(16)	31.3	12.5	18.8	18.8	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	6.3	100
平山一(66)	48.5	7.6	7.6	4.5	6.1	4.5	6.1	6.1	6.1	3.0	100
平山二(50)	28.0	8.0	24.0	4.0	0.0	8.0	2.0	8.0	6.0	12.0	100
泉ヶ丘団地(24)	33.3	20.8	29.2	4.2	8.3	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	100
桂ヶ丘(61)	29.5	18.0	16.4	9.8	3.3	11.5	1.6	4.9	3.3	1.6	100
グレインヒルズ(66)	24.2	16.7	18.2	3.0	6.1	12.1	4.5	0.0	7.6	7.6	100
吉隈本町(10)	20.0	30.0	30.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	100
わからない(14)	14.3	21.4	35.7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	100

3 住みにくい理由

問4 ※【問2】で「3. どちらかといえば住みにくい」「4. 住みにくい」と答え
た方におたずねします。
住みにくい理由は何ですか。【2つまでに○】

住みにくい理由については、「買い物等が不便」の割合が57.4%と最も高く、次いで「道路や交通が不便」(54.6%)、「医療、福祉施設が不足」(16.1%)、「行事、近所づきあいが面倒」(14.5%)、「子育て・教育環境が不十分」(13.6%)の順となっている。

前回と比較して、「子育て・教育環境が不十分」(+3.7ポイント)などが増加し、「買い物等が不便」(-4.4ポイント)などが減少している。



※「安定した職場がない」(前回26.8%)の選択肢は今回削除

【問4×年齢別】

年齢別では、「買い物等が不便」の割合が高くなっている年代が最も多くなっている。また、10歳代～30歳代、50歳代で「道路や交通が不便」の割合が高く、子育て世代の30歳代では「子育て・教育環境が不十分」の割合が高くなっている。

(%)

	自然環境 が悪い	買い物等が 不便	道路や交 通が不便	行事、近所 づきあいが 面倒	子育て・教 育環境が 不十分	通勤・通学 が不便	医療、福祉 施設が 不足	スポーツ、 レジャー、 文化施設 が少ない	適当な住 宅地が 確保 しにくい	その他	合計
10歳代(3)	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
20歳代(9)	0.0	33.3	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	100
30歳代(41)	0.0	18.6	23.3	2.3	23.3	4.7	9.3	7.0	0.0	11.6	100
40歳代(67)	3.9	22.1	20.8	6.5	20.8	10.4	10.4	2.6	0.0	2.6	100
50歳代(77)	3.9	24.7	26.0	13.0	6.5	9.1	5.2	6.5	1.3	3.9	100
60歳代(120)	1.6	38.0	16.3	9.3	3.9	4.7	12.4	9.3	0.0	4.7	100
70歳以上(211)	3.8	37.4	33.6	6.6	1.4	2.4	9.0	1.9	0.5	3.3	100

【問4×居住地区別】

居住地区別では、「買い物等が不便」の割合が高くなっている地区が最も多くなっている。また、瀬戸では「通勤・通学が不便」の割合が高くなっている。

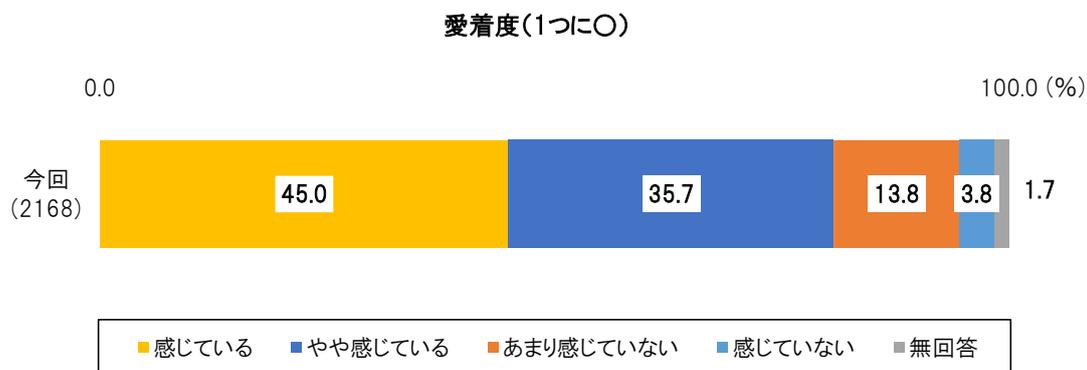
(%)

	自然環境 が悪い	買い物等が 不便	道路や交 通が不便	行事、近所 づきあいが 面倒	子育て・教 育環境が 不十分	通勤・通学 が不便	医療、福祉 施設が 不足	スポーツ、 レジャー、 文化施設 が少ない	適当な住 宅地が 確保 しにくい	その他	合計
土居一(22)	0.0	22.7	27.3	13.6	18.2	4.5	4.5	4.5	0.0	4.5	100
土居二(6)	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	100
土居三(8)	0.0	37.5	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	100
吉隈一(22)	4.5	22.7	31.8	18.2	4.5	9.1	0.0	4.5	0.0	4.5	100
吉隈二(22)	0.0	40.9	45.5	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	100
吉隈三(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
瀬戸(9)	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	33.3	11.1	0.0	0.0	22.2	100
寿命(25)	8.0	28.0	12.0	8.0	12.0	0.0	20.0	4.0	0.0	8.0	100
中屋(10)	0.0	40.0	30.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
豆田(46)	2.2	37.0	10.9	6.5	13.0	2.2	8.7	13.0	2.2	4.3	100
九郎丸(22)	0.0	22.7	22.7	9.1	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	100
内山田(6)	0.0	50.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
土師一(27)	3.7	37.0	33.3	7.4	0.0	3.7	11.1	3.7	0.0	0.0	100
土師二(39)	5.1	28.2	17.9	12.8	12.8	7.7	7.7	5.1	0.0	2.6	100
土師三(24)	0.0	41.7	33.3	12.5	4.2	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	100
土師四(8)	0.0	37.5	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	100
土師五(12)	0.0	8.3	25.0	0.0	8.3	16.7	16.7	16.7	0.0	8.3	100
土師六(21)	0.0	38.1	23.8	4.8	0.0	4.8	14.3	4.8	0.0	9.5	100
土師七(22)	4.5	27.3	36.4	4.5	4.5	4.5	13.6	0.0	0.0	4.5	100
土師八(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
土師九(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
土師十(2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100
第一豆田(12)	0.0	33.3	16.7	8.3	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	100
貴船(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
弥栄(1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
笹尾一(32)	3.1	37.5	37.5	3.1	9.4	3.1	6.3	0.0	0.0	0.0	100
笹尾二(18)	5.6	16.7	38.9	11.1	5.6	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	100
天道(54)	3.7	27.8	37.0	9.3	1.9	7.4	5.6	5.6	0.0	1.9	100
二反田(9)	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	100
櫛(6)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
平山一(2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100
平山二(21)	9.5	47.6	33.3	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	100
泉ヶ丘団地(15)	6.7	40.0	33.3	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	100
桂ヶ丘(4)	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100
グレインヒルズ(21)	0.0	23.8	33.3	14.3	9.5	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	100
吉隈本町(9)	0.0	22.2	22.2	0.0	11.1	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	100
わからない(6)	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	100

4 桂川町への愛着度

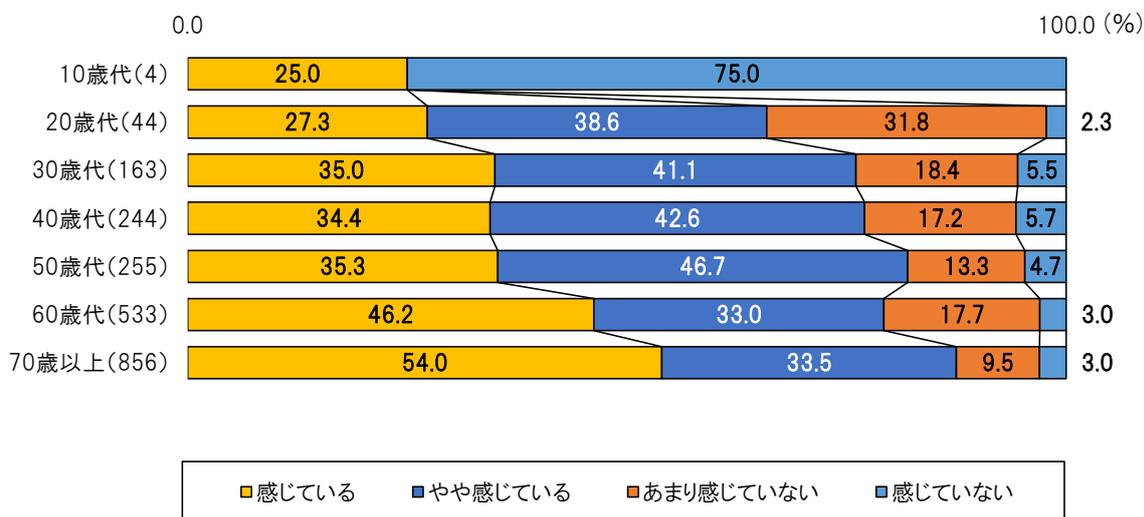
問5 あなたは、桂川町に愛着を感じていますか。【1つに○】

桂川町への愛着度については、「感じている」の割合が45.0%、「やや感じている」が35.7%で、合計約8割（80.7%）が『感じている』と回答している。一方、「あまり感じていない」（13.8%）と「感じていない」（3.8%）の合計は17.6%となっている。



【問5×年齢別】

年齢別では、おおむね年齢が上がるほど「感じている」の割合が高くなっている。一方、10歳代で「感じていない」の割合が、他の年代と比べて高くなっている。

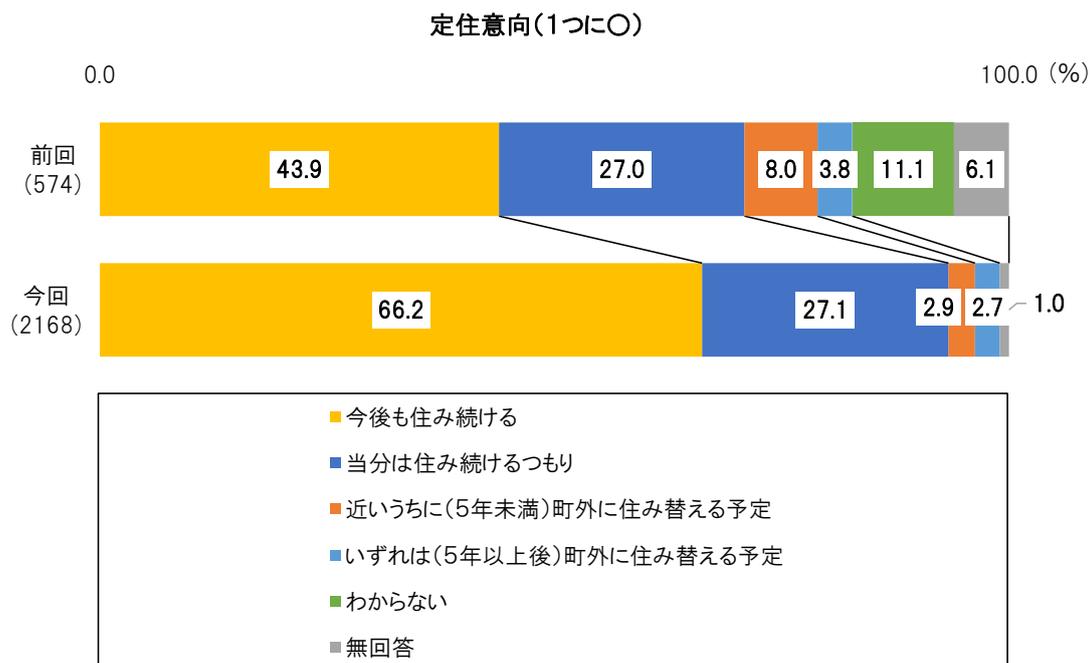


5 定住意向

問6 あなたは、これからも桂川町に住み続けたいと思いますか。【 1つに〇 】

定住意向については、「今後も住み続ける」の割合が66.2%、「当分は住み続けるつもり」が27.1%で、合計約9割（93.3%）が『住み続ける』と回答している。一方、「近いうちに（5年未満）町外に住み替える予定」（2.9%）と「いずれは（5年以上後）町外に住み替える予定」（2.7%）の合計は5.6%となっている。

前回と比較して、「今後も住み続ける」（+22.3ポイント）が増加している。

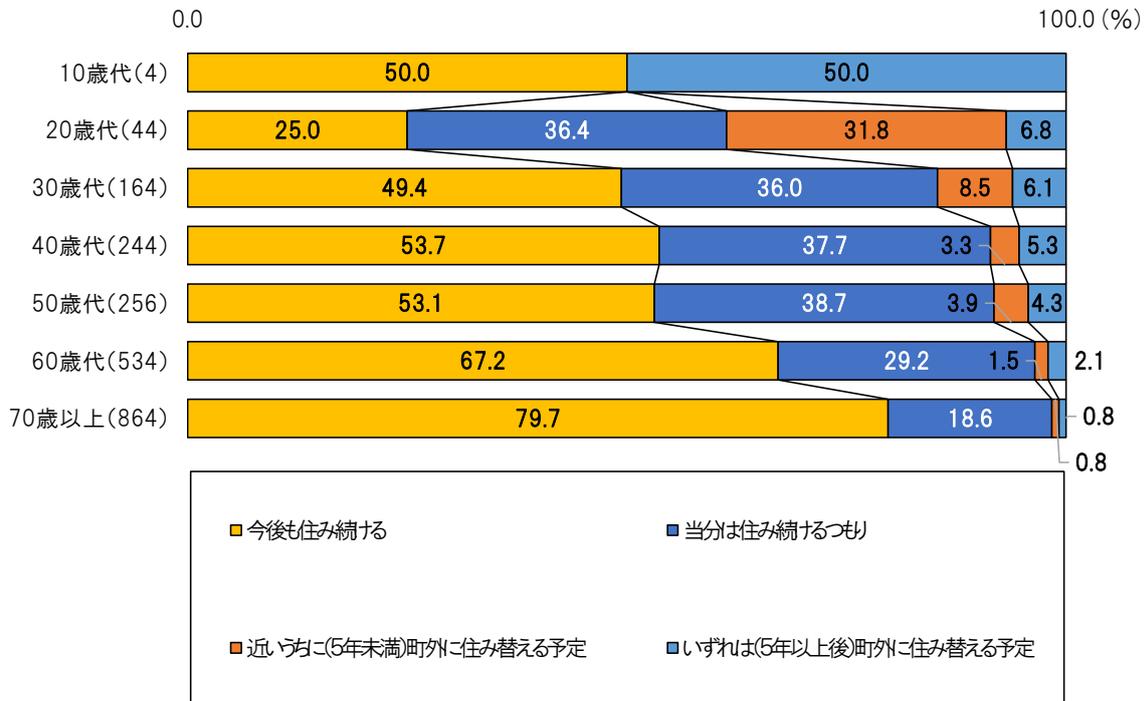


※「前回」の数値は「桂川町人口ビジョン・総合戦略等策定のための住民アンケート」より抜粋

※「わからない」（前回 11.1%）の選択肢は今回削除

【問6×年齢別】

年齢別では、70歳以上で「今後も住み続ける」の割合が最も高く、おおむね年齢が上がるほど、「今後も住み続ける」「当分は住み続けるつもり」をあわせた『住み続ける(合計)』の割合が高くなっている。10歳代では「今後も住み続ける」「いずれは(5年以上後)町外に住み替える予定」が半々になっている。



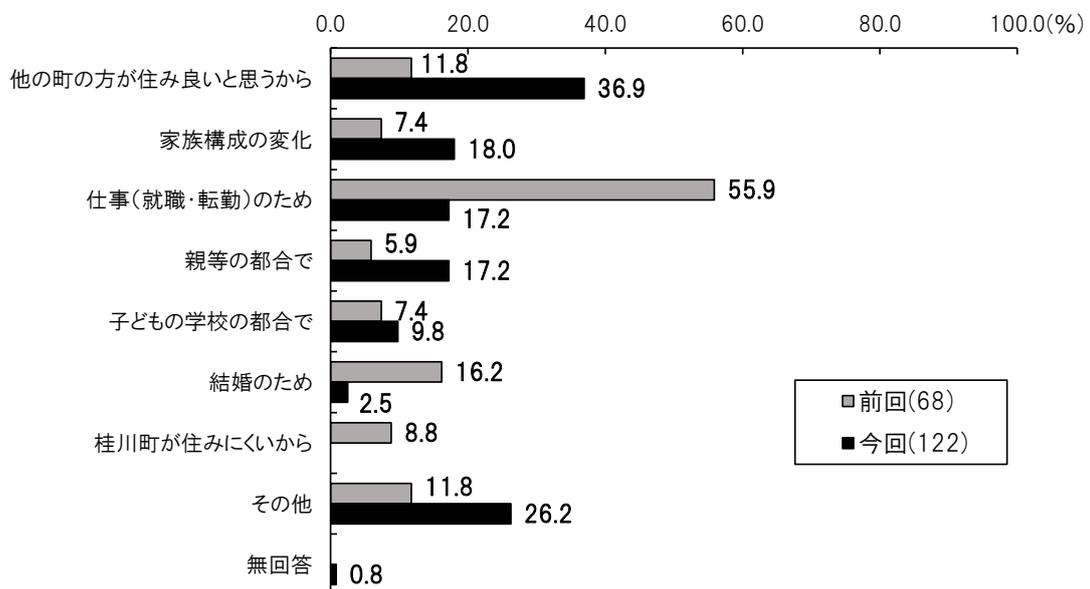
6 住み替える理由

問7 ※【問6】で「3. 近いうちに（5年未満）町外に住み替える予定」「4. いずれは（5年以上後）町外に住み替える予定」と答えた方におたずねします。住み替える理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

住み替える理由については、「他の町の方が住み良いと思うから」の割合が36.9%と最も高く、次いで「家族構成の変化」(18.0%)、「仕事(就職・転勤)のため」「親等の都合で」(各17.2%)、「子どもの学校の都合で」(9.8%)の順となっている。

前回と比較して、「他の町の方が住み良いと思うから」(+25.1ポイント)が増加し、「仕事(就職・転勤)のため」(-38.7ポイント)が減少している。

住み替える理由(あてはまるものすべてに○)



※「前回」の数値は「桂川町人口ビジョン・総合戦略等策定のための住民アンケート」より抜粋

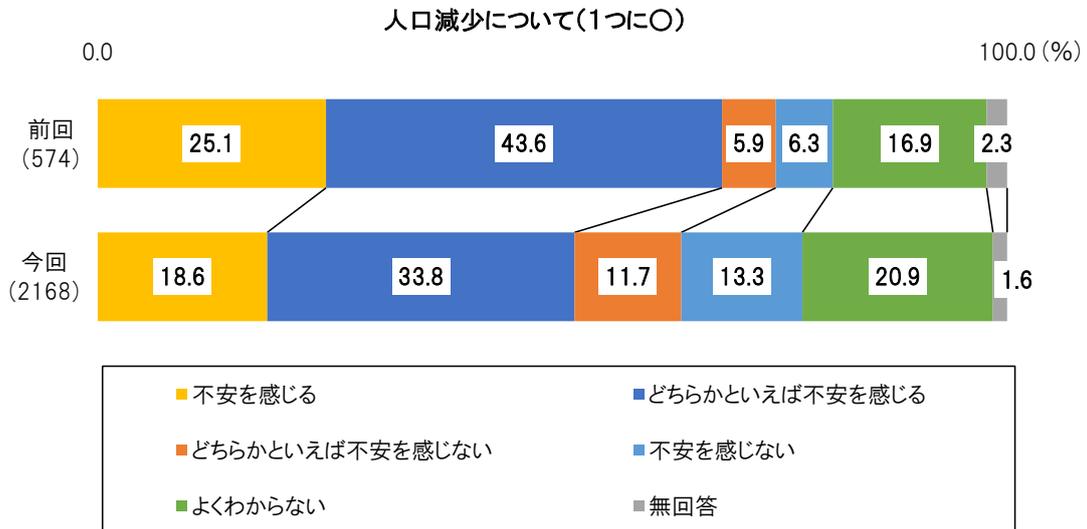
【2】桂川町の人口について

1 人口減少について

問8 桂川町の人口は令和2（2020）年4月末時点で13,340人です。平成27（2015）年（国勢調査）の13,496人から156人減少しています。あなたは桂川町の人口減少について、どのように感じていますか。【1つに○】

人口減少については、「不安を感じる」の割合が18.6%、「どちらかといえば不安を感じる」が33.8%で、合計約5割（52.4%）が『不安を感じる』と回答している。一方、「どちらかといえば不安を感じない」（11.7%）と「不安を感じない」（13.3%）の合計は25.0%となっている。

前回と比較して、「不安を感じる」（-6.5ポイント）、「どちらかといえば不安を感じる」（-9.8ポイント）が減少している一方、「どちらかといえば不安を感じない」（+5.8ポイント）、「不安を感じない」（+7ポイント）が増加している。

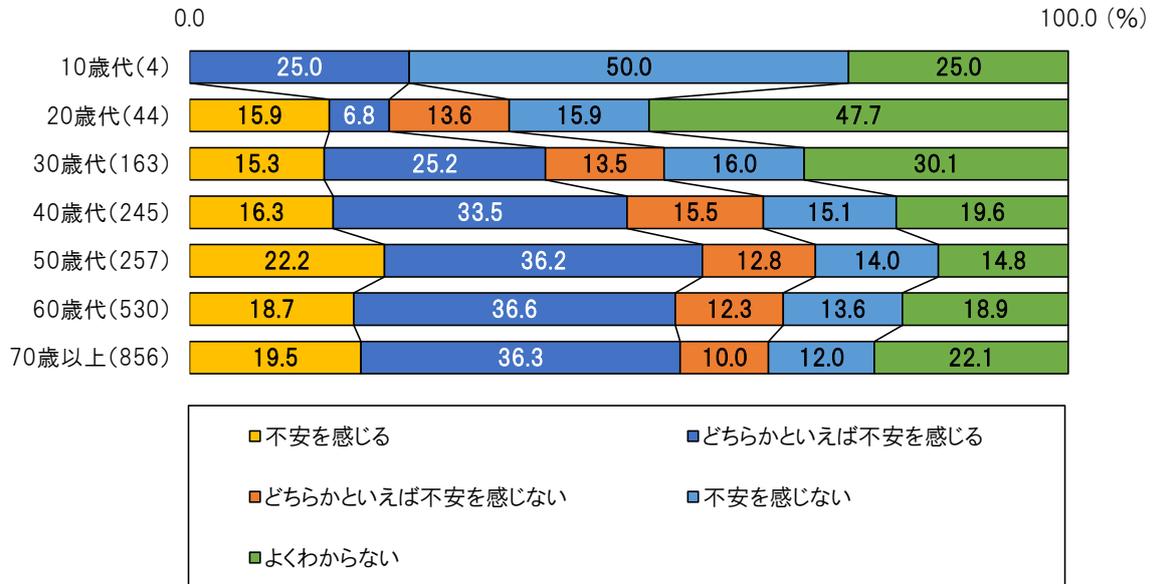


※「前回」の数値は「桂川町人口ビジョン・総合戦略等策定のための住民アンケート」より抜粋

【問8×年齢別】

年齢別では、50歳代で「不安を感じる」「どちらかといえば不安を感じる」をあわせた『不安を感じる(合計)』の割合が最も高く、おおむね年齢が上がるほど『不安を感じる(合計)』の割合が高くなる傾向にある。

一方、10歳代で「不安を感じない」の割合が50.0%となっており、他の年代と比べて高くなっている。



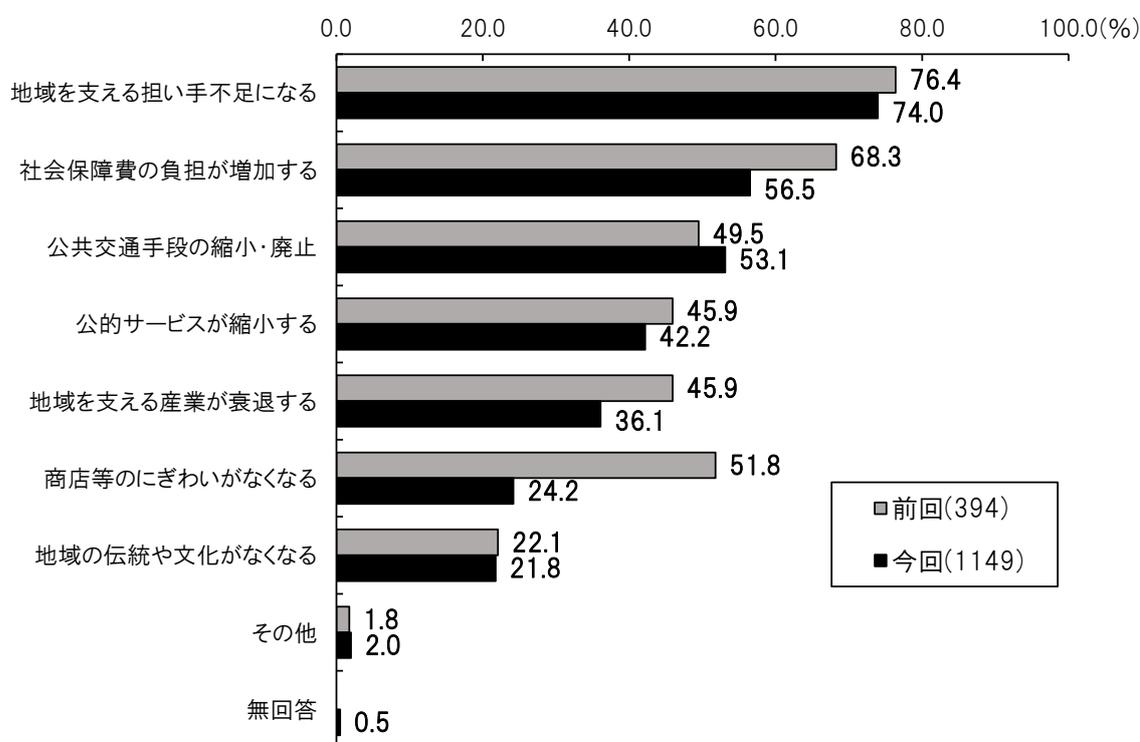
2 人口減少に関する不安

問9 ※【問8】で「1. 不安を感じる」「2. どちらかといえば不安を感じる」と答えた方におたずねします。
 どのような不安を感じていますか。【あてはまるものすべてに○】

人口減少に関する不安については、「地域を支える担い手不足になる」の割合が74.0%と最も高く、次いで「社会保障費の負担が増加する」(56.5%)、「公共交通手段の縮小・廃止」(53.1%)、「公的サービスが縮小する」(42.2%)、「地域を支える産業が衰退する」(36.1%)の順となっている。

前回と比較して、「商店等のにぎわいがなくなる」(-27.6ポイント)が減少している。

人口減少に関する不安(あてはまるものすべてに○)



※「前回」の数値は「桂川町人口ビジョン・総合戦略等策定のための住民アンケート」より抜粋

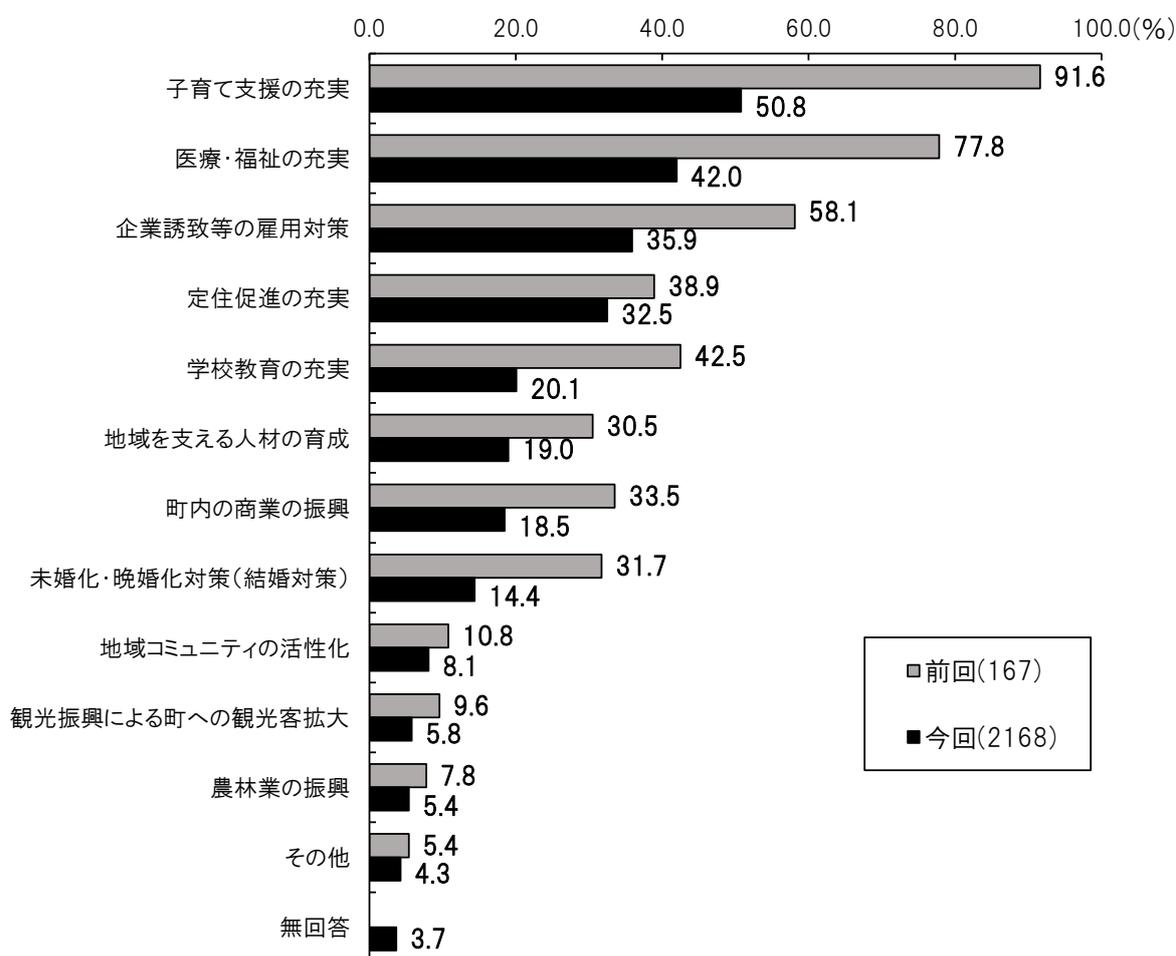
3 人口減少に対して力を入れるべき施策

問 10 人口減少に歯止めをかけるため、桂川町はどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。【 3つまでに○ 】

人口減少に対して力を入れるべき施策については、「子育て支援の充実」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「医療・福祉の充実」(42.0%)、「企業誘致等の雇用対策」(35.9%)、「定住促進の充実」(32.5%)、「学校教育の充実」(20.1%)の順となっている。

前回と比較して、「企業誘致等の雇用対策」の順位が上がり、「学校教育の充実」の順位が下がっている。

人口減少に対して力を入れるべき施策(3つまでに○)



※「前回」の数値は「桂川町人口ビジョン・総合戦略等策定のための住民アンケート」より抜粋

【問 10×年齢別】

年齢別では、10歳代で「医療・福祉の充実」が最も高くなっている。

(%)

	子育て支援の充実	未婚化・晩婚化対策（結婚対策）	医療・福祉の充実	定住促進の充実	農林業の振興	企業誘致等の雇用対策	町内の商業の振興	観光振興による町への観光客拡大	学校教育の充実	地域を支える人材の育成	地域コミュニティの活性化	その他	合計
10歳代(9)	12.5	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	100
20歳代(110)	26.8	3.6	11.6	18.8	1.8	8.0	12.5	3.6	9.8	1.8	0.9	0.9	100
30歳代(420)	31.8	3.8	12.4	15.4	1.3	6.8	3.5	1.8	15.7	2.8	1.8	3.0	100
40歳代(609)	25.9	4.4	18.4	8.5	1.0	10.7	7.7	1.6	11.2	6.4	1.8	2.3	100
50歳代(634)	20.0	4.6	17.2	14.5	2.2	12.6	9.5	2.1	7.7	4.9	2.4	2.4	100
60歳代(1379)	20.4	6.1	17.7	12.7	1.8	15.7	6.6	2.0	6.2	5.9	3.2	1.8	100
70歳以上(2149)	17.0	6.8	16.6	12.6	2.5	13.8	6.7	2.3	5.9	10.7	4.1	0.9	100

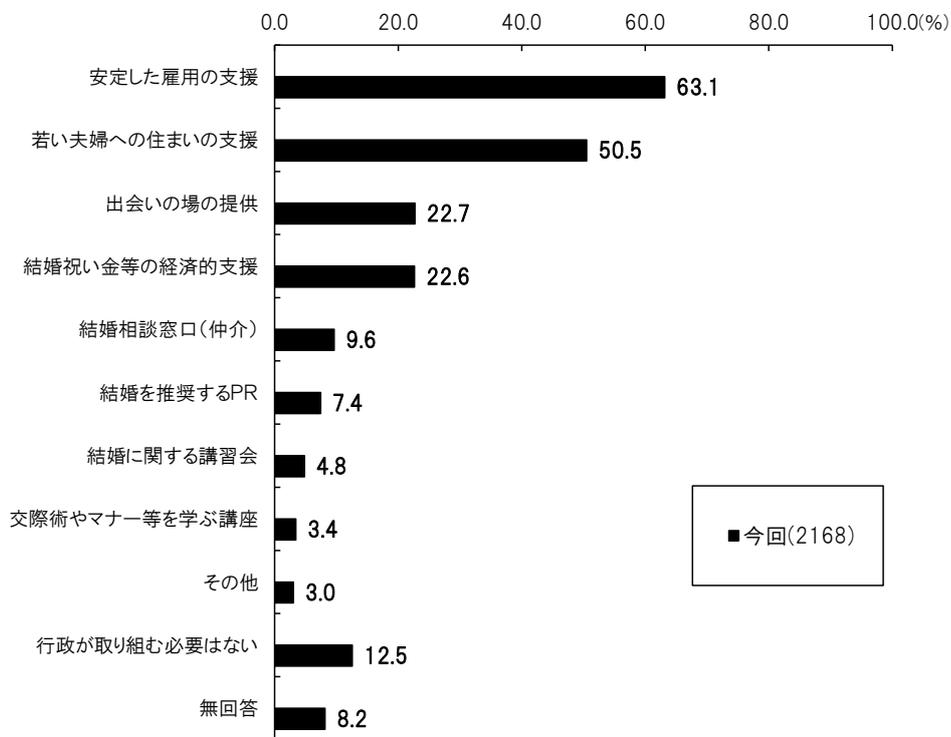
【3】結婚について

1 結婚支援事業として取り組むべき施策

問 11 未婚者への結婚支援事業として、桂川町はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。【 3つまでに○ 】

結婚支援事業として取り組むべき施策については、「安定した雇用の支援」の割合が63.1%と最も高く、次いで「若い夫婦への住まいの支援」(50.5%)、「出会いの場の提供」(22.7%)、「結婚祝い金等の経済的支援」(22.6%)、「結婚相談窓口(仲介)」(9.6%)の順となっている。

結婚支援事業として取り組むべき施策(3つまでに○)



【問 11×年齢別】

年齢別では、40歳代以上で「安定した雇用の支援」の割合が高く、30歳代以下では「若い夫婦への住まいの支援」の割合が高くなっている。

(%)

	安定した雇用の支援	婚活イベント等による出会いの場の提供	若い夫婦への住まいの支援	結婚祝い金等の経済的支援	結婚相談窓口(仲介)	結婚を推奨するPR	若い世代に向けた結婚に関する講習会	交際術やマナー等を学ぶ講座	その他	行政が取り組む必要はない	合計
10歳代(7)	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	42.9	100.0
20歳代(92)	21.7	8.7	27.2	31.5	6.5	0.0	1.1	0.0	0.0	3.3	100.0
30歳代(334)	24.0	9.3	27.2	23.7	3.6	0.6	0.9	0.6	1.5	8.7	100.0
40歳代(480)	27.5	9.6	26.0	15.8	4.0	2.7	1.7	1.3	1.9	9.6	100.0
50歳代(525)	30.9	10.7	26.5	14.5	3.8	3.0	1.9	1.3	1.9	5.5	100.0
60歳代(1101)	34.0	11.4	26.3	9.4	5.2	2.8	1.5	1.4	1.6	6.4	100.0
70歳以上(1625)	35.6	13.5	19.0	7.6	5.4	5.6	3.9	2.5	1.4	5.6	100.0

【4】まちづくりの満足度と重要度について

1 各施策の満足度と重要度

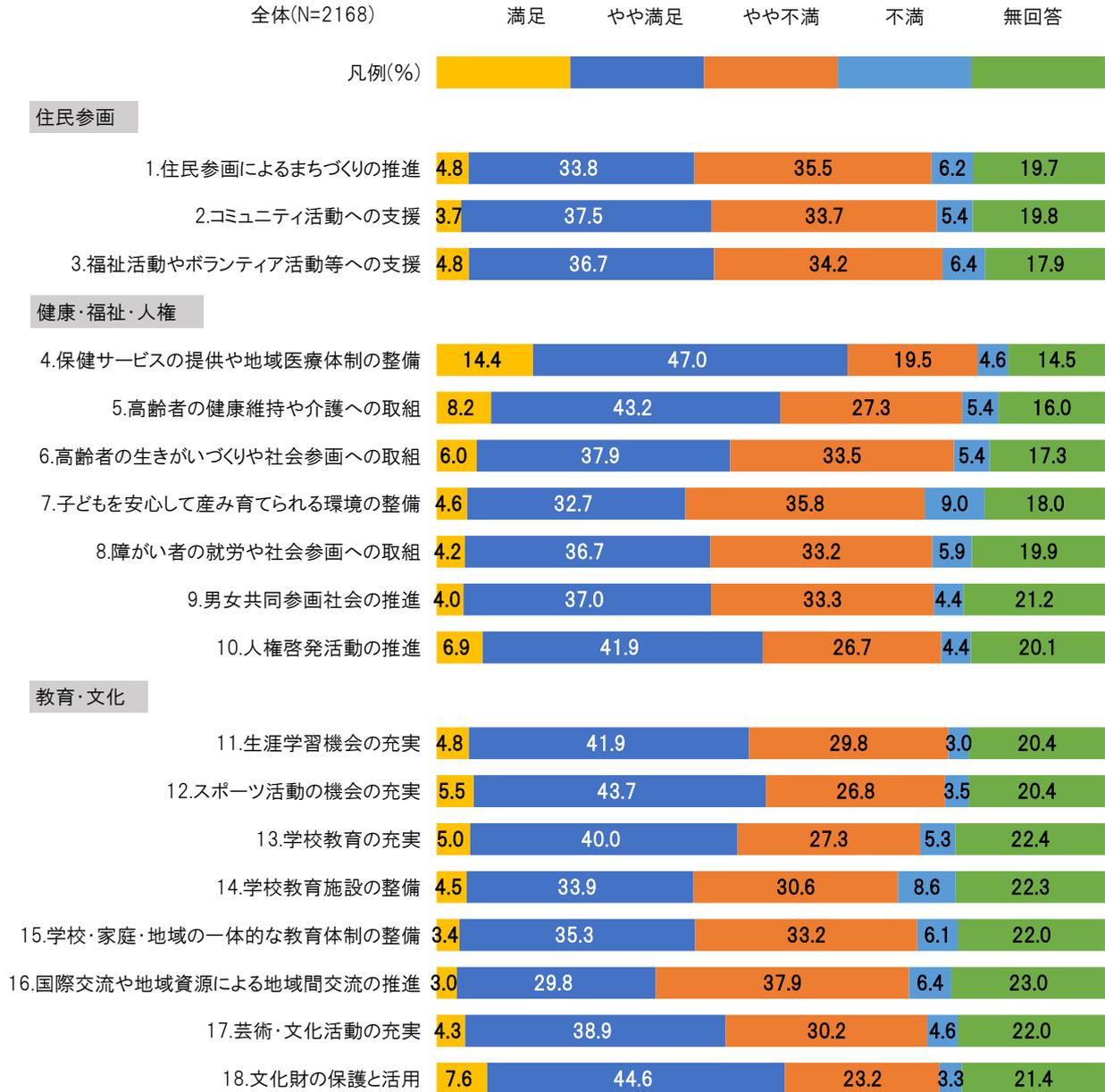
問12 桂川町では、「協働で未来（夢）を拓く～笑顔あふれるまち“けいせん”」を将来像とする第5次桂川町総合計画（平成23年3月）を定め、まちづくりを進めてきましたが、その主な取り組みについて、現在、どのくらい満足していますか。また、今後、どのくらい重要だと思いますか。【それぞれ1つだけに○】

（1）満足度

各施策38項目について、現在の満足度を4段階評価で質問したところ、「満足」「やや満足」の合計割合が最も高かったのは、「4. 保健サービスの提供や地域医療体制の整備」（61.4%）で、以下「21. 安全でおいしい水の安定した提供」（57.6%）、「23. ごみ処理対策やリサイクルの推進」（55.7%）、「18. 文化財の保護と活用」（52.2%）、「5. 高齢者の健康維持や介護への取組」（51.4%）、「12. スポーツ活動の機会の充実」（49.2%）、「10. 人権啓発活動の推進」（48.8%）、「35. 広報・広聴活動の充実」（48.4%）の順となっている。

一方、「やや不満」「不満」の合計割合が最も高かったのは、「26. 公共交通の利便性の向上」（53.6%）であり、次いで「19. 公園・緑地の整備」（52.0%）、「34. 就労相談等雇用促進の支援」（49.5%）、「30. 防犯や危険個所への対策の整備」（46.8%）、「36. 桂川町の知名度向上の取り組み」（46.2%）、「7. 子どもを安心して産み育てられる環境の整備」「33. 観光の振興」（各44.8%）、「16. 国際交流や地域資源による地域間交流の推進」（44.3%）の順となっている。

まちづくりの満足度(1つに○)



まちづくりの満足度(1つに○)

全体(N=2168) 満足 やや満足 やや不満 不満 無回答
 凡例(%)

環境



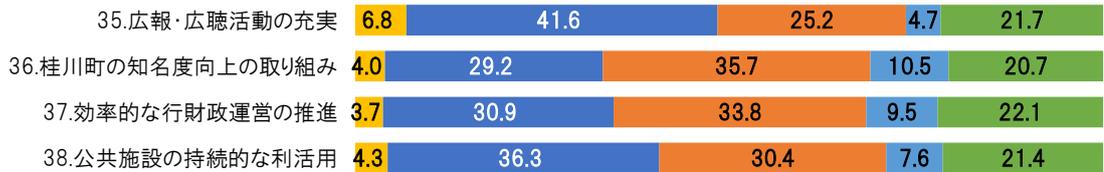
都市基盤



産業



行政



【満足度／平均評定値による集計】

満足度は以下に示す平均評定値を算出する方法で点数化している。

- 「満足度」については「満足」「やや満足」への回答とともに、「不満」「やや不満」という選択肢もある。そのため、この「満足度」をよりの確に分析するために、平均評定値による指標化を行った。
- 平均評定値は、「満足」に+10点、「やや満足」に+5点、「やや不満」に-5点、「不満」に-10点の係数（ウエイト）を設定し、

【（「満足」の回答件数）×10（点）+（「やや満足」の回答件数）×5（点）+（「やや不満」の回答件数）×-5（点）+（「不満」の回答件数）×-10（点）】÷【回答者件数-無回答件数】

の計算によって算出し、指標としている。

- この指標によって、「満足度」の強弱を、より明確に分析することができる。

この指標による分析結果をみると、満足度評価が最も高い施策は、「4 健康診断等、保健サービスの提供や地域医療体制の整備」（2.37）で、以下「21 安全でおいしい水の安定した提供」（1.92）、「23 ごみ処理対策やリサイクルの推進」（1.70）、「18 文化財の保護と活用」（1.49）の順となっている。

一方、相対的に満足度評価が低い施策としては、「26 公共交通の利便性の向上」（-2.05）、「19 公園・緑地の整備」（-1.53）、「34 就労相談等雇用促進の支援」（-1.49）、「36 桂川町の知名度向上の取り組み」（-0.98）、「33 観光の振興」（-0.94）などがあげられる。

38 項目中で平均評定値がプラス評価だったのは 20 項目、マイナス評価だったのは 18 項目となっている。

番号	項目	満足度
1	住民参画によるまちづくりの推進	-0.23
2	コミュニティ活動への支援	0.02
3	地域で支え合うための福祉活動やボランティア活動等への支援	-0.03
4	健康診断等、保健サービスの提供や地域医療体制の整備	2.37
5	高齢者の健康維持や介護への取組	1.08
6	高齢者の生きがいづくりや社会参画への取組	0.29
7	子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備	-0.60
8	障がい者の就労や社会参画への取組	0.01
9	男女共同参画社会の推進	0.14
10	人権啓発活動の推進	1.01
11	生涯学習機会の充実	0.78
12	スポーツ活動の機会の充実	1.05
13	学校教育の充実	0.61
14	学校教育施設の整備	-0.25
15	学校・家庭・地域の一体的な教育体制の整備	-0.16
16	国際交流や地域資源を活かした地域間交流の推進	-0.74
17	芸術・文化活動の充実	0.41
18	文化財の保護と活用	1.49
19	公園・緑地の整備	-1.53
20	環境保全・ふるさと景観づくり	-0.60
21	安全でおいしい水の安定した提供	1.92
22	生活排水の処理対策	0.04
23	ごみ処理対策やリサイクルの推進	1.70
24	駅周辺等の整備	0.43
25	道路網の整備	0.17
26	公共交通の利便性の向上	-2.05
27	公営住宅の整備や定住促進を図る取組	0.12
28	ケーブルテレビやネット環境等情報化の推進	-0.43
29	火災や災害に対する体制の整備	-0.06
30	防犯や危険個所への対策の整備	-0.87
31	農業の振興	0.19
32	商工業の振興	-0.49
33	観光の振興	-0.94
34	就労相談等雇用促進の支援	-1.49
35	広報・広聴活動の充実	1.04
36	桂川町の知名度向上の取り組み	-0.98
37	効率的な行財政運営の推進	-0.73
38	公共施設の持続的な利活用	-0.03

(2) 重要度

各施策 38 項目について、現在の重要度を 4 段階評価で質問したところ、「とても重要である」「重要である」の合計割合が最も高かったのは、「21. 安全でおいしい水の安定した提供」(80.7%) で、以下「7. 子どもを安心して産み育てられる環境の整備」(80.5%)、「30. 防犯や危険個所への対策の整備」(80.4%)、「29. 火災や災害に対する体制の整備」(80.1%)、「5. 高齢者の健康維持や介護への取組」「23. ごみ処理対策やリサイクルの推進」(各 80.0%)、「22. 生活排水の処理対策」(79.9%)、「26. 公共交通の利便性の向上」(78.9%) の順となっている。

一方、「あまり重要でない」「重要ではない」の合計割合が最も高かったのは、「10. 人権啓発活動の推進」(18.7%) であり、次いで「16. 国際交流や地域資源による地域間交流の推進」(18.4%)、「28. ケーブルテレビやネット環境等」(17.9%)、「17. 芸術・文化活動の充実」(17.3%)、「33. 観光の振興」(15.9%)、「12. スポーツ活動の機会の充実」(14.7%)、「18. 文化財の保護と活用」(13.6%)、「36. 桂川町の知名度向上の取り組み」(13.1%)、の順となっている。

まちづくりの重要度(1つに〇)

全体(N=2168)

とても重要である 重要である あまり重要でない 重要ではない 無回答

凡例(%)



住民参画



健康・福祉・人権



教育・文化



まちづくりの重要度(1つに○)

全体(N=2168) とても重要である 重要である あまり重要でない 重要ではない 無回答
 凡例(%)

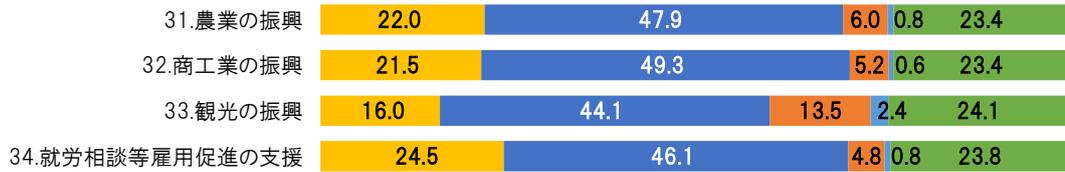
環境



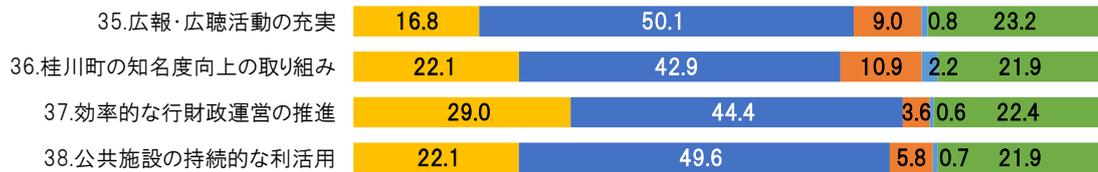
都市基盤



産業



行政



【重要度／平均評定値による集計】

重要度は以下に示す平均評定値を算出する方法で点数化している。

- 「重要度」については「とても重要である」「重要である」への回答とともに、「あまり重要でない」「重要ではない」という選択肢もある。そのため、この「重要度」をよりの確に分析するために、平均評定値による指標化を行った。
- 平均評定値は、「とても重要である」に+10点、「重要である」に+5点、「あまり重要でない」に-5点、「重要ではない」に-10点の係数（ウエイト）を設定し、

$$\frac{【（「とても重要である」の回答件数）×10（点）+（「重要である」の回答件数）×5（点）+（「あまり重要でない」の回答件数）×-5（点）+（「重要ではない」の回答件数）×-10（点）】}{【回答者件数-無回答件数】}$$

の計算によって算出し、指標としている。

- この指標によって、「重要度」の強弱を、より明確に分析することができる。

この指標による分析結果をみると、重要度評価が最も高い施策は、「7 子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備」（6.36）で、以下「21 安全でおいしい水の安定した提供」（6.23）、「29 火災や災害に対する体制の整備」「30 防犯や危険個所への対策の整備」（各 6.05）、「22 生活排水の処理対策」（5.85）の順となっている。

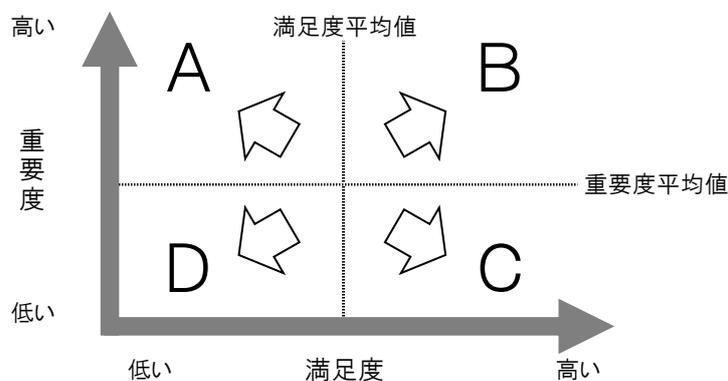
一方、相対的に重要度評価が低い施策としては、「10 人権啓発活動の推進」（2.70）、「16 国際交流や地域資源を活かした地域間交流の推進」（2.74）、「17 芸術・文化活動の充実」（2.80）、「33 観光の振興」（2.89）、「12 スポーツ活動の機会の充実」（3.03）などがあげられる。

番号	項目	重要度
1	住民参画によるまちづくりの推進	4.11
2	コミュニティ活動への支援	3.58
3	地域で支え合うための福祉活動やボランティア活動等への支援	4.31
4	健康診断等、保健サービスの提供や地域医療体制の整備	5.67
5	高齢者の健康維持や介護への取組	5.58
6	高齢者の生きがいづくりや社会参画への取組	4.76
7	子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備	6.36
8	障がい者の就労や社会参画への取組	4.72
9	男女共同参画社会の推進	3.41
10	人権啓発活動の推進	2.70
11	生涯学習機会の充実	3.34
12	スポーツ活動の機会の充実	3.03
13	学校教育の充実	5.74
14	学校教育施設の整備	5.39
15	学校・家庭・地域の一体的な教育体制の整備	5.13
16	国際交流や地域資源を活かした地域間交流の推進	2.74
17	芸術・文化活動の充実	2.80
18	文化財の保護と活用	3.48
19	公園・緑地の整備	4.73
20	環境保全・ふるさと景観づくり	4.35
21	安全でおいしい水の安定した提供	6.23
22	生活排水の処理対策	5.85
23	ごみ処理対策やリサイクルの推進	5.73
24	駅周辺等の整備	4.86
25	道路網の整備	4.96
26	公共交通の利便性の向上	5.74
27	公営住宅の整備や定住促進を図る取組	3.84
28	ケーブルテレビやネット環境等情報化の推進	3.07
29	火災や災害に対する体制の整備	6.05
30	防犯や危険個所への対策の整備	6.05
31	農業の振興	4.21
32	商工業の振興	4.29
33	観光の振興	2.89
34	就労相談等雇用促進の支援	4.43
35	広報・広聴活動の充実	3.65
36	桂川町の知名度向上の取り組み	3.60
37	効率的な行財政運営の推進	4.89
38	公共施設の持続的な利活用	4.33

(3) 各施策の満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度の平均評定値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、38の施策を散布図上に示したものが相関図である。

満足度と重要度の各平均値を基準としてA～Dの4つの領域に区分し、各施策がどの領域に配置されるのかを整理する。



4つの領域については、左上(A)、右上(B)、右下(C)、左下(D)の4方向に進むにしたがい、以下のような傾向を示している。

A. 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め、満足度を高める必要のある領域。

B. 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。

C. 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて、見直すべき必要のある領域。

D. 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものを、改めて見直す必要のある領域。

【A 重点化・見直し領域】

A重点化・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

番号	項目	満足度	重要度
26	公共交通の利便性の向上	-2.05	5.74
19	公園・緑地の整備	-1.53	4.73
30	防犯や危険箇所への対策の整備	-0.87	6.05
37	効率的な行財政運営の推進	-0.73	4.89
7	子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備	-0.60	6.36
14	学校教育施設の整備	-0.25	5.39
15	学校・家庭・地域の一体的な教育体制の整備	-0.16	5.13
29	火災や災害に対する体制の整備	-0.06	6.05
8	障がい者の就労や社会参画への取組	0.01	4.72
22	生活排水の処理対策	0.04	5.85

【B 現状維持領域】

B現状維持領域に含まれる施策は次のとおりである。

番号	項目	満足度	重要度
25	道路網の整備	0.17	4.96
6	高齢者の生きがいづくりや社会参画への取組	0.29	4.76
24	駅周辺等の整備	0.43	4.86
13	学校教育の充実	0.61	5.74
5	高齢者の健康維持や介護への取組	1.08	5.58
23	ごみ処理対策やリサイクルの推進	1.70	5.73
21	安全でおいしい水の安定した提供	1.92	6.23
4	健康診断等、保健サービスの提供や地域医療体制の整備	2.37	5.67

【C 現状維持・見直し領域】

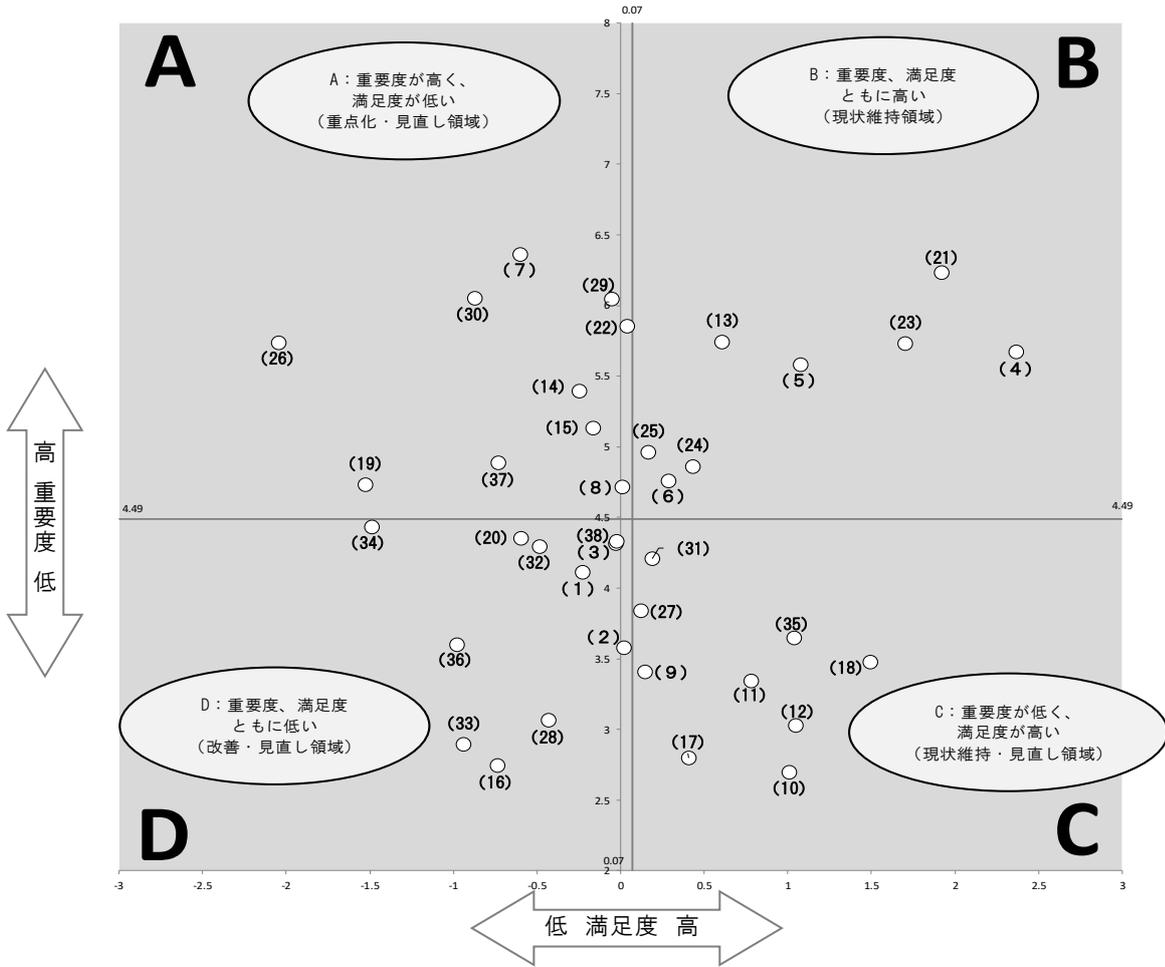
C現状維持・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

番号	項目	満足度	重要度
27	公営住宅の整備や定住促進を図る取組	0.12	3.84
9	男女共同参画社会の推進	0.14	3.41
31	農業の振興	0.19	4.21
17	芸術・文化活動の充実	0.41	2.80
11	生涯学習機会の充実	0.78	3.34
10	人権啓発活動の推進	1.01	2.70
35	広報・広聴活動の充実	1.04	3.65
12	スポーツ活動の機会の充実	1.05	3.03
18	文化財の保護と活用	1.49	3.48

【D 改善・見直し領域】

D改善・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

番号	項目	満足度	重要度
34	就労相談等雇用促進の支援	-1.49	4.43
36	桂川町の知名度向上の取り組み	-0.98	3.60
33	観光の振興	-0.94	2.89
16	国際交流や地域資源を活かした地域間交流の推進	-0.74	2.74
20	環境保全・ふるさと景観づくり	-0.60	4.35
32	商工業の振興	-0.49	4.29
28	ケーブルテレビやネット環境等情報化の推進	-0.43	3.07
1	住民参画によるまちづくりの推進	-0.23	4.11
3	地域で支え合うための福祉活動やボランティア活動等への支援	-0.03	4.31
38	公共施設の持続的な利活用	-0.03	4.33
2	コミュニティ活動への支援	0.02	3.58



住民参画		領域
(1)	住民参画によるまちづくりの推進	D
(2)	コミュニティ活動への支援	D
(3)	地域で支え合うための福祉活動やボランティア活動等への支援	D
健康・福祉・人権		
(4)	健康診断等、保健サービスの提供や地域医療体制の整備	B
(5)	高齢者の健康維持や介護への取組	B
(6)	高齢者の生きがいづくりや社会参画への取組	B
(7)	子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備	A
(8)	障がい者の就労や社会参画への取組	A
(9)	男女共同参画社会の推進	C
(10)	人権啓発活動の推進	C
教育・文化		
(11)	生涯学習機会の充実	C
(12)	スポーツ活動の機会の充実	C
(13)	学校教育の充実	B
(14)	学校教育施設の整備	A
(15)	学校・家庭・地域の一体的な教育体制の整備	A
(16)	国際交流や地域資源を活かした地域間交流の推進	D
(17)	芸術・文化活動の充実	C
(18)	文化財の保護と活用	C
環境		
(19)	公園・緑地の整備	A
(20)	環境保全・ふるさと景観づくり	D
(21)	安全でおいしい水の安定した提供	B
(22)	生活排水の処理対策	A
(23)	ごみ処理対策やリサイクルの推進	B
都市基盤		
(24)	駅周辺等の整備	B
(25)	道路網の整備	B
(26)	公共交通の利便性の向上	A
(27)	公営住宅の整備や定住促進を図る取組	C
(28)	ケーブルテレビやネット環境等情報化の推進	D
(29)	火災や災害に対する体制の整備	A
(30)	防犯や危険箇所への対策の整備	A
産業		
(31)	農業の振興	C
(32)	商工業の振興	D
(33)	観光の振興	D
(34)	就労相談等雇用促進の支援	D
行政		
(35)	広報・広聴活動の充実	C
(36)	桂川町の知名度向上の取り組み	D
(37)	効率的な行財政運営の推進	A
(38)	公共施設の持続的な利活用	D

【5】町政情報について

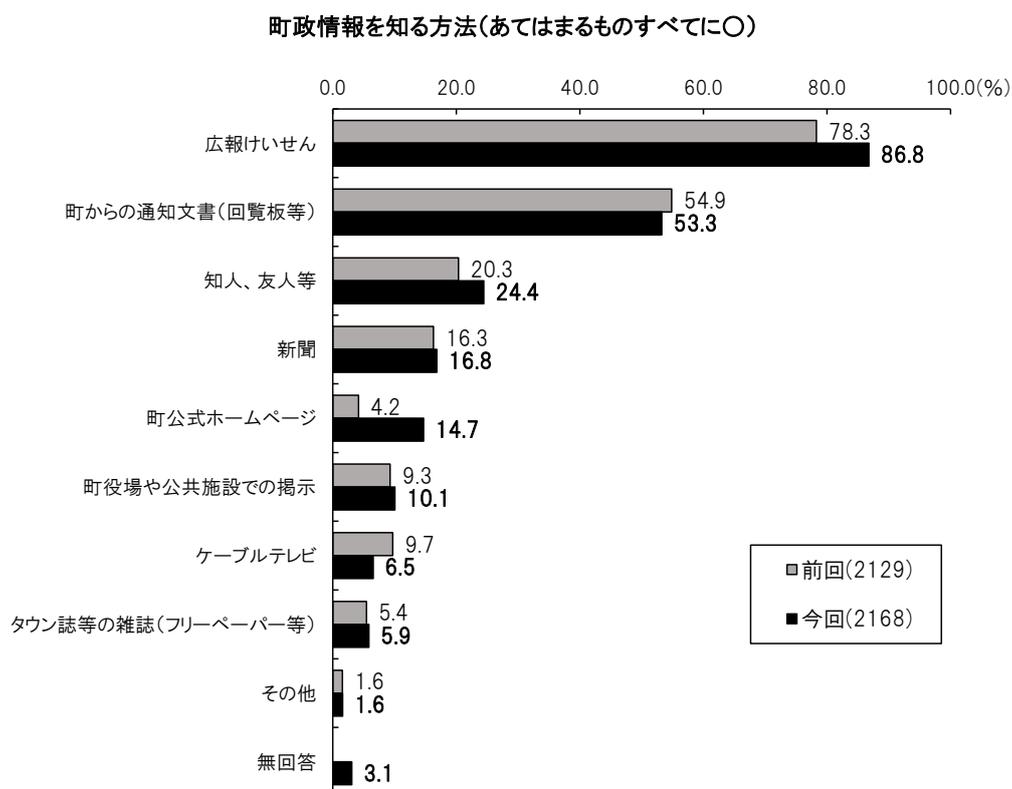
1 町政情報を知る方法

問13 あなたが、町のイベント等、町政情報を知る方法は何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

町政情報を知る方法については、「広報けいせん」の割合が86.8%と最も高く、次いで「町からの通知文書（回覧板等）」（53.3%）、「知人、友人等」（24.4%）、「新聞」（16.8%）、「町公式ホームページ」（14.7%）の順となっている。

前回と比較して、「町公式ホームページ」（+10.5ポイント）などが増加している。



【6】地域コミュニティ活動・住民との協働について

1 地域コミュニティ活動への参加状況

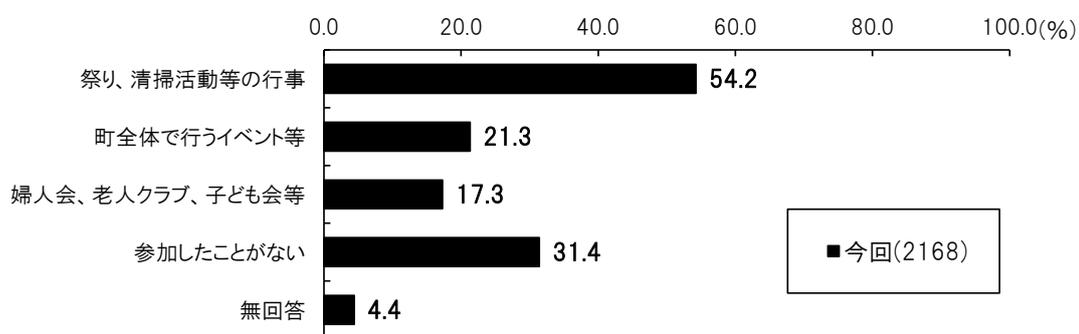
問 14 あなたは、地域コミュニティ活動にどの程度参加していますか。

【あてはまるものすべてに○】

地域コミュニティ活動への参加状況については、「祭り、清掃活動等の行事」の割合が54.2%と最も高く、次いで「町全体で行うイベント等」(21.3%)、「婦人会、老人クラブ、子ども会等」(17.3%)の順となっている。

「参加したことがない」の割合は、31.4%となっている。

地域コミュニティ活動への参加状況(あてはまるものすべてに○)

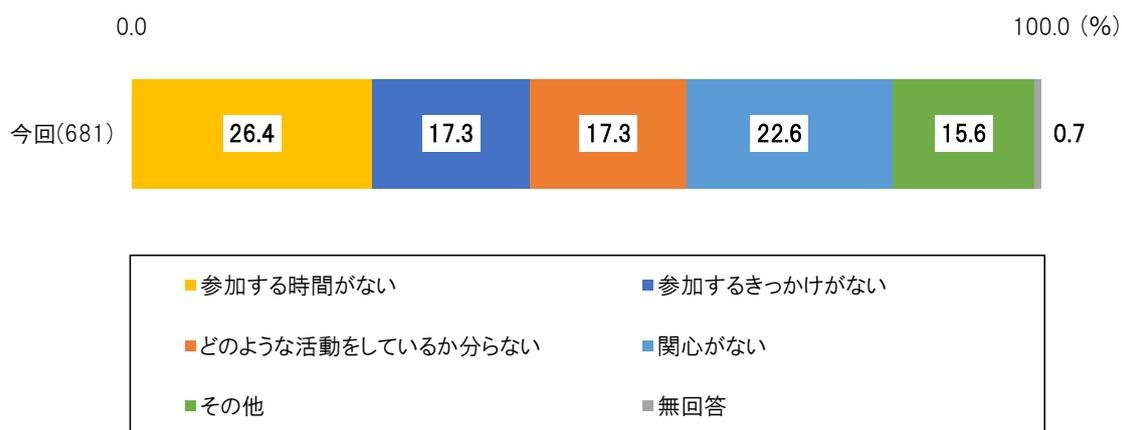


2 参加したことがない理由

問 15 ※【問 14】で「4. 参加したことがない」と答えた方におたずねします。
参加したことがない理由は何ですか。【 1つに〇 】

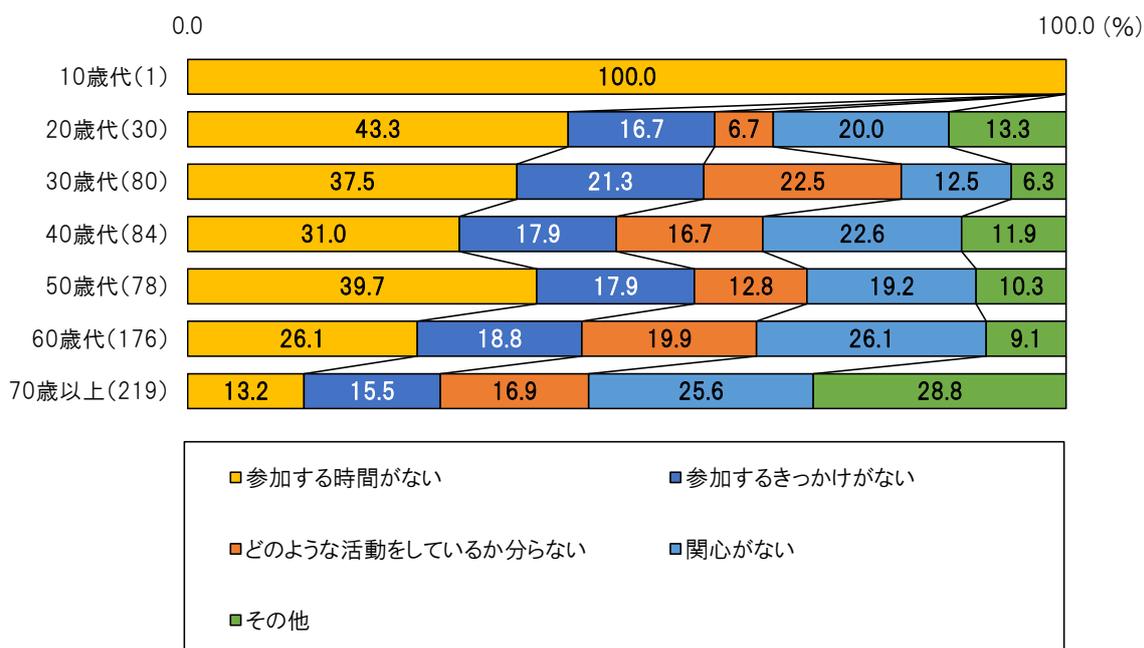
参加したことがない理由については、「参加する時間がない」の割合が 26.4%と最も高く、次いで「関心がない」(22.6%)、「参加するきっかけがない」「どのような活動をしているか分からない」(各 17.3%)の順となっている。

参加したことがない理由(1つに〇)



【問 15×年齢別】

年齢別では、おおむね年齢が下がるほど「参加する時間がない」の割合が高くなる傾向にある。



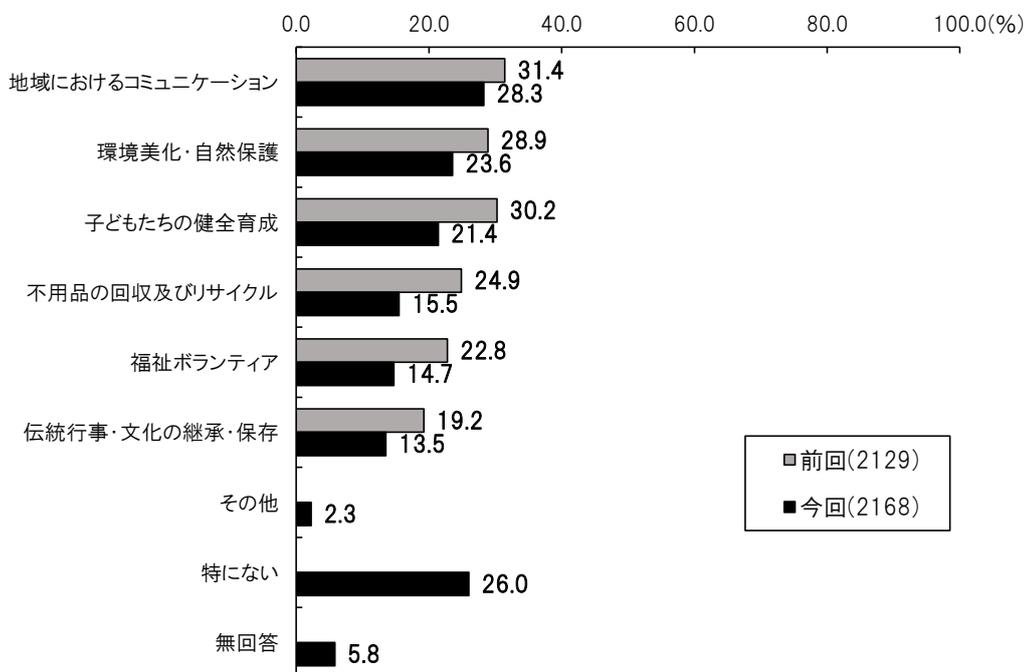
3 参加したいと思う活動・今後必要と思う活動

問 16 あなたが、今後参加したいと思う活動、あるいは今後必要と思う活動はどんなものがありますか。【 2つまでに○ 】

今後参加したい活動、あるいは今後必要と思う活動については、「地域におけるコミュニケーション」の割合が 28.3%と最も高く、次いで「環境美化・自然保護」(23.6%)、「子どもたちの健全育成」(21.4%)、「不用品の回収及びリサイクル」(15.5%)、「福祉ボランティア」(14.7%)の順となっている。

前回と比較して、「不用品の回収及びリサイクル」(-9.4ポイント)、「子どもたちの健全育成」(-8.8ポイント)、「福祉ボランティア」(-8.1ポイント)など、すべての活動で減少しており、「特にない」が増加している。「特にない」は今回新設

今後参加したい活動、あるいは今後必要と思う活動(2つまでに○)



【問 16×年齢別】

年齢別では、50歳代以上で「地域におけるコミュニケーションを目的とした活動」の割合が高く、40歳代以下で「子どもたちの健全育成のための活動」の割合が高くなっている。

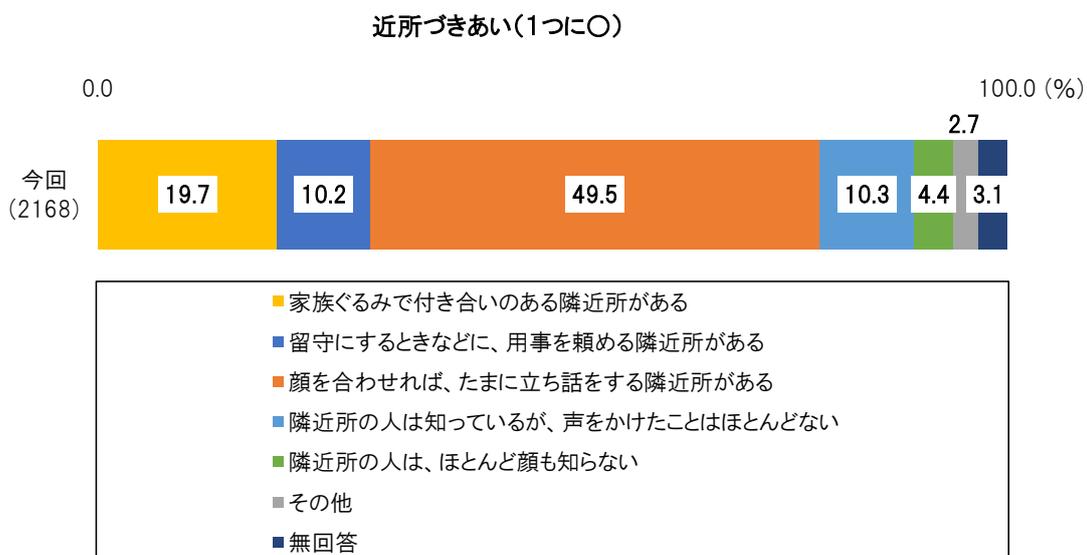
(%)

	地域におけるコミュニケーションを目的とした活動	子どもたちの健全育成のための活動	福祉ボランティア活動	環境美化・自然保護活動	不用品の回収及びリサイクル活動	伝統行事・文化の継承・保存活動	その他	特にない	合計
10歳代(5)	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	100
20歳代(64)	15.6	18.8	6.3	6.3	1.6	18.8	1.6	31.3	100
30歳代(251)	17.5	36.7	6.8	6.8	5.6	9.6	2.8	14.3	100
40歳代(355)	18.0	25.4	6.8	10.7	7.0	10.4	2.3	19.4	100
50歳代(375)	20.8	13.3	12.0	16.0	8.5	8.0	1.3	20.0	100
60歳代(799)	18.8	11.5	12.9	17.3	10.8	8.8	0.8	19.3	100
70歳以上(1248)	20.7	9.7	9.7	19.4	13.7	9.3	1.7	15.9	100

4 近所づきあい

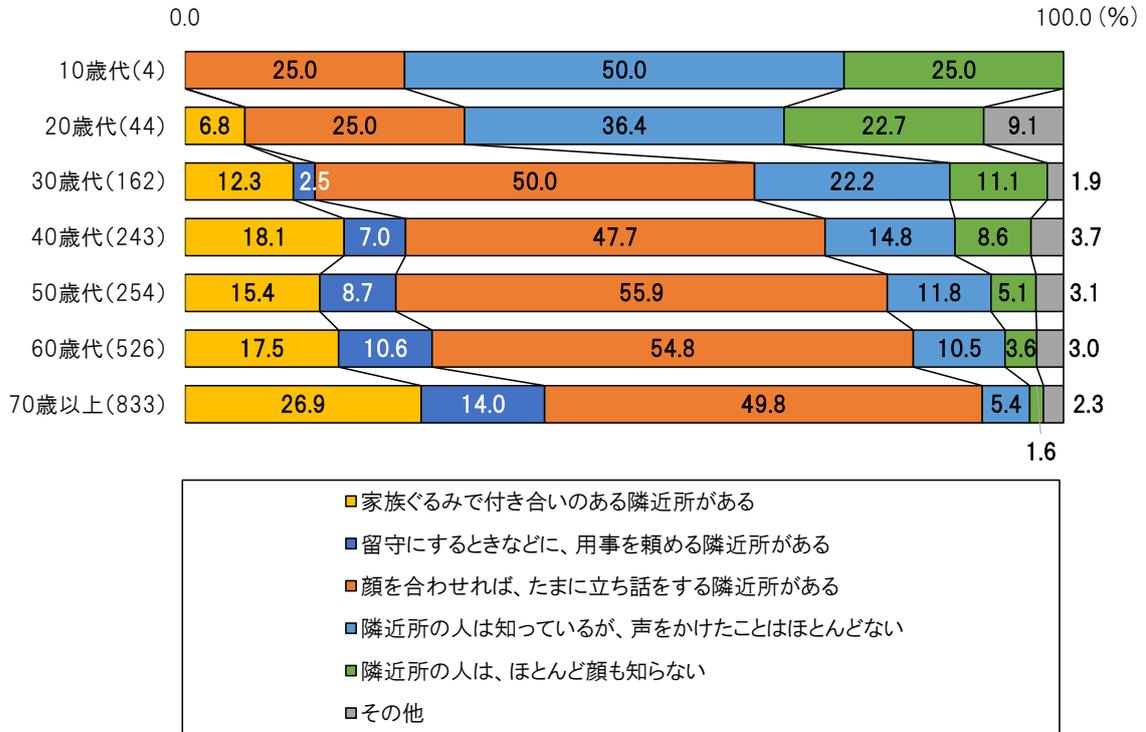
問 17 あなたの近所づきあいは、どの程度ですか。【 1 つに〇 】

近所づきあいについては、「顔を合わせれば、たまに立ち話をする隣近所がある」の割合が 49.5%、「家族ぐるみで付き合いのある隣近所がある」が 19.7%、「留守にするときなどに、用事を頼める隣近所がある」が 10.2%で、合計約 8 割（79.4%）が『親しく付き合い合っている人がいる』と回答している。一方、「隣近所の人を知っているが、声をかけたことはほとんどない」は 10.3%、「隣近所の人、ほとんど顔も知らない」は 4.4%となっている。



【問 17×年齢別】

年齢別では、おおむね年齢が上がるほど『親しく付き合っている人がある』の割合が高くなっている。一方、おおむね年齢が下がるほど「隣近所の人を知っているが、声をかけたことはほとんどない」の割合が高くなっている。



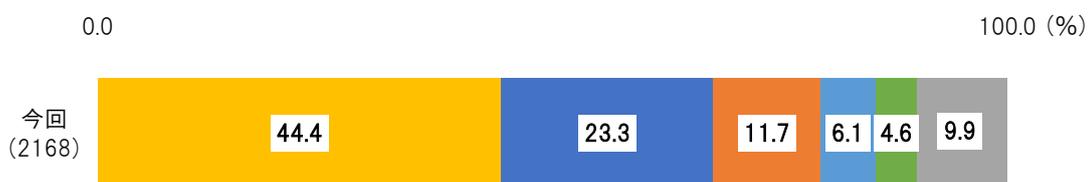
5 支え合う地域づくりのために必要なこと

問 18 支え合う地域づくりを進めるために、今後何が必要だと思いますか。

【 1 つに〇 】

支え合う地域づくりのために必要なことについては、「地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること」(23.3%)、「自治会等の地域活動やボランティア活動への参加を促すこと」(11.7%)、「地域で活動する様々な団体相互の交流を進めること」(6.1%)の順となっている。

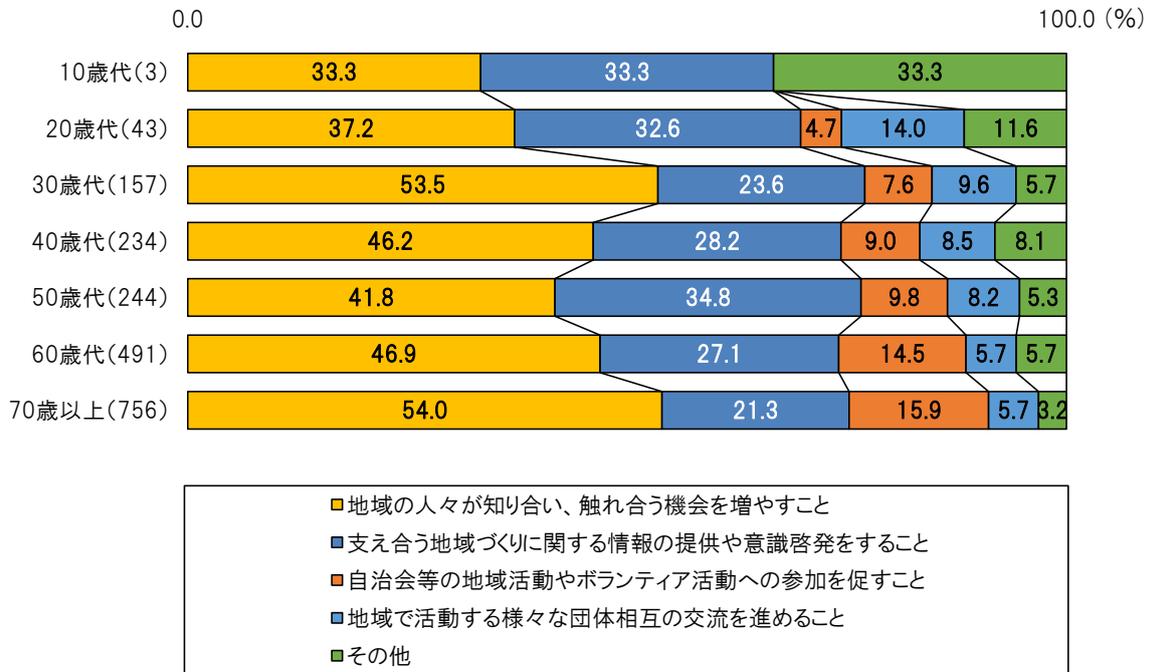
支え合う地域づくりのために必要なこと(1つに〇)



- 地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと
- 支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること
- 自治会等の地域活動やボランティア活動への参加を促すこと
- 地域で活動する様々な団体相互の交流を進めること
- その他
- 無回答

【問 18×年齢別】

年齢別では、70歳以上で「地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」の割合が54.0%と最も高く、次いで30歳代（53.5%）、60歳代（46.9%）、40歳代（46.2%）の順となっている。



【7】高齢者福祉・子育て支援について

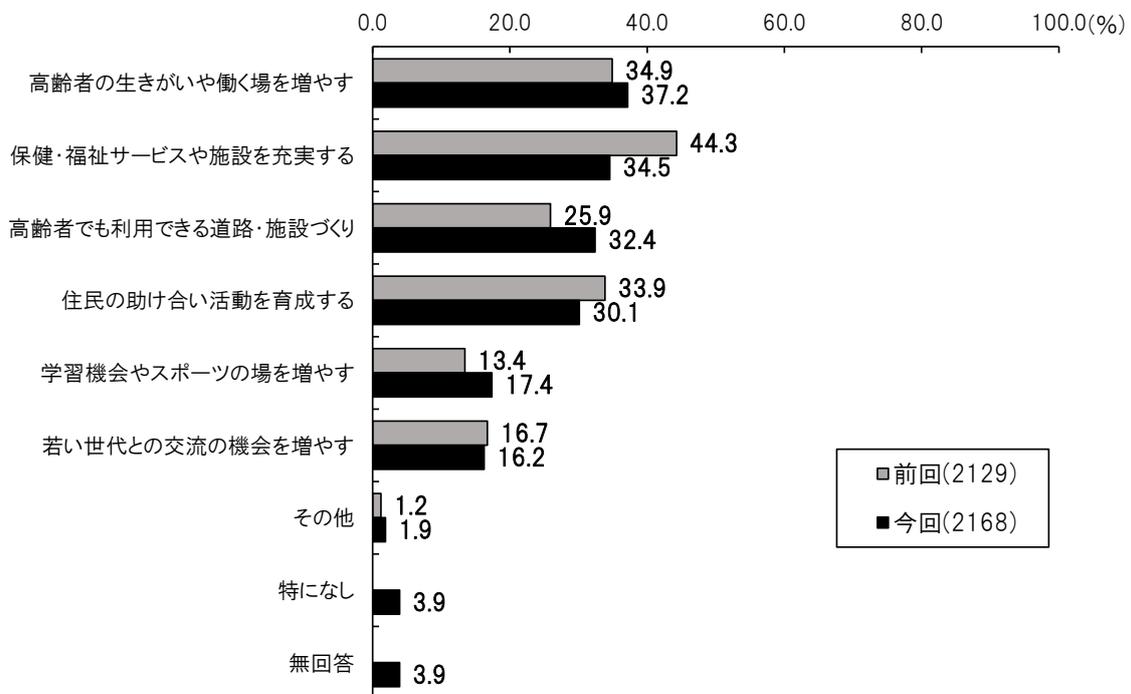
1 高齢社会に対応するために必要な取り組み

問 19 これからの本格的な高齢社会に対応していくため、町として、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【2つまでに○】

高齢社会に対応するために必要な取り組みについては、「高齢者の生きがいや働く場を増やす」の割合が37.2%と最も高く、次いで「保健・福祉サービスや施設を充実する」(34.5%)、「高齢者でも利用できる道路・施設づくり」(32.4%)、「住民の助け合い活動を育成する」(30.1%)、「学習機会やスポーツの場を増やす」(17.4%)の順となっている。

前回と比較して、「高齢者でも利用できる道路・施設づくり」(+6.5ポイント)などが増加し、「保健・福祉サービスや施設を充実する」(-9.8ポイント)などが減少している。

高齢社会に対応するために必要な取り組み(2つまでに○)



【問 19×年齢別】

年齢別では、10歳代と70歳以上を除いた年代で「高齢者の生きがいや働く場を増やす」の割合が最も高くなっている。一方、10歳代では「高齢者でも安心して利用できる道路づくりや施設づくり」、70歳以上では「寝たきり高齢者等の在宅生活を支援する保健・福祉サービスや施設を充実する」の割合が高くなっている。

(%)

	高齢者の生きがいや働く場を増やす	高齢者でも安心して利用できる道路づくりや施設づくり	高齢者と若い世代、子どもたちの交流の機会を増やす	高齢者のための学習機会やスポーツの場を増やす	寝たきり高齢者等の在宅生活を支援する保健・福祉サービスや施設を充実する	高齢者を地域で見守るような住民の助け合い活動を育成する	その他	特になし	合計
10歳代(5)	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	100
20歳代(75)	28.0	21.3	12.0	5.3	16.0	13.3	1.3	2.7	100
30歳代(290)	25.5	17.6	15.2	9.0	21.4	8.3	1.0	2.1	100
40歳代(433)	24.7	16.6	12.5	8.3	18.9	15.0	1.4	2.5	100
50歳代(471)	27.4	17.0	10.0	9.1	19.5	13.8	1.7	1.5	100
60歳代(962)	25.3	16.6	7.7	11.0	19.6	17.2	0.9	1.7	100
70歳以上(1471)	14.9	21.4	8.0	10.4	20.7	21.0	0.8	2.8	100

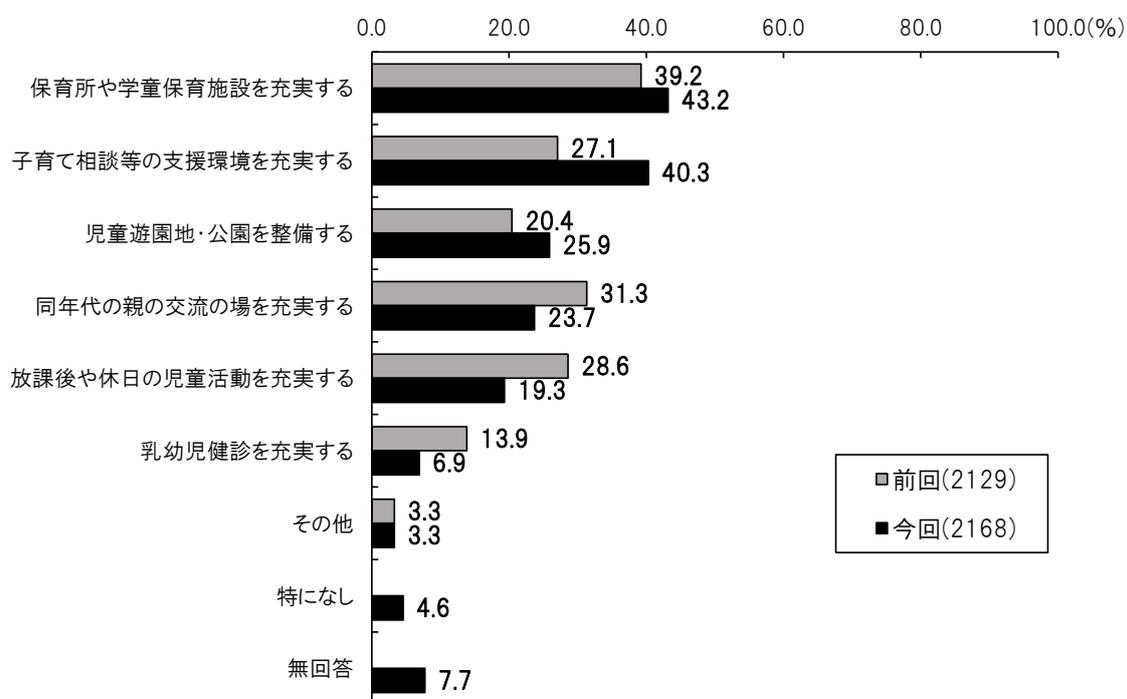
2 子育て支援として必要な取り組み

問 20 安心して子どもを産み育てることができるようにするため、町として、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

子育て支援として必要な取り組みについては、「保育所や学童保育施設を充実する」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「子育て相談等の支援環境を充実する」(40.3%)、「児童遊園地・公園を整備する」(25.9%)、「同年代の親の交流の場を充実する」(23.7%)、「放課後や休日の児童活動を充実する」(19.3%)、「乳幼児健診を充実する」(6.9%)の順となっている。

前回と比較して、「子育て相談等の支援環境を充実する」(+13.2ポイント)などが増加している。

子育て支援として必要な取り組み(2つまでに○)



【問 20×年齢別】

年齢別では、30 歳代以下で「児童遊園地・公園を整備する」、40 歳代以上で「保育所や学童保育施設を充実する」の割合が高くなっている。

一方、20 歳代を除いたすべての年代で「乳幼児健診を充実する」の割合が低くなっている。

(%)

	子育て相談等の支援環境を充実する	同年代の子どもを持つ親の交流の場を充実する	乳幼児健診を充実する	放課後や土曜日の児童活動を充実する	児童遊園地・公園を整備する	保育所や学童保育施設を充実する	その他	特になし	合計
10歳代(5)	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	100
20歳代(75)	22.7	6.7	8.0	6.7	28.0	25.3	1.3	1.3	100
30歳代(303)	17.2	14.5	4.6	15.2	24.1	20.8	3.0	0.7	100
40歳代(433)	20.8	11.5	4.2	14.1	21.0	23.1	4.2	1.2	100
50歳代(468)	24.6	12.6	2.8	13.5	14.3	27.4	2.1	2.8	100
60歳代(912)	27.7	14.1	4.1	11.1	12.6	26.6	1.3	2.4	100
70歳以上(1336)	24.7	15.9	4.5	10.4	13.8	25.6	1.3	3.7	100

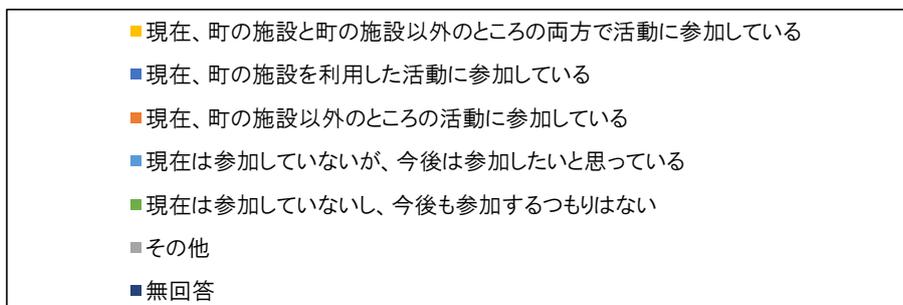
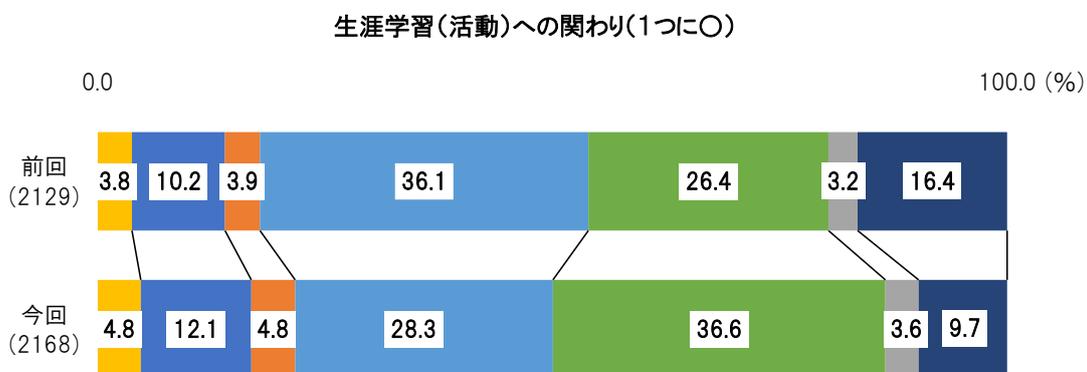
【8】生涯学習（活動）について

1 生涯学習（活動）への関わり

問 21 生涯学習（活動）に現在どのように関わっていますか。【 1つに〇 】

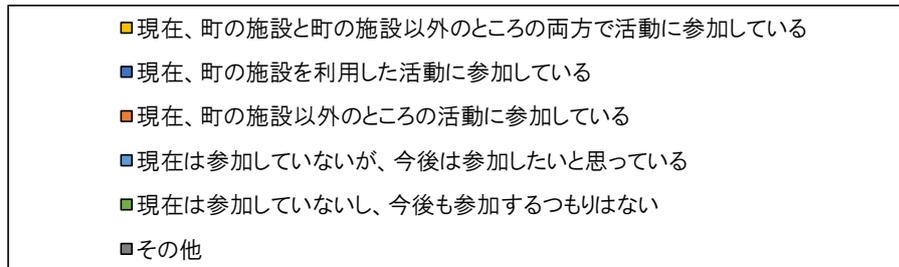
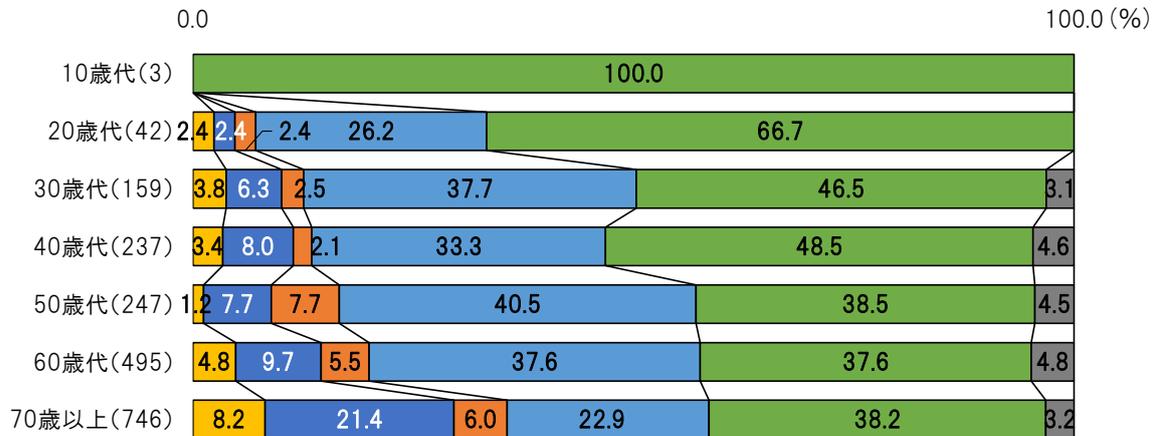
生涯学習（活動）への関わりについては、「現在は参加していないし、今後も参加するつもりはない」の割合が36.6%と最も高く、次いで「現在は参加していないが、今後参加したいと思っている」(28.3%)、「現在、町の施設を利用した活動に参加している」(12.1%)、「現在、町の施設と町の施設以外のところの両方で活動に参加している」「現在、町の施設以外のところの活動に参加している」（各4.8%）の順となっている。

前回と比較して、「現在は参加していないし、今後も参加するつもりはない」(+10.2ポイント)が増加し、「現在は参加していないが、今後参加したいと思っている」(-7.8ポイント)が減少している。



【問 21×年齢別】

年齢別では、おおむね年齢が下がるほど「現在は参加していないし、今後も参加するつもりはない」の割合が高くなっており、10歳代では100.0%となっている。



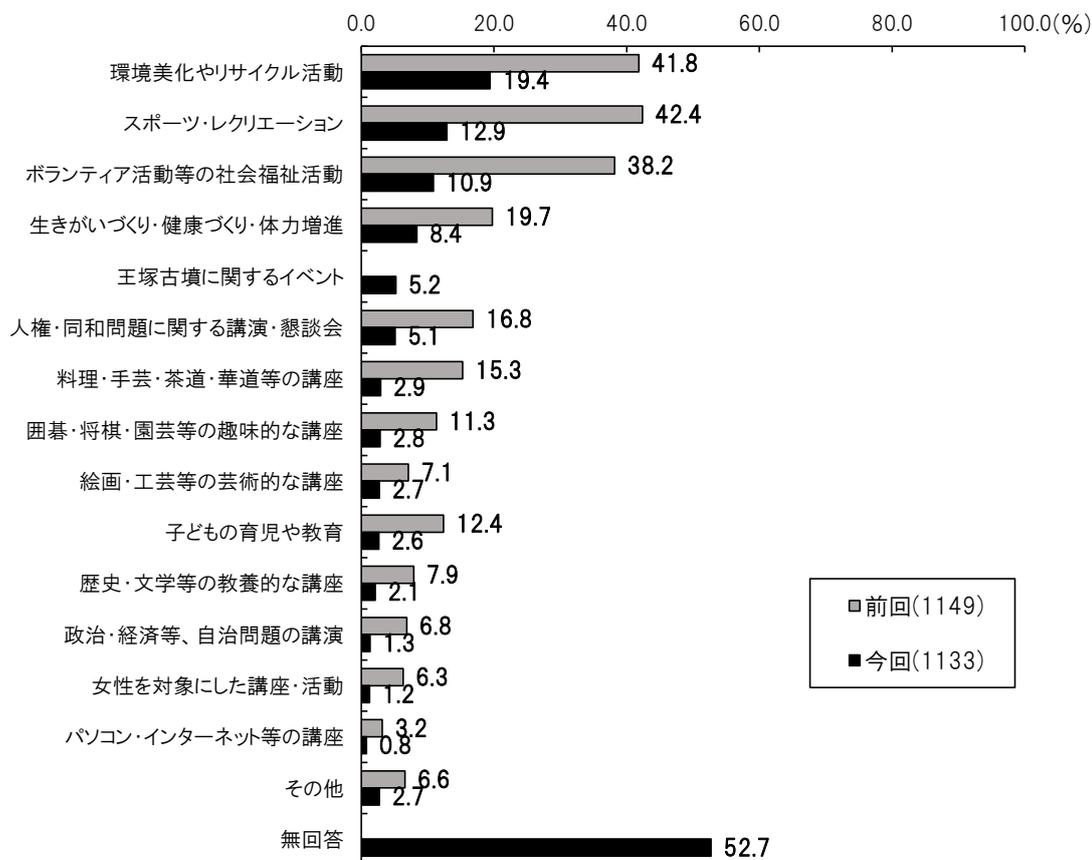
2 参加している・参加したい生涯学習（活動）の内容

問 22 ※【問 21】で「1. 現在、町の施設と町の施設以外のところの両方で活動に参加している」「2. 現在、町の施設を利用した活動に参加している」「3. 現在、町の施設以外のところの活動に参加している」「4. 現在は参加していないが、今後は参加したいと思っている」に回答した方へ質問します。
あなたは、現在どんな活動に参加していますか。また、今後、どんな内容の催しに参加したいと思いますか。
【あてはまるものそれぞれ最大3つまでに○】

現在参加している生涯学習（活動）については、「環境美化やリサイクル活動」の割合が19.4%と最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーション」(12.9%)、「ボランティア活動等の社会福祉活動」(10.9%)、「生きがいきづくり・健康づくり・体力増進」(8.4%)、「王塚古墳に関するイベント」(5.2%)の順となっている。

前回と比較して、「スポーツ・レクリエーション」(-29.5ポイント)、「ボランティア活動等の社会福祉活動」(-27.3ポイント)、「環境美化やリサイクル活動」(-22.4ポイント)など、すべての活動で減少している。

現在参加している生涯学習（活動）(3つまでに○)



【問 22×年齢別】※現在参加

年齢別では、50歳代以上で「環境美化やリサイクル活動」の割合が高くなっている。20歳代では「人権・同和問題に関する講演・懇談会」「王塚古墳に関するイベント」、30歳代では「人権・同和問題に関する講演・懇談会」、40歳代では「スポーツ・レクリエーション」の割合が高くなっている。

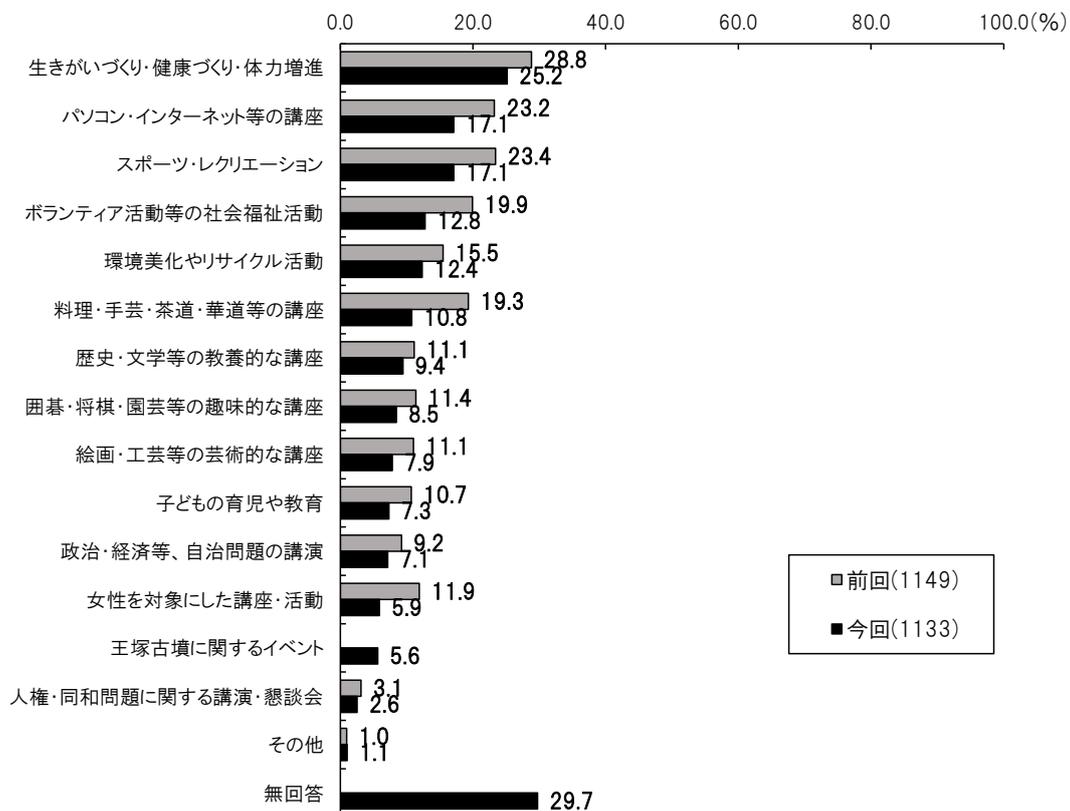
(%)

	政治・経済等、自治問題の講演	ボランティア活動等の社会福祉活動	環境美化やリサイクル活動	子どもの育児や教育をテーマにした催し	女性を対象にした講座・活動	パソコン・インターネット等の情報機器の講座	歴史・文学等の教養的な講座	絵画・工芸等の芸術的な講座	料理・手芸・茶道・華道等の講座・活動	囲碁・将棋・園芸等の趣味的な講座・活動	生きがいづくり・健康づくり・体力増進をテーマにした催し	人権・同和問題に関する講演・懇談会	スポーツ・レクリエーション	王塚古墳に関するイベント	その他	合計
10歳代(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
20歳代(7)	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	28.6	14.3	100
30歳代(50)	0.0	8.0	16.0	8.0	0.0	0.0	2.0	4.0	2.0	4.0	2.0	22.0	16.0	16.0	0.0	100
40歳代(68)	1.5	10.3	23.5	14.7	1.5	0.0	0.0	1.5	4.4	0.0	2.9	2.9	26.5	10.3	0.0	100
50歳代(115)	2.6	11.3	27.0	4.3	0.9	2.6	1.7	1.7	2.6	3.5	2.6	10.4	21.7	5.2	1.7	100
60歳代(203)	1.0	12.8	25.1	2.5	2.0	1.5	1.5	4.4	3.0	3.0	9.4	6.4	18.2	5.9	3.4	100
70歳以上(456)	1.8	14.9	24.6	1.3	1.8	0.7	3.7	3.3	4.2	4.6	12.7	5.7	11.6	4.8	4.4	100

今後参加したい生涯学習(活動)については、「生きがいづくり・健康づくり・体力増進」の割合が25.2%と最も高く、次いで「パソコン・インターネット等の講座」「スポーツ・レクリエーション」(各17.1%)、「ボランティア活動等の社会福祉活動」(12.8%)、「環境美化やリサイクル活動」(12.4%)の順となっている。

前回と比較して、「料理・手芸・茶道・華道等の講座」(-8.5ポイント)、「ボランティア活動等の社会福祉活動」(-7.1ポイント)、「スポーツ・レクリエーション」(-6.3ポイント)など、すべての活動で減少している。

今後参加したい生涯学習(活動)(3つまでに○)



【問 22×年齢別】※参加予定

年齢別では、10歳代で「政治・経済等、自治問題の講演」、「ボランティア活動等の社会福祉活動」「環境美化やリサイクル活動」の割合が高くなっている。20歳代、40歳代では「スポーツ・レクリエーション」、30歳代では「子どもの育児や教育をテーマにした催し」の割合が高くなっている。50歳代以上では「生きがい・健康づくり・体力増進をテーマにした催し」の割合が高くなっている。

(%)

	政治・経済等、自治問題の講演	ボランティア活動等の社会福祉活動	環境美化やリサイクル活動	子どもの育児や教育をテーマにした催し	女性を対象にした講座・活動	パソコン・インターネット等の情報機器の講座	歴史・文学等の教育的な講座	絵画・工芸等の芸術的な講座	料理・手芸・茶道等の講座・活動	囲碁・将棋・園芸等の趣味的な講座・活動	生きがいづくり・健康づくり・体力増進をテーマにした催し	人権・同和問題に関する講演・懇談会	スポーツ・レクリエーション	王塚古墳に関するイベント	その他	合計
10歳代(3)	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
20歳代(27)	7.4	3.7	0.0	14.8	0.0	7.4	0.0	7.4	7.4	0.0	11.1	3.7	22.2	11.1	3.7	100
30歳代(153)	3.3	7.2	6.5	19.0	4.6	9.2	2.0	2.0	8.5	4.6	7.2	1.3	17.0	7.8	0.0	100
40歳代(198)	3.5	10.1	7.6	12.6	5.6	8.6	1.0	4.0	7.6	2.5	12.6	2.5	16.7	5.1	0.0	100
50歳代(250)	3.2	9.6	7.6	1.6	4.8	11.6	5.2	7.2	10.8	4.4	15.2	2.0	13.6	2.8	0.4	100
60歳代(495)	4.8	9.5	7.5	1.8	3.0	15.8	8.3	5.7	3.8	6.3	19.6	1.2	9.5	2.6	0.6	100
70歳以上(547)	6.2	7.1	10.4	1.8	3.8	9.3	8.8	5.3	6.6	7.7	19.0	1.6	7.7	3.5	1.1	100

【9】生活環境について

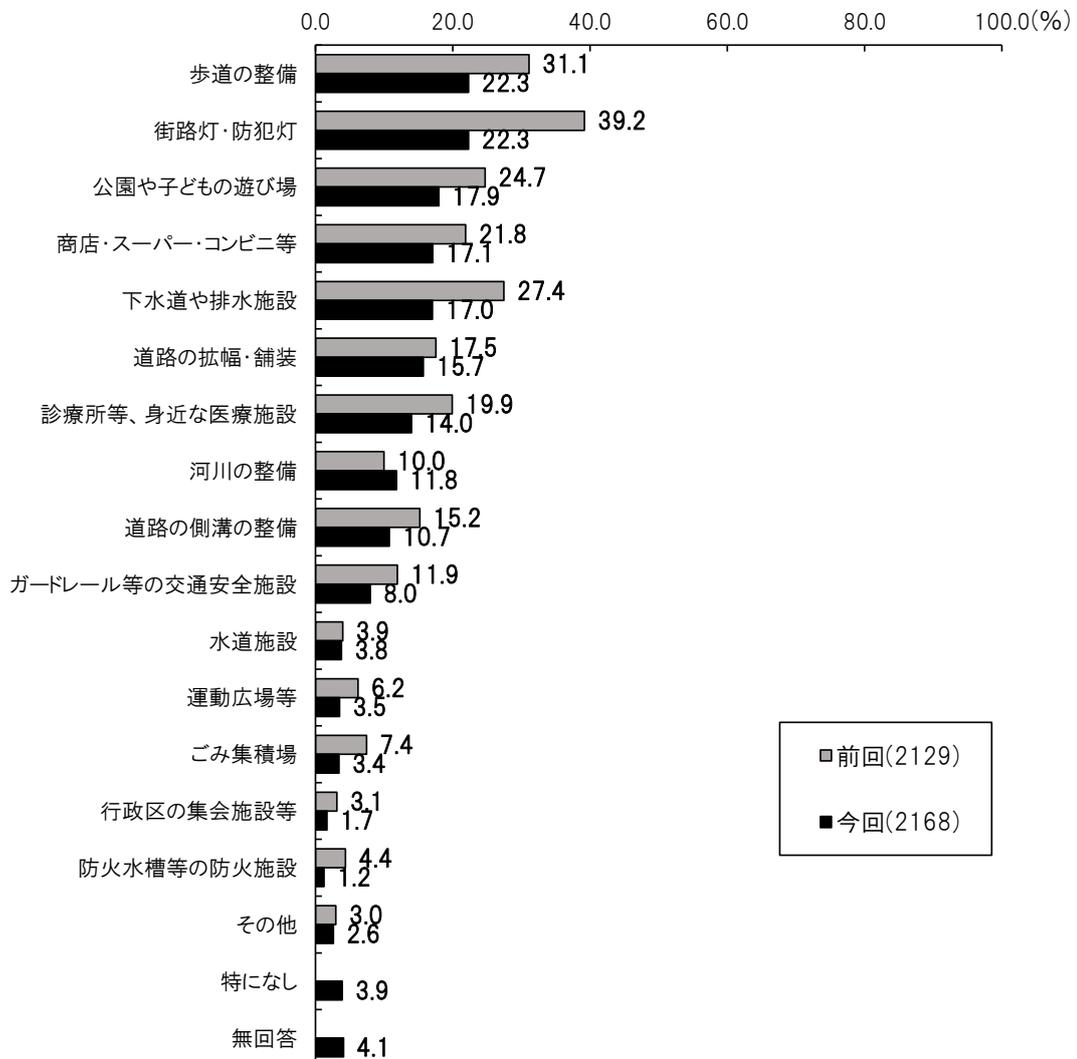
1 生活環境改善のために必要な施設の整備

問 23 生活環境を改善しようとする場合、特にどのような施設の整備が必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

生活環境改善のために必要な施設の整備については、「歩道の整備」「街路灯・防犯灯」の割合が各 22.3%と最も高く、次いで「公園や子どもの遊び場」(17.9%)、「商店・スーパー・コンビニ等」(17.1%)、「下水道や排水施設」(17.0%) の順となっている。

前回と比較して、「街路灯・防犯灯」(−16.9ポイント)などが減少している。

生活環境改善のために必要な施設の整備(2つまでに○)



【問 23×年齢別】

年齢別では、10歳代で「運動広場等」、20歳代、30歳代で「公園や子どもの遊び場」の割合が高くなっている。40歳代で「街路灯・防犯灯」、50歳代で「商店・スーパー・コンビニ等」の割合が高くなっている。60歳代で「下水道や排水施設」、70歳以上で「歩道の整備」の割合が高くなっている。

(%)

	道路の 拡幅・ 舗装	道路の 側溝の 整備	歩道の 整備	ガード レール 等の交 通安 全施 設	水道 施設	下 水 道 や 排 水 施 設	公 園 や 子 ど も の 遊 び 場	街 路 灯 ・ 防 犯 灯	診 療 所 等 ・ 身 近 な 医 療 施 設	河 川 の 整 備	行 政 区 の 集 会 施 設 等	運 動 広 場 等	商 店 ・ ス ー パ ー ・ コ ン ビ ニ 等	防 火 水 槽 等 の 防 火 施 設	ご み 集 積 場	その他	特 に な し	合 計
10歳代(7)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	100
20歳代(77)	10.4	2.6	10.4	3.9	2.6	1.3	23.4	16.9	5.2	5.2	0.0	0.0	10.4	0.0	1.3	3.9	2.6	100
30歳代(314)	8.3	3.2	10.8	3.8	1.0	4.5	20.7	17.8	5.4	4.5	0.3	1.9	13.7	0.0	1.3	2.9	0.0	100
40歳代(465)	8.4	4.3	13.5	5.6	1.7	5.4	14.2	16.3	5.4	7.5	0.4	2.6	10.3	0.4	0.6	1.7	1.5	100
50歳代(475)	8.8	5.3	11.2	4.4	3.6	7.4	8.0	13.7	9.1	5.5	0.8	1.5	14.5	0.6	2.1	2.3	1.3	100
60歳代(962)	9.3	6.0	11.3	4.0	1.9	12.2	9.8	11.0	8.3	8.1	0.8	1.7	9.1	0.8	2.7	0.8	2.2	100
70歳以上(1479)	8.9	7.8	13.8	4.8	2.2	11.8	6.9	10.8	8.6	6.4	1.4	2.2	7.4	0.9	2.0	1.1	3.0	100

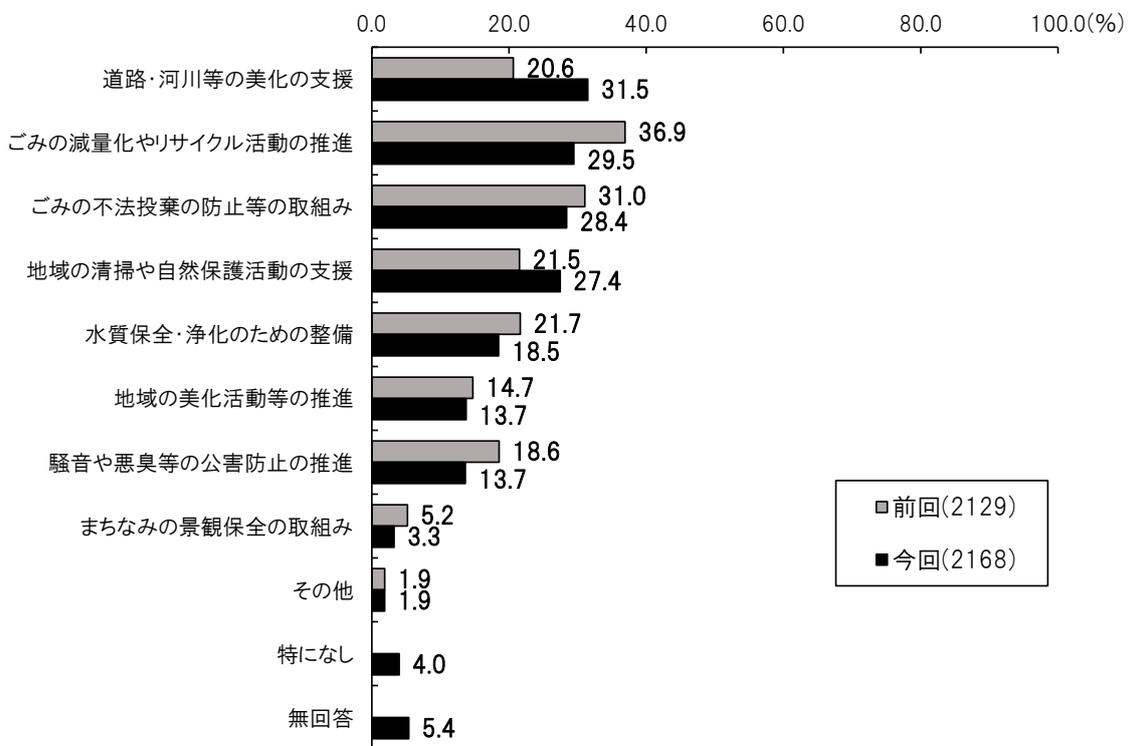
2 自然環境保全・生活環境美化のために必要な取り組み

問 24 地域の自然環境の保全や生活環境を美しくするため、町として、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

自然環境保全・生活環境美化のために必要な取り組みについては、「道路・河川等の美化の支援」の割合が 31.5%と最も高く、次いで「ごみの減量化やリサイクル活動の推進」(29.5%)、「ごみの不法投棄の防止等の取組み」(28.4%)、「地域の清掃や自然保護活動の支援」(27.4%)の順となっている。

前回と比較して、「道路・河川等の美化の支援」(+10.9ポイント)、「地域の清掃や自然保護活動の支援」(+5.9ポイント)が増加している。

自然環境保全・生活環境美化のために必要な取り組み(2つまでに○)



【問 24×年齢別】

年齢別では、20歳代から60歳代で「道路・河川等の美化の支援」の割合が高く、70歳以上では「ごみの減量化やリサイクル活動、あるいはごみのポイ捨て防止等の啓発活動の積極的な推進」の割合が高くなっている。

(%)

	地域の清掃活動や自然保護活動を支援する	道路・河川等の美化の支援	ごみの減量化やリサイクル活動、あるいはごみのポイ捨て防止等の啓発活動の積極的な推進	地域の美化活動や花いっぱい運動等の推進	ごみの不法投棄の防止等の取組み	水質保全・浄化のための整備(合併処理浄化槽等含む)	屋外広告物の規制等まちなみの景観保全の取組み	騒音や悪臭等の公害防止の推進	その他	特になし	合計
10歳代(6)	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	100
20歳代(72)	15.3	19.4	12.5	2.8	13.9	5.6	5.6	18.1	1.4	5.6	100
30歳代(292)	16.4	21.6	13.0	6.8	11.0	9.9	4.5	13.4	0.7	2.7	100
40歳代(441)	15.2	19.7	15.6	7.0	17.2	10.4	2.3	8.6	1.6	2.3	100
50歳代(462)	16.9	19.7	15.4	8.4	13.6	12.8	1.9	8.4	1.3	1.5	100
60歳代(948)	14.3	19.3	17.0	9.0	16.7	11.5	1.8	7.1	1.4	2.0	100
70歳以上(1452)	16.9	16.1	19.5	8.2	18.5	10.2	1.3	6.4	0.8	2.1	100

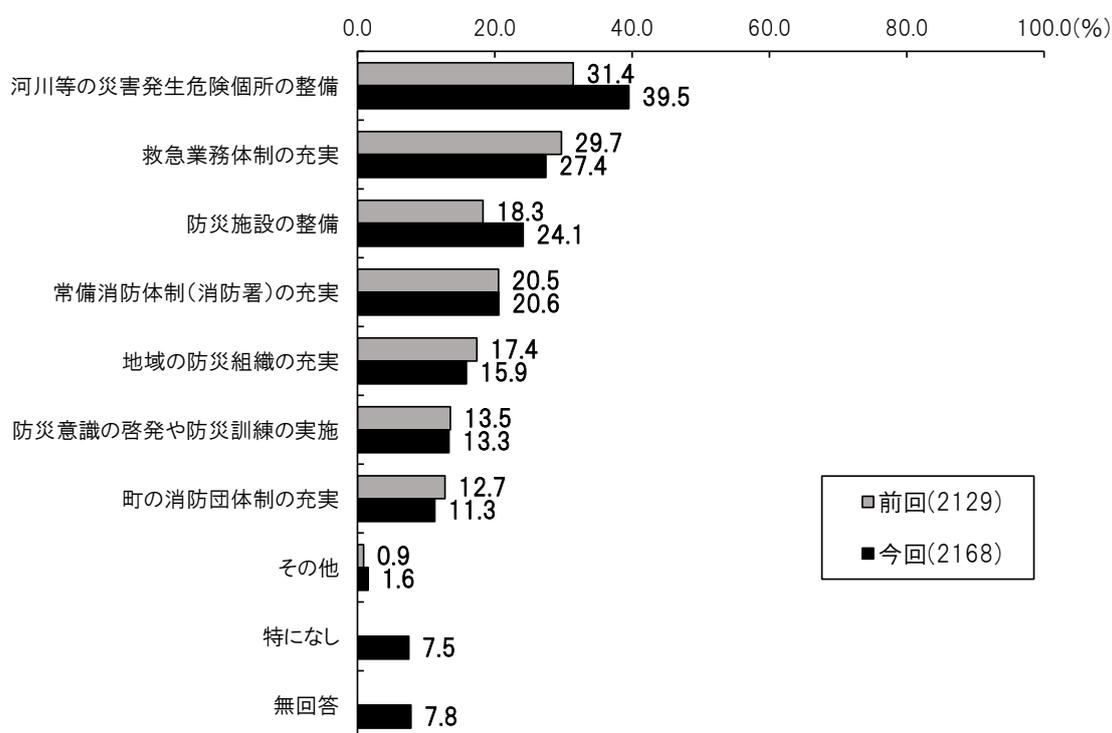
3 消防・防災対策に必要な取り組み

問 25 町の消防・防災対策について、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

消防・防災対策に必要な取り組みについては、「河川等の災害発生危険個所の整備」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「救急業務体制の充実」(27.4%)、「防災施設の整備」(24.1%)、「常備消防体制(消防署)の充実」(20.6%)の順となっている。

前回と比較して、「河川等の災害発生危険個所の整備」(+8.1ポイント)や「防災施設の整備」(+5.8ポイント)が増加している。

消防・防災対策に必要な取り組み(2つまでに○)



【問 25×年齢別】

年齢別では、10 歳代で「救急業務体制の充実」「防災施設（避難場所や防火水槽等）の整備」「地域の防災組織の充実」の割合が高くなっている。

(%)

	常備消防体制(消防署)の充実	町の消防団体制の充実	救急業務体制の充実	河川等の災害発生危険個所の整備	防災施設(避難場所や防火水槽等)の整備	地域の防災組織の充実	防災意識の啓発活動及び防災訓練の実施	その他	特になし	合計
10歳代(4)	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	100
20歳代(72)	12.5	12.5	12.5	25.0	8.3	4.2	9.7	2.8	12.5	100
30歳代(278)	11.5	6.1	17.3	25.9	17.3	11.5	5.0	1.1	4.3	100
40歳代(398)	12.1	7.0	15.8	28.1	15.3	8.0	7.3	0.8	5.5	100
50歳代(438)	13.9	6.4	15.3	24.7	17.4	9.4	7.8	0.9	4.3	100
60歳代(894)	12.4	6.4	17.8	24.9	14.3	8.8	10.1	0.8	4.5	100
70歳以上(1354)	13.1	7.4	17.6	23.2	14.5	10.9	8.1	1.0	4.2	100

【10】都市基盤について

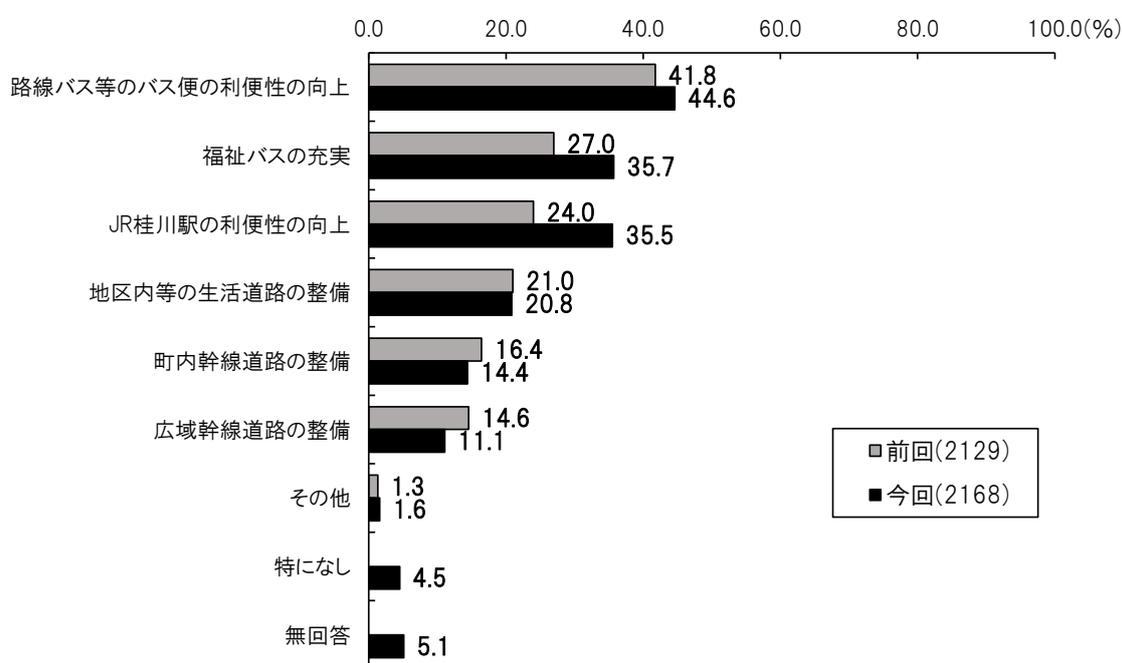
1 必要な道路・交通手段

問 26 今後どのような道路、交通手段が必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

今後必要な道路・交通手段については、「路線バス等のバス便の利便性の向上」の割合が44.6%と最も高く、次いで「福祉バスの充実」(35.7%)、「JR 桂川駅の利便性の向上」(35.5%)、「地区内等の生活道路の整備」(20.8%)の順となっている。

前回と比較して、「JR 桂川駅の利便性の向上」(+11.5ポイント)や「福祉バスの充実」(+8.7ポイント)などが増加している。

必要な道路・交通手段(2つまでに○)



【問 26×年齢別】

年齢別では、40歳代以下で「JR 桂川駅の利便性の向上」の割合が高く、50歳代以上で「路線バス等のバス便の利便性の向上」の割合が高くなっている。

(%)

	隣接自治体等 を結ぶ広域幹線道路 の整備	町内幹線道路 の整備	地区内等の 生活道路の 整備	JR桂川駅の 利便性の向 上	路線バス等 のバス便の利 便性の向上	福祉バスの 充実	その他	特になし	合計
10歳代(6)	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	100
20歳代(73)	12.3	5.5	11.0	28.8	24.7	6.8	1.4	9.6	100
30歳代(284)	6.7	11.6	13.0	27.5	26.1	12.0	1.1	2.1	100
40歳代(416)	7.0	7.5	12.3	27.4	24.8	18.0	1.2	1.9	100
50歳代(458)	9.0	6.8	13.5	24.0	24.9	17.7	0.9	3.3	100
60歳代(928)	5.3	8.4	12.6	21.6	26.2	23.0	0.5	2.5	100
70歳以上(1437)	6.1	9.0	12.5	16.5	27.8	24.6	1.0	2.5	100

【11】 産業振興について

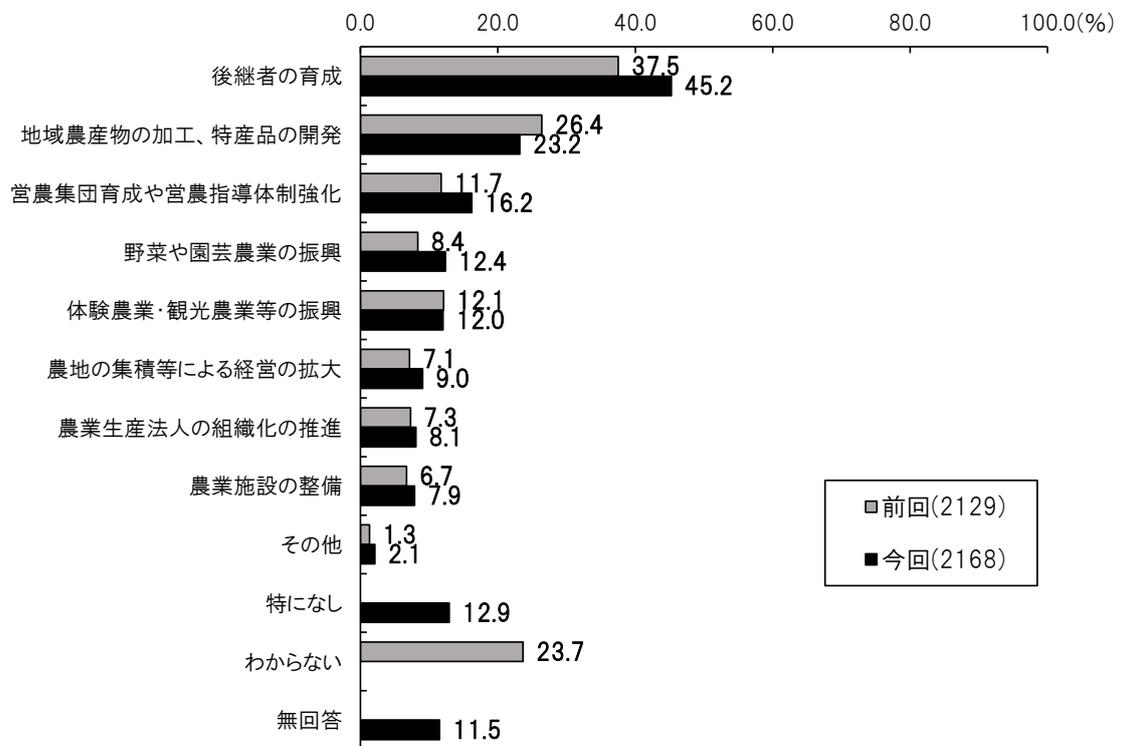
1 農業振興のために必要な取り組み

問 27 町の農業を振興するために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

農業振興のために必要な取り組みについては、「後継者の育成」の割合が 45.2%と最も高く、次いで「地域農産物の加工、特産品の開発」(23.2%)、「営農集団育成や営農指導体制強化」(16.2%)、「野菜や園芸農業の振興」(12.4%)の順となっている。

前回と比較して、「後継者の育成」(+7.7ポイント)や「営農集団育成や営農指導体制強化」(+4.5ポイント)が増加している。

農業振興のために必要な取り組み(2つまでに○)



【問 27×年齢別】

年齢別では、10歳代で「農業施設の整備」、「農業生産法人の組織化の推進」の割合が高くなっている。

(%)

	若農(農家)集団の育成や営農指導体制の強化	農業施設の整備	後継者の育成	農地の集積や農作業委託等の推進による経営の拡大	有機栽培等の特色ある農産物や地域農産物の加工、特産品の開発推進	野菜や園芸農業の振興	農業生産法人の組織化の推進	体験農業・観光農業等の振興	その他	特になし	合計
10歳代(3)	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	100
20歳代(71)	12.7	9.9	33.8	1.4	11.3	5.6	2.8	8.5	1.4	12.7	87
30歳代(275)	8.0	8.0	33.5	2.5	12.4	6.5	3.3	17.1	1.8	6.9	92
40歳代(386)	8.0	4.7	30.8	4.9	15.8	6.0	4.4	14.8	1.3	9.3	92
50歳代(416)	13.9	4.8	27.4	5.3	16.6	6.7	6.5	10.3	1.4	7.0	86
60歳代(830)	11.8	5.9	30.2	6.6	15.4	7.6	6.3	6.7	1.2	8.2	88
70歳以上(1208)	10.7	4.5	30.9	7.5	15.8	10.4	5.4	3.9	1.6	9.4	89

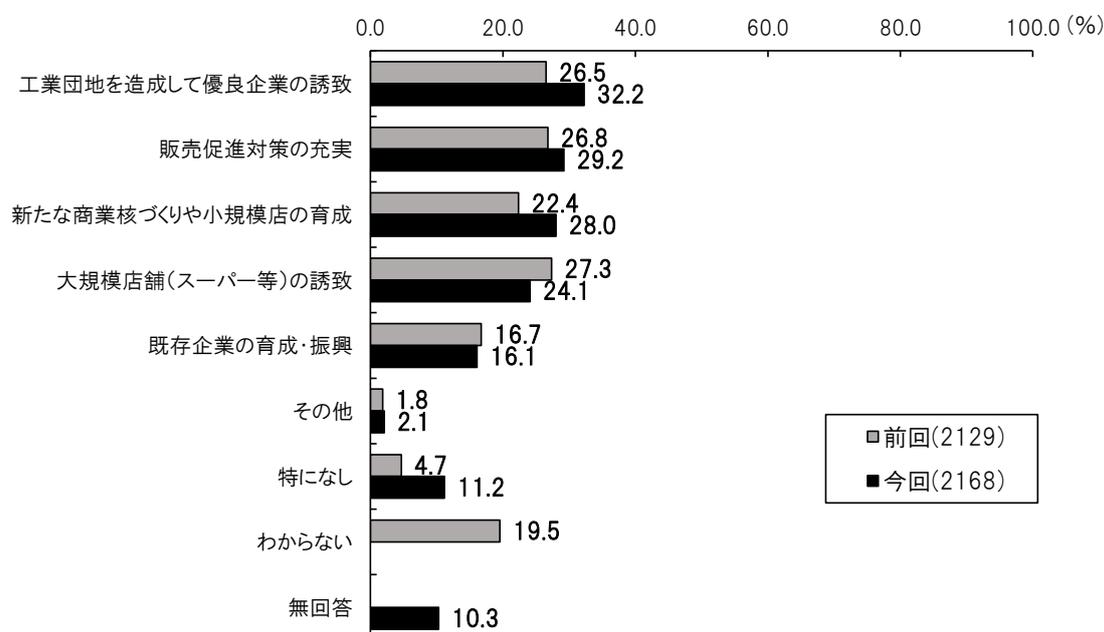
2 商工業振興のために必要な取り組み

問 28 町の商工業を振興するために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

商工業振興のために必要な取り組みについては、「工業団地を造成して優良企業の誘致」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「販売促進対策の充実」(29.2%)、「新たな商業核づくりや小規模店の育成」(28.0%)、「大規模店舗(スーパー等)の誘致」(24.1%)の順となっている。

前回と比較して、「工業団地を造成して優良企業の誘致」(+5.7ポイント)や「新たな商業核づくりや小規模店の育成」(+5.6ポイント)が増加し、「大規模店舗(スーパー等)の誘致」(-3.2ポイント)が減少している。

商工業振興のために必要な取り組み(2つまでに○)



【問 28×年齢別】

年齢別では、20歳代～40歳代で「商業イベントの開催や消費者サービス等販売促進対策の充実」、50歳代以上で「工業団地を造成して優良企業の誘致」の割合が高くなっている。

(%)

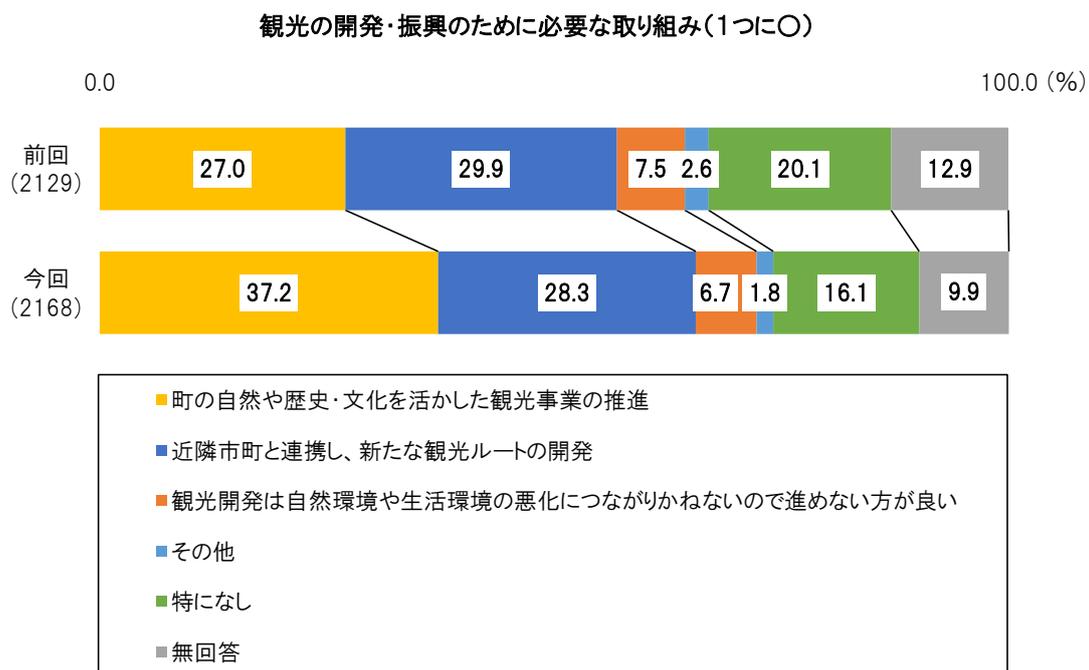
	小規模の共同店舗化による新たな商業核づくりや小規模店の育成	商業イベントの開催や消費者サービス等販売促進対策の充実	駐車場が整備された大規模な店舗(スーパー等)の誘致	工業団地を造成して優良企業の誘致	既存企業の育成・振興	その他	特になし	合計
10歳代(5)	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	100
20歳代(66)	18.2	22.7	16.7	19.7	9.1	3.0	10.6	100
30歳代(271)	15.1	29.2	25.8	14.4	8.5	1.8	5.2	100
40歳代(367)	15.5	24.8	17.7	19.6	10.6	1.1	10.6	100
50歳代(391)	17.6	18.7	19.7	25.6	9.7	2.0	6.6	100
60歳代(796)	19.3	20.0	15.8	24.0	12.7	1.3	6.9	100
70歳以上(1160)	22.7	17.9	14.1	23.8	12.1	1.3	8.2	100

3 観光の開発・振興のために必要な取り組み

問 29 町の観光の開発・振興のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 1つに○ 】

観光の開発・振興のために必要な取り組みについては、「町の自然や歴史・文化を活かした観光事業の推進」の割合が 37.2%と最も高く、次いで「近隣市町と連携し、新たな観光ルートの開発」(28.3%)、「観光開発は自然環境や生活環境の悪化につながりかねないので進めない方がよい」(6.7%)の順となっている。

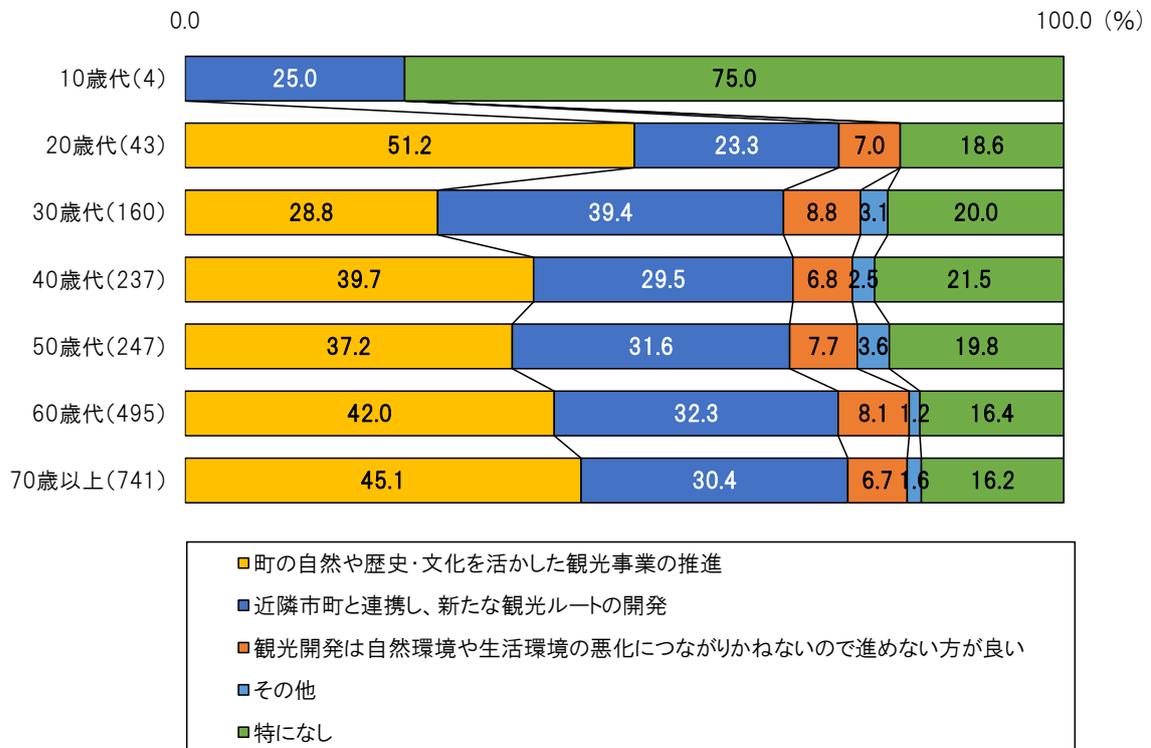
前回と比較して、「町の自然や歴史・文化を活かした観光事業の推進」(+10.2ポイント)が増加している。



※「特になし」は、前回「わからない」(20.1%)の数値と比較

【問 29×年齢別】

年齢別では、20 歳代、60 歳代以上で「町の自然や歴史・文化を活かした観光事業の推進」「近隣市町と連携し、新たな観光ルートの開発」をあわせた『観光開発・振興に前向きな姿勢（合計）』の割合が70%を越えている。



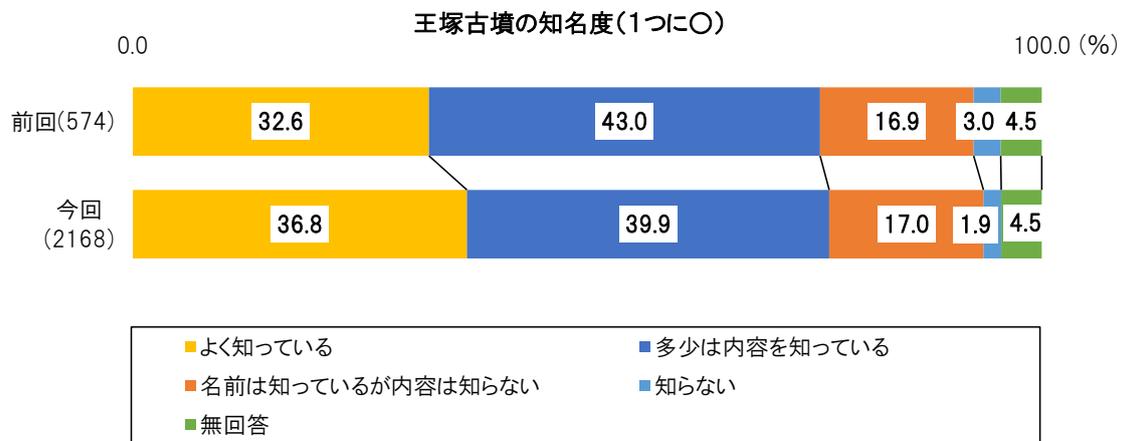
【12】 王塚古墳について

1 王塚古墳の知名度

問 30 王塚古墳について知っていますか。【 1 つに〇 】

王塚古墳の知名度については、「多少は内容を知っている」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「よく知っている」(36.8%)、「名前は知っているが内容は知らない」(17.0%)、「知らない」(1.9%) の順となっている。

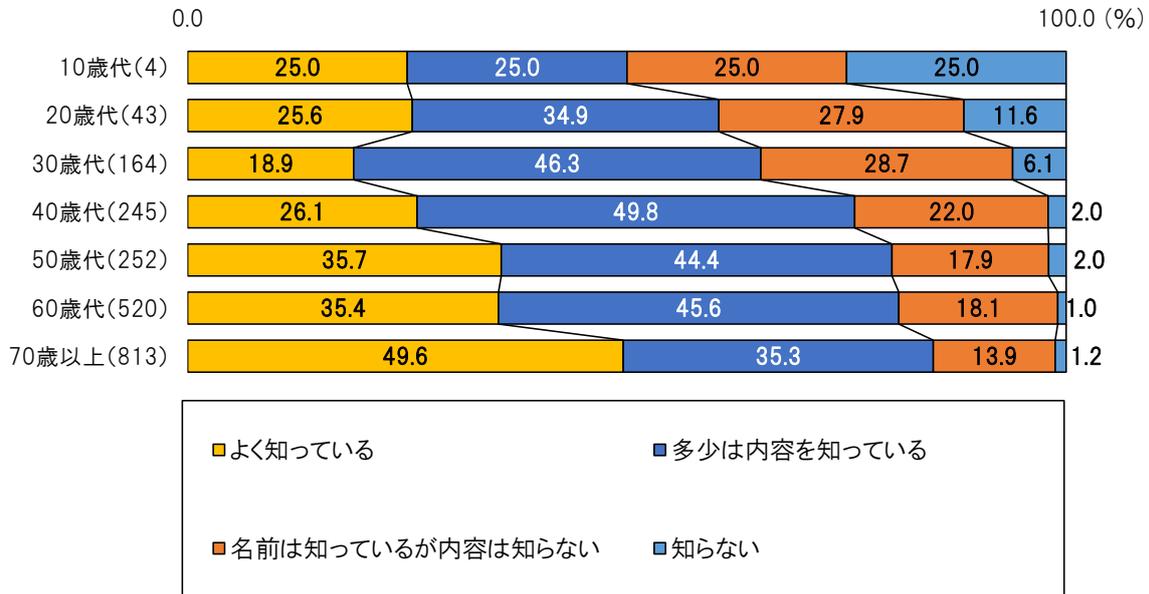
前回と比較して、「よく知っている」(+4.2 ポイント)が増加し、「多少は内容を知っている」(-3.1 ポイント)が減少しており、認知度は上がっている。



※「前回」の数値は「桂川町人口ビジョン・総合戦略等策定のための住民アンケート」より抜粋

【問 30×年齢別】

年齢別では、70歳以上で「よく知っている」「多少は内容を知っている」をあわせた『知っている（合計）』の割合が最も高く、おおむね年齢が下がるほど「名前は知っているが内容は知らない」「知らない」をあわせた『知らない（合計）』の割合が高くなっている。

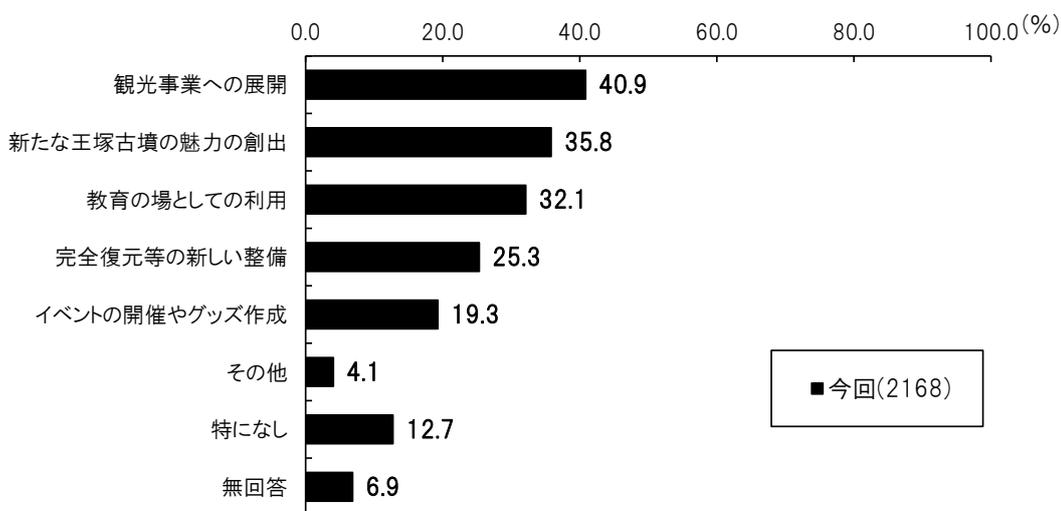


2 王塚古墳を活かしたまちづくりで必要な取り組み

問 31 王塚古墳を活かしたまちづくりを行う中で、どのような取り組みをすべきだと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

王塚古墳を活かしたまちづくりで必要な取り組みについては、「観光事業への展開」の割合が 40.9%と最も高く、次いで「新たな王塚古墳の魅力創出」(35.8%)、「教育の場としての利用」(32.1%)、「完全復元等の新しい整備」(25.3%)、「イベントの開催やグッズ作成」(19.3%)の順となっている。

王塚古墳を活かしたまちづくりで必要な取り組み(あてはまるものすべてに○)



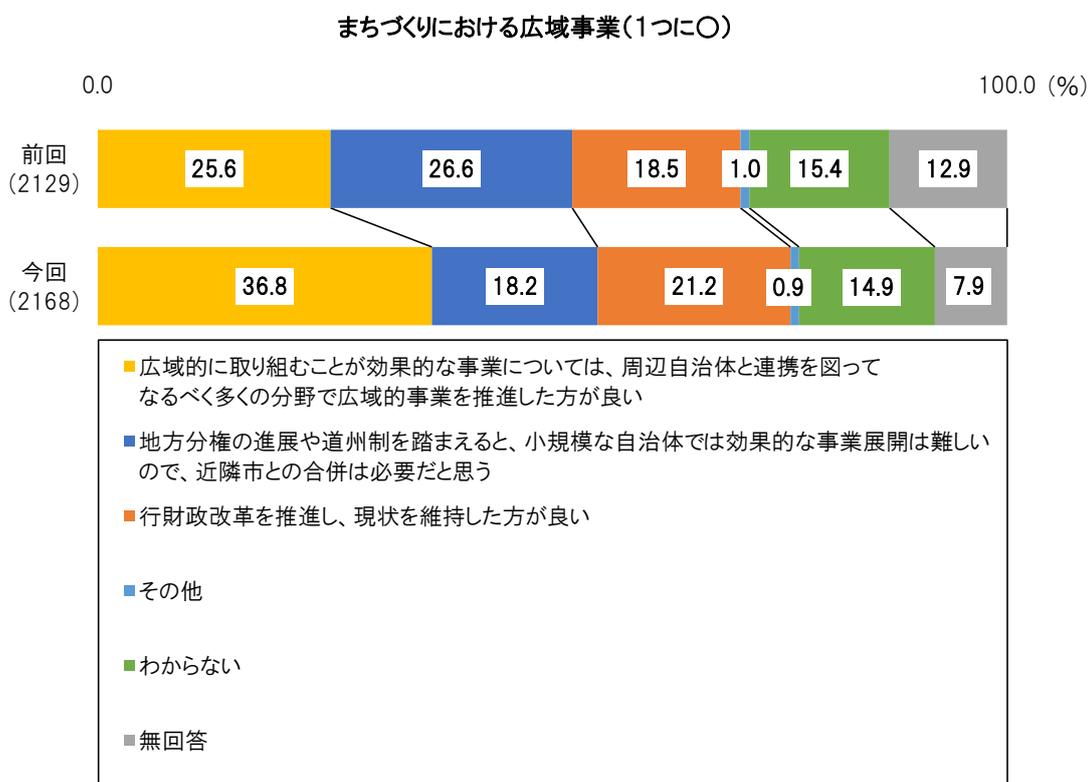
【13】 広域事業の推進について

1 まちづくりにおける広域事業

問 32 まちづくりを進めるにあたって、周辺自治体と連携を図って広域的に事業を進めることについて、あなたはどのように思いますか。【 1つに〇 】

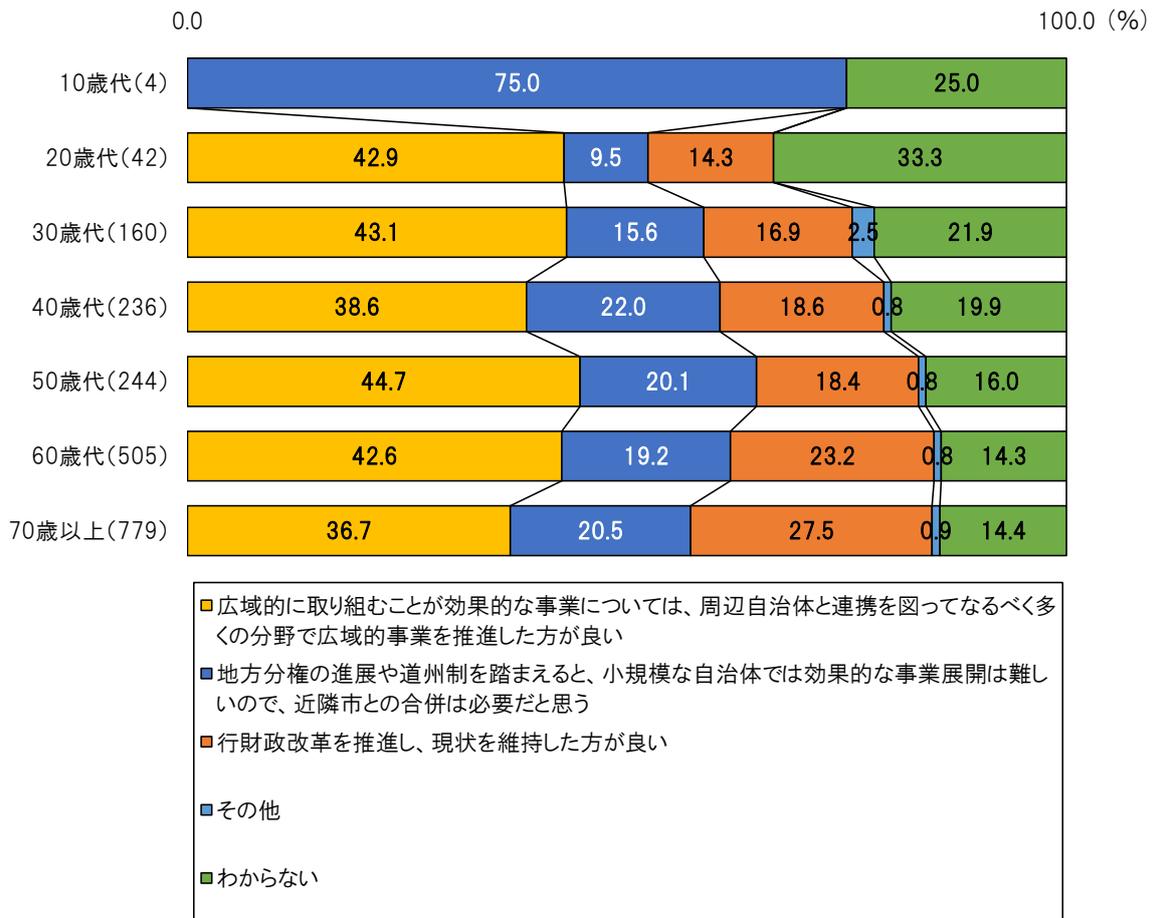
まちづくりにおける広域事業については、「広域的に取り組むことが効果的な事業については、周辺自治体と連携を図ってなるべく多くの分野で広域的事業を推進した方が良い」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「行財政改革を推進し、現状を維持した方が良い」(21.2%)、「地方分権の進展や道州制を踏まえると、小規模な自治体では効果的な事業展開は難しいので、近隣市との合併は必要だと思う」(18.2%)の順となっている。

前回と比較して、「広域的に取り組むことが効果的な事業については、周辺自治体と連携を図ってなるべく多くの分野で広域的事業を推進した方が良い」(+11.2ポイント)などが増加している。



【問 32×年齢別】

年齢別では、10歳代で「地方分権の進展や道州制を踏まえると、小規模な自治体では効果的な事業展開は難しいので、近隣市との合併は必要だと思う」の割合が最も高くなっている。一方、50歳代で「広域的に取り組むことが効果的な事業については、周辺自治体と連携を図ってなるべく多くの分野で広域的事業を推進した方が良い」の割合が最も高くなっている。



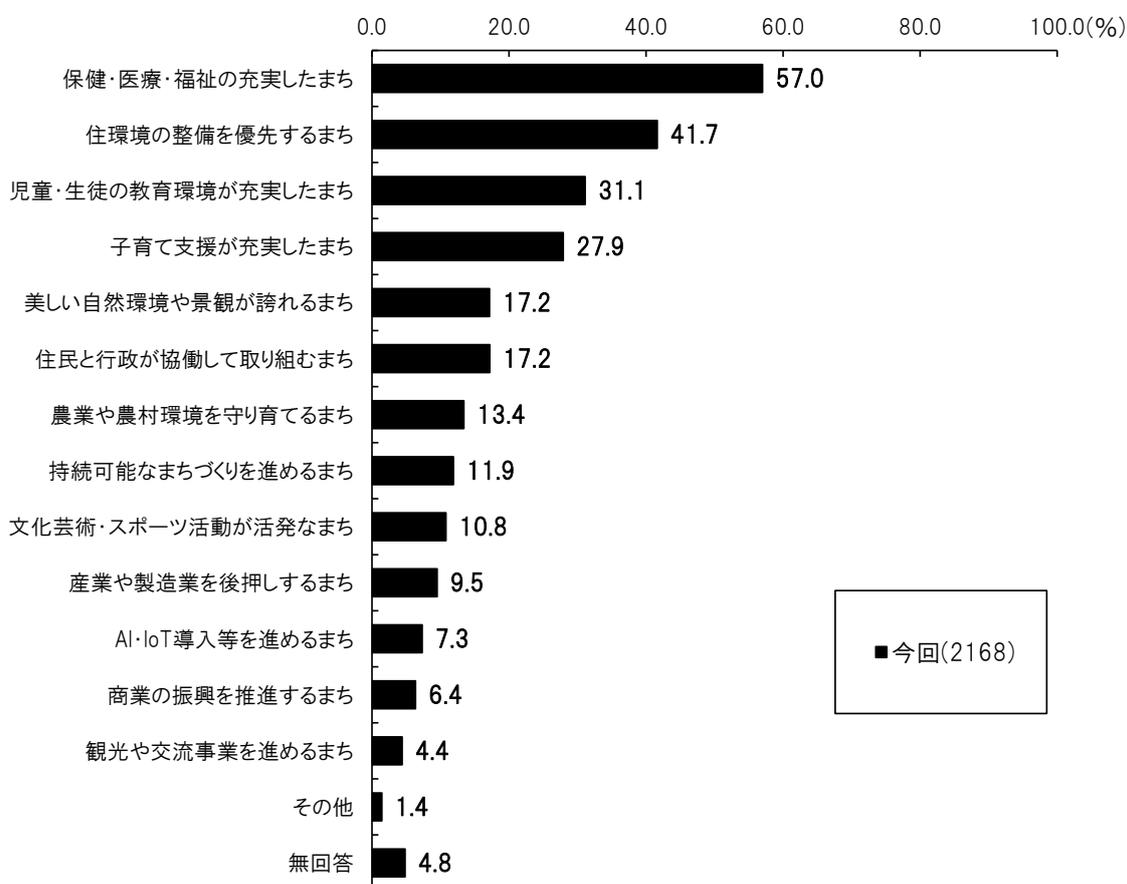
【14】 これからのまちづくりについて

1 今後取り組むべきまちづくり

問 33 あなたは、今後、桂川町はどのようなまちづくりに取り組むべきだと思いますか。【 3つまでに○ 】

今後取り組むべきまちづくりについては、「保健・医療・福祉の充実したまち」の割合が57.0%と最も高く、次いで「住環境の整備を優先するまち」(41.7%)、「児童・生徒の教育環境が充実したまち」(31.1%)、「子育て支援が充実したまち」(27.9%)の順となっている。

今後取り組むべきまちづくり(3つまでに○)



【問 33×年齢別】

年齢別では、20歳代、30歳代を除いたすべての年代で「保健・医療・福祉の充実したまち」の割合が高く、20歳代、30歳代では「子育て支援が充実したまち」の割合が高くなっている。

(%)

	保健・医療・福祉の充実したまち	児童・生徒の教育環境が充実したまち	生涯学習や文化芸術・スポーツ活動が活発なまち	安全・安心な住環境の整備を優先するまち	子育て支援が充実したまち	美しい自然環境や景観が誇れるまち	産業振興や製造業発展を後押しするまち	商業の振興を推進するまち	農業や農村環境を大切に守り育てるまち	観光や交流事業を進めるまち	AI(人工知能)・IoT(モノターターネット)の導入等、先進的な取組を進めるまち	住民と行政が協働して取り組むまち	持続可能なまちづくりを進めるまち	その他	合計
10歳代(9)	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	100
20歳代(117)	9.4	14.5	7.7	10.3	19.7	6.8	1.7	6.8	5.1	4.3	3.4	5.1	3.4	1.7	100
30歳代(437)	20.1	19.7	2.7	10.5	23.3	4.6	1.6	3.0	3.2	1.6	3.7	1.8	3.4	0.7	100
40歳代(627)	19.8	17.4	3.7	15.2	17.5	4.6	3.3	2.6	3.3	1.8	3.7	1.6	4.8	0.8	100
50歳代(686)	20.8	10.2	3.6	17.5	10.8	6.4	4.7	2.5	5.1	4.4	3.8	4.7	4.5	1.0	100
60歳代(1413)	23.1	11.8	3.8	16.4	10.6	6.5	4.2	2.1	5.4	1.6	2.1	6.8	5.2	0.4	100
70歳以上(2183)	23.8	9.9	4.6	17.9	6.2	7.9	3.7	2.2	6.1	1.6	2.4	9.1	4.4	0.3	100

第6次桂川町総合計画策定のための まちづくり住民アンケート ご協力をお願い

日ごろ、まちづくりにご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

本調査は、今後10年間（令和3年度から令和12年度）のまちづくりの指針となる「第6次桂川町総合計画」の策定にあたり、町民の皆さまのお考えやご意見を把握するとともに、計画に反映するために実施するものです。

ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、よりよい桂川町の将来を考えるために、ご協力をお願いします。

- ・本調査は、本町に住民登録（令和2年7月1日現在）されている全世帯を対象にお願いしております。
- ・世帯主の方が回答できない場合は、ご家族の方がお答えいただいても結構です。
- ・ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理し、個々の方が特定できるような形での公表や、調査の目的以外の使用はいたしません。
- ・皆さまからいただいたご意見は、今後のまちづくりに活かしていきます。

令和2年7月

桂川町長 井上利一



古代くん

ご記入いただきましたアンケートは

令和2年7月31日（金）までに、

同封の返信用封筒に入れて、（切手を貼らずに）投函してください。



未来ちゃん

<総合計画とは>

市町村がまちの将来の姿を想定し、それを実現していくための様々な施策を示す計画であり、これをもとに人口対策、健康・福祉、教育・文化、生活環境、都市基盤、産業振興等の様々な分野にわたる事業を推進していくことになります。

まちの未来を描く、大切な計画となりますので、ぜひ皆様のご意見等をお聞かせください。

【調査に関する問い合わせ先】

桂川町役場 企画財政課 企画調整広報係 TEL：0948-65-1085

あなたご自身のことについて

問1 あなたのことについてお聞きします。【各項目、それぞれ1つだけに○】

(1) 性別	1. 男性	2. 女性			
(2) 年齢 (令和2年7月1日現在)	1. 10歳代 2. 20歳代	3. 30歳代 4. 40歳代	5. 50歳代 6. 60歳代	7. 70歳以上	
(3) 居住地区	1. 土居一 2. 土居二 3. 土居三 4. 吉隈一 5. 吉隈二 6. 吉隈三 7. 瀬戸 8. 寿命	9. 中屋 10. 豆田 11. 九郎丸 12. 内山田 13. 土師一 14. 土師二 15. 土師三 16. 土師四	17. 土師五 18. 土師六 19. 土師七 20. 土師八 21. 土師九 22. 土師十 23. 第一豆田 24. 貴船	25. 弥栄 26. 笹尾一 27. 笹尾二 28. 天道 29. 二反田 30. 椿 31. 平山一 32. 平山二	33. 泉ヶ丘団地 34. 桂ヶ丘 35. グレイソヒルズ 36. 吉隈本町 37. わからない
(4) 居住年数	1. 5年未満 2. 5～10年未満	3. 10～20年未満 4. 20～30年未満	5. 30年以上		
(5) 以前の居住地	1. 桂川町に生まれてからずっと住んでいる 2. 桂川町出身だが、町外での居住経験がある 3. 県内の他の市町村から転入してきた 4. 県外から転入してきた				
(6) 同居する家族構成	1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居（親と子）	4. 三世帯同居（親と子と孫） 5. その他（ ）			
(7) 現在お住まいの住宅	1. 一戸建て（持ち家） 2. 賃貸住宅・アパート	3. 公的賃貸住宅（町営住宅・県営住宅） 4. その他（ ）			
(8) 職業	1. 農林水産業 2. 自営業（商工サービス業） 3. 会社員 4. 公務員 5. パート・アルバイト	6. 家事従事者 7. 学生 8. 無職 9. その他			
(9) 勤務先・就学先	1. 桂川町内 2. 飯塚市 3. 嘉麻市	4. 福岡市 5. 北九州市 6. その他の福岡県内	7. 福岡県外 8. 勤務又は就学していない		
(10) 通勤・通学の 交通手段 ※主なもの <u>1つに○</u>	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク	4. 自家用車（送迎を含む） 5. バス 6. 鉄道	7. 自家用車と鉄道 8. バスと鉄道		

住みやすさ等について

問2 あなたは、桂川町にお住まいになって、どのように感じていますか。【1つに○】

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 住みやすい | □ → 【問3】へ |
| 2. どちらかといえば住みやすい | |
| 3. どちらかといえば住みにくい | □ → 【問4】へ |
| 4. 住みにくい | |
| 5. どちらともいえない | |

問3 ※【問2】で「1・2」と答えた方におたずねします。

住みやすい理由は何ですか。【2つまでに○】

- | |
|--------------------------|
| 1. 自然環境が豊か |
| 2. 買い物等が便利 |
| 3. 道路や交通の利便が良い |
| 4. 行事、近所づきあいが楽しい |
| 5. 子育て・教育環境が良い |
| 6. 通勤・通学が便利 |
| 7. 医療、福祉施設が充実している |
| 8. スポーツ、レジャー、文化施設が充実している |
| 9. 住宅地が確保しやすい |
| 10. その他 () |

問4 ※【問2】で「3・4」と答えた方におたずねします。

住みにくい理由は何ですか。【2つまでに○】

- | |
|-----------------------|
| 1. 自然環境が悪い |
| 2. 買い物等が不便 |
| 3. 道路や交通が不便 |
| 4. 行事、近所づきあいが面倒 |
| 5. 子育て・教育環境が不十分 |
| 6. 通勤・通学が不便 |
| 7. 医療、福祉施設が不足 |
| 8. スポーツ、レジャー、文化施設が少ない |
| 9. 適当な住宅地が確保しにくい |
| 10. その他 () |

結婚について

問11 未婚者への結婚支援事業として、桂川町はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。

【 3つまでに○ 】

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 安定した雇用の支援 | 6. 結婚を推奨するPR |
| 2. 婚活イベント等による出会いの場の提供 | 7. 若い世代に向けた結婚に関する講習会 |
| 3. 若い夫婦への住まいの支援 | 8. 交際術やマナー等を学ぶ講座 |
| 4. 結婚祝い金等の経済的支援 | 9. その他 () |
| 5. 結婚相談窓口 (仲介) | 10. 行政が取り組む必要はない |



まちづくりの満足度と重要度について

問12 桂川町では、「協働で未来(夢)を拓く～笑顔あふれるまち“けいせん”」を将来像とする第5次桂川町総合計画(平成23年3月)を定め、まちづくりを進めてきましたが、その主な取り組みについて、現在、どのくらい満足していますか。また、今後、どのくらい重要だと思いますか。【それぞれ1つだけに○】

各項目に対して
1つ選んでください

各項目に対して
1つ選んでください

項 目		現状の満足度				これからのまちづくりの重要度			
		1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	A とても重要である	B 重要である	C あまり重要でない	D 重要ではない
回答例		1	2	3	4	A	B	C	D
住民参画	1. 住民参画によるまちづくりの推進	1	2	3	4	A	B	C	D
	2. コミュニティ活動への支援	1	2	3	4	A	B	C	D
	3. 地域で支え合うための福祉活動やボランティア活動等への支援	1	2	3	4	A	B	C	D
健康・福祉・人権	4. 健康診断等、保健サービスの提供や地域医療体制の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	5. 高齢者の健康維持や介護への取組	1	2	3	4	A	B	C	D
	6. 高齢者の生きがいづくりや社会参画への取組	1	2	3	4	A	B	C	D
	7. 子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	8. 障がい者の就労や社会参画への取組	1	2	3	4	A	B	C	D
	9. 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	A	B	C	D
	10. 人権啓発活動の推進	1	2	3	4	A	B	C	D

項 目		現状の満足度				これからのまちづくりの重要度			
		1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	A とても重要である	B 重要である	C あまり重要でない	D 重要ではない
教育・文化	11. 生涯学習機会の充実	1	2	3	4	A	B	C	D
	12. スポーツ活動の機会の充実	1	2	3	4	A	B	C	D
	13. 学校教育の充実	1	2	3	4	A	B	C	D
	14. 学校教育施設の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	15. 学校・家庭・地域の一体的な教育体制の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	16. 国際交流や地域資源を活かした地域間交流の推進	1	2	3	4	A	B	C	D
	17. 芸術・文化活動の充実	1	2	3	4	A	B	C	D
	18. 文化財の保護と活用	1	2	3	4	A	B	C	D
環境	19. 公園・緑地の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	20. 環境保全・ふるさと景観づくり	1	2	3	4	A	B	C	D
	21. 安全でおいしい水の安定した提供	1	2	3	4	A	B	C	D
	22. 生活排水の処理対策	1	2	3	4	A	B	C	D
	23. ごみ処理対策やリサイクルの推進	1	2	3	4	A	B	C	D
都市基盤	24. 駅周辺等の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	25. 道路網の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	26. 公共交通の利便性の向上	1	2	3	4	A	B	C	D
	27. 公営住宅の整備や定住促進を図る取組	1	2	3	4	A	B	C	D
	28. ケーブルテレビやネット環境等情報化の推進	1	2	3	4	A	B	C	D
	29. 火災や災害に対する体制の整備	1	2	3	4	A	B	C	D
	30. 防犯や危険箇所への対策の整備	1	2	3	4	A	B	C	D

項 目		現状の満足度				これからのまちづくりの重要度			
		1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	A とても重要である	B 重要である	C あまり重要でない	D 重要ではない
産業	31. 農業の振興	1	2	3	4	A	B	C	D
	32. 商工業の振興	1	2	3	4	A	B	C	D
	33. 観光の振興	1	2	3	4	A	B	C	D
	34. 就労相談等雇用促進の支援	1	2	3	4	A	B	C	D
行政	35. 広報・広聴活動の充実	1	2	3	4	A	B	C	D
	36. 桂川町の知名度向上の取り組み	1	2	3	4	A	B	C	D
	37. 効率的な行財政運営の推進	1	2	3	4	A	B	C	D
	38. 公共施設の持続的な利活用	1	2	3	4	A	B	C	D

問16 あなたが、今後参加したいと思う活動、あるいは今後必要と思う活動はどんなものがありますか。【 2つまでに○ 】

1. 地域におけるコミュニケーションを目的とした活動
2. 子どもたちの健全育成のための活動
3. 福祉ボランティア活動
4. 環境美化・自然保護活動
5. 不用品の回収及びリサイクル活動
6. 伝統行事・文化の継承・保存活動
7. その他 ()
8. 特になし

問17 あなたの近所づきあいは、どの程度ですか。【 1つに○ 】

1. 家族ぐるみで付き合いのある隣近所がある
2. 留守にするときなどに、用事を頼める隣近所がある
3. 顔を合わせれば、たまに立ち話をする隣近所がある
4. 隣近所の人は知っているが、声をかけたことはほとんどない
5. 隣近所の人は、ほとんど顔も知らない
6. その他 ()

問18 支え合う地域づくりを進めるために、今後何が必要だと思いますか。【 1つに○ 】

1. 地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと
2. 支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること
3. 自治会等の地域活動やボランティア活動への参加を促すこと
4. 地域で活動する様々な団体相互の交流を進めること
5. その他 ()

生活環境について

問23 生活環境を改善しようとする場合、特にどのような施設の整備が必要だと思いますか。
【 2つまでに○ 】

1. 道路の拡幅・舗装
2. 道路の側溝の整備
3. 歩道の整備
4. ガードレール等の交通安全施設
5. 水道施設
6. 下水道や排水施設
7. 公園や子どもの遊び場
8. 街路灯・防犯灯
9. 診療所等、身近な医療施設
10. 河川の整備
11. 行政区の集会施設等
12. 運動広場等
13. 商店・スーパー・コンビニ等
14. 防火水槽等の防火施設
15. ごみ集積場
16. その他 ()
17. 特になし

問24 地域の自然環境の保全や生活環境を美しくするため、町として、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【 2つまでに○ 】

1. 地域の清掃活動や自然保護活動を支援する
2. 道路・河川等の美化の支援
3. ごみの減量化やリサイクル活動、あるいはごみのポイ捨て防止等の啓発活動の積極的な推進
4. 地域の美化活動や花いっぱい運動等の推進
5. ごみの不法投棄の防止等の取組み
6. 水質保全・浄化のための整備（合併処理浄化槽等含む）
7. 屋外広告物の規制等まちなみの景観保全の取組み
8. 騒音や悪臭等の公害防止の推進
9. その他 ()
10. 特になし

王塚古墳について

問30 王塚古墳について知っていますか。【1つに○】

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. よく知っている | 3. 名前は知っているが内容は知らない |
| 2. 多少は内容を知っている | 4. 知らない |

問31 王塚古墳を活かしたまちづくりを行う中で、どのような取り組みをすべきだと思いますか。
【あてはまるものすべてに○】

- | |
|------------------------------------|
| 1. 王塚古墳の完全復元や公開日数の増加などを含めた新しい整備を行う |
| 2. 町内の文化財も含めた、新たな王塚古墳の魅力の創出 |
| 3. 郷土愛を深めるため、学校などの教育の場としての利用 |
| 4. 王塚古墳の魅力を発信し、観光事業への展開 |
| 5. 企業と連携したイベントの開催やグッズ作成 |
| 6. その他 () |
| 7. 特になし |

広域事業の推進について

問32 まちづくりを進めるにあたって、周辺自治体と連携を図って広域的に事業を進めることについて、あなたはどのように思いますか。【1つに○】

- | |
|--|
| 1. 広域的に取り組むことが効果的な事業については、周辺自治体と連携を図ってなるべく多くの分野で広域的事業を推進した方が良い |
| 2. 地方分権の進展や道州制を踏まえると、小規模な自治体では効果的な事業展開は難しいので、近隣市との合併は必要だと思う |
| 3. 行財政改革を推進し、現状を維持した方が良い |
| 4. その他 () |
| 5. わからない |

**第6次桂川町総合計画策定のためのまちづくり住民アンケート
報告書**

発行／令和2年（2020年）9月
発行者／福岡県 嘉穂郡 桂川町
問合せ先／桂川町役場 企画財政課 企画調整広報係
〒820-0696 福岡県嘉穂郡桂川町大字土居 424 番地 1
TEL (0948) 65-1085
FAX (0948) 65-3424
